

令和2-6年度

東日本大震災・原子力災害伝承館 調査・研究部門成果報告集

FY2020 - 2024 Report of Research Office,
The Great East Japan Earthquake and Nuclear Disaster Memorial Museum



東日本大震災・原子力災害伝承館
The Great East Japan Earthquake and Nuclear Disaster Memorial Museum

東日本大震災・原子力災害伝承館 調査・研究部門成果報告集 目次

○ 調査・研究部門概要

- 1 目的及びミッション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 研究体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

○ 研究活動実績

- 1 業績件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2 業績リスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

○ 調査・研究部門概要

1. 目的及びミッション

伝承館では、主要4事業（※）の1つとして、「調査・研究事業」を行っています。蓄積した研究成果については、伝承館の「研修」や「展示・プレゼンテーション」に反映させることを通じ、多くの方へ福島における原子力災害の教訓や現状を発信するとともに、収集した資料の体系化を図ることにより、福島の経験を後世に継承する「知の交流拠点」としての役割を果たしていく。

調査・研究事業の目的は復興を担う人材の育成を行い、被災地の復興を加速させるとともに、今後発生することが否定できない国内外の災害に対する防災・減災に寄与することである。

この目的を達成するため、3つのミッションを設定し、研究事業を推進している。

※ 主要4事業…資料の収集・保存、展示・プレゼンテーション、研修及び調査・研究

【目的を達成するためのミッション】

1 教訓の体系化

伝承館では、複合災害、特に原子力災害とそこからの復興過程に関する実態に係る資料を収集し、調査・研究を俯瞰的に行い体系化し、そこから得られる教訓の抽出を通じ、復興及び減災に寄与します。

2 教訓の発信

伝承館に蓄積・体系化された教訓を広く世界に還元するため、積極的な情報発信や調査・研究成果をもとにした専門的研修プログラムの構築や展示・プレゼンテーション事業への反映等広く発信します。

3 研究者の育成

大規模災害、広域災害・複合災害、特に原子力災害研究と復興研究の先駆者として、新たな知の体系化と、その学術的価値の確立を先導していく研究者、防災、減災、復興を担う人材を育成するとともに、広く福島に関心を抱く方々が集い学ぶことのできる知の拠点としての役割を果たします。

2. 研究体制

伝承館における調査・研究事業は、これまで様々な分野で福島に係る研究を行ってきた館長及び上級研究員に常任研究員を加えた「文理融合」の研究体制により進めている。常任研究員に対しては館長・上級研究員がアドバイザーとなり、研究等のサポート・実績の管理を行っている。

また、全国の大学等の研究機関や国際機関、地元自治体、企業等との共同研究やシンポジウム開催等の連携を通じ、福島に想いを寄せる方々が集う拠点としての役割を果たしている。

(1) 館長：1名

- ・高村昇（令和2年度～）

長崎大学原爆後障害医療研究所 国際保健医療福祉学研究分野 教授

(2) 上級研究員：3名

- ・安田仲宏（令和2年度～）

福井大学附属国際原子力工学研究所 原子力災害・危機管理部門 教授

- ・関谷直也（上級研究員）（令和2年度～）

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 教授

- ・開沼博（上級研究員）（令和2年度～）

東京大学大学院情報学環 准教授

(3) 常任研究員：5名

- ・大杉遥（令和5年度～）

- ・葛西優香（令和4年度～6年度）

- ・静間健人（令和4年度～6年度）

- ・山田修司（令和4年度～6年度）

- ・青砥和希（令和4年度～5年度）

(4) 客員研究員：

- ・難波謙二（令和3年度～）

福島大学共生システム理工学類 教授

- ・松永妃都美（令和3年度～）

長崎大学原爆後障害医療研究所 准教授

- ・原田眞理（令和3年度～）

玉川大学教育学部 教授

- ・折田真紀子（令和4年度～令和5年度）

長崎大学原爆後障害医療研究所 准教授

- ・柏崎佑哉（令和4年度～）

長崎大学原爆後障害医療研究所 助教

- ・Stephen Takeshi Terada（令和6年度～）

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 放射線医療科学専攻 大学院生

- ・鳥居建男（令和3年度～）

福井大学附属国際原子力工学研究所 特命教授

（兼）福島大学環境放射能研究所 特任教授

- ・田川明広（令和3年度～）

日本原子力研究開発機構 福島廃炉安全工学研究所

櫛葉遠隔技術開発センター センター長代理

- ・Olena Pareniuk（令和3年度～）

ウクライナ国立生命環境科学大学

- ・天野和彦（令和3年度～）

福島大学人間発達文化学類 特任教授

- ・桶田敦（令和3年度～令和4年度）

- ・越山健治（令和3年度～）

関西大学社会安全学部 教授

- ・小松理虔（令和3年度～令和4年度）

ヘキレキ舎 代表

- ・小山良太（令和3年度～）

福島大学農学群食農学類 教授

- ・佐藤翔輔（令和3年度～）

東北大学災害科学国際研究所 准教授

- ・菅野拓（令和3年度～）

大阪公立大学大学院文学研究所 准教授

- ・丹波史紀（令和3年度～）

立命館大学産業社会学部 教授

- ・永松伸吾（令和3年度～）

関西大学社会安全学部 教授

- ・除本理史（令和3年度～）

大阪公立大学大学院経営学研究科 教授

- ・緒方太郎（令和5年度～）

フリージャーナリスト

- ・安本真也（令和5年度～）

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 特任助教

- ・遠藤健（令和3年度～）

東京大学大学院情報学環 特任講師

- ・小沢晴司（令和3年度～）

宮城大学 教授

- ・久保田彩乃（令和3年度～令和5年度）

福島大学 教育推進機構高等教育企画室 特任助教

東北大学 大学院情報科学研究科 人間社会情報科学専攻 博士課程後期

- ・定松淳（令和3年度～令和5年度）

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部

附属教養教育高度化機構（科学技術コミュニケーション部門） 特任准教授

- ・竜田一人（令和3年度～）

漫画家

- ・中山千尋（令和3年度～）

福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座 博士研究員

- ・林智裕（令和3年度～）
ライター/ジャーナリスト/fukunomo(フクノモ)アンバサダー
- ・水野義之（令和3年度～）
京都女子大学 名誉教授
- ・吉田久仁子（令和5年度～）
和泉短期大学 准教授
- ・門馬健（令和6年度～）
東京大学大学院情報学環 特任研究員

○ 研究活動実績

1. 業績件数

	書籍等	論文	学会報告	外部資金
令和2年度	0	39	9	7
令和3年度	5	20	13	8
令和4年度	2	25	34	7
令和5年度	1	27	72	9
令和6年度	2	34	75	14

2. 業績リスト

■令和2年度

1 外部研究費の獲得状況

- (1) 高村昇、環境省・放射線の健康影響に係る研究調査事業「大熊町、富岡町におけるリスクコミュニケーションを通じたリスク認知、メンタルヘルスの経時的変化の評価」2020年4月～2023年3月〔主任研究者〕
- (2) 高村昇、日本学術振興会・国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「チェルノブイリから福島を知る～甲状腺超音波所見の自然史」2018年4月～2023年3月〔研究代表者〕
- (3) 関谷直也、日本学術振興会・課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業「グローバルな視座から見た原子力災害後のコミュニケーションに関する総合的研究」2020年～2022年〔研究代表者〕
- (4) 関谷直也、日本学術振興会・科学研究費助成事業（基盤研究(A)）「福島第一原子力発電所事故を教訓とした大規模緊急広域避難対策に関する社会情報学研究」2016年～2020年〔研究代表者〕
- (5) 関谷直也、日本学術振興会・科学研究費助成事業（基盤研究(A)）「水害時における避難行動理論の構築」2018年～2020年（研究代表者：東京大学・片田敏孝）〔研究分担者〕
- (6) 関谷直也、日本学術振興会・科学研究費助成事業（基盤研究(B)）「将来事象予見型の新しい被害予測技術「リアルタイム物理・社会現象予測AI」の開発」2020年～2022年（研究代表者：東京大学・廣井悠）〔研究分担者〕
- (7) 関谷直也、日本学術振興会・科学研究費助成事業（基盤研究(B)）「実効性ある偽情報・誤情報対応策としてのファクトチェック・システムの構築」2019年～2022年（研究代表者：早稲田大学・瀬川至朗）〔研究分担者〕

2 書籍（単著・分担執筆含む）

3 論文

- (1) Taira Y, Matsuo M, Yamaguchi T, Yamada Y, Orita M, Takamura N. Radiocesium levels in contaminated forests has remained stable, even after heavy rains due to typhoons and localized downpours after heavy rains due to typhoons and localized downpours. *Sci Rep* 10(1):19215, 2020.
- (2) Orita M, Mori K, Taira Y, Yamada Y, Maeda M, Takamura N. Psychological health status among former residents of Tomioka, Fukushima Prefecture and their intention to return eight years after the disaster at Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *J Neural Transm (Vienna)* 127(11):1449-1454, 2020.
- (3) Orita M, Taira Y, Matsunaga H, Maeda M, Takamura N. Quality of life and intention to return among former residents of Tomioka town, Fukushima prefecture 9 years after the Fukushima nuclear disaster. *Int J Environ Res Public Health* 17(18): E6625, 2020.
- (4) Cui L, Orita M, Taira Y, Takamura N. Radiocesium concentrations in mushrooms collected in Kawauchi Village five to eight years after the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident. *PLoS One* 15(9):e0239296, 2020.
- (5) Matsunaga H, Orita M, Taira Y, Kudo T, Kondo H, Yamashita S, Takamura N. Intention to return and perception of the health risk due to radiation exposure among residents in Tomioka Town, Fukushima Prefecture stratified by gender and generation. *Disaster Med Public Health Prep* 35(2):235-236, 2020.
- (6) Cui L, Taira Y, Matsuo M, Orita M, Yamada Y, Takamura N. Environmental remediation of the difficult-to-return zone in Tomioka Town, Fukushima Prefecture. *Sci Rep* 10(1):10165, 2020.
- (7) Cui L, Orita M, Taira Y, Takamura N. Radiocesium concentrations in wild boars captured within 20 km of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *Sci Rep* 10(1):9272, 2020.
- (8) Matsunaga H, Orita M, Taira Y, Takamura N. Intention to return in residents of Tomioka, Fukushima Prefecture, Japan stratified by sex after the accident at Fukushima Daiichi Nuclear Power Station. *Prehosp Disaster Med* 26:1-2, 2020.
- (9) Croûail P, Schneider T, Gariel J, Tsubokura M, Naito W, Orita M, Takamura N. Analysis of the modalities of return of populations

to the contaminated territories following the accident at the Fukushima power plant. Radioprotection 55:79-93, 2020.

- (10) K. Nagashima and N. Yasuda, Study on the decision-making of the protective action for residents at the early phase of nuclear disaster, Journal of Nuclear Science and Technology, Vol. 57, No. 9, 1035-1045, 2020.
- (11) 関谷直也、インフォデミックにどう立ち向かうのか、リスクマネジメント TODAY、vol.120 : 14-17、2020
- (12) 関谷直也、危機時に問われる政府の説明責任とは、月刊公明、2020 年 6 月号 : 17-23、2020
- (13) 関谷直也、コロナ差別・偏見と報道を考える、月刊民放、2020 年 7 月号 : 6-9、2020
- (14) 関谷直也、新型コロナウイルスと流言、月刊健康教室、2020 年 8 月号 : 1、2020
- (15) 関谷直也、都市伝説と「互助」、月刊 NOSAI、2020 年 8 月号 : 101-104、2020
- (16) 関谷直也、大雨警戒レベルの理解促進を：「全員避難」との組み合わせが生んだ混乱（台風 19 号による豪雨災害と報道）、新聞研究 No. 821 : 16-19、2020
- (17) 関谷直也、メディアの変化と「想定」「検証」「伝承」、月間民放、2021 年 3 月号 : 36-40、2021
- (18) 安本真也・横田崇・牛山素行・石黒聡士・関谷直也、平成 30 年 7 月豪雨における西予市での住民の避難行動と避難の意思決定構造、自然災害科学 vol. 39、特別号 : 71-85、2020 【査読論文】
- (19) 安本真也・石濱陵・森野周・関谷直也、「南海トラフ地震に関連する情報」に対する住民の反応、災害情報 No. 18-1 : 95-105、2020 【査読論文】
https://doi.org/10.24709/jasdis.18.1_95
- (20) 安本真也・石濱陵・森野周・関谷直也、南海トラフ地震および「南海トラフ地震に関連する情報」への対応：静岡市と高知市の住民アンケート調査より、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編 36:107-153、2020
<https://doi.org/10.15083/00079072>
- (21) 安本真也・田中淳・関谷直也、自治体による漁港を中心とした漁業地域における津波対策の現状、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編 36 : 67-105、2020
<https://doi.org/10.15083/00079071>
- (22) 丹波史紀・佐藤慶一・サトウタツヤ・清水晶紀・関谷直也・廣井悠・除本理史・安本真也、東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態—2017 年第 2 回双葉郡住民実態調査—、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編 36 : 1-65、2020

<https://doi.org/10.15083/00079070>

- (23) 安本真也・横田崇・関谷直也、平成 30 年 7 月豪雨における野村ダム放流時の西予市消防団の対応、愛知工業大学地域防災研究センター 年次報告書 16 : 37-43、2020
- (24) 安本真也・横田崇・牛山素行・石黒聡士・関谷直也、平成 30 年 7 月豪雨における西予市での住民の避難行動と避難の意思決定構造、自然災害科学 39、特別号 : 71-85、2020 【査読論文】
https://doi.org/10.24762/jnds.j.39.S07_71
- (25) 関谷直也、「停電」と危機管理、電気学会誌、vol. 140 No. 12 : 778-781、2020 【依頼論文】
<https://doi.org/10.1541/ieejjournal.140.778>
- (26) 関谷直也、避難の行動科学、土木学会誌、vol. 105 No. 12 : 778-781、2020 【依頼論文】
- (27) 関谷直也、東日本大震災 10 年の海外からの風評被害—近隣諸国の輸入規制の問題を中心に、日本アイソトープ協会、Isotope News No. 773、2020 【依頼論文】
- (28) 佐藤慶一・丹波史紀・関谷直也・除本理史、福島原子力発電所事故後の双葉郡住民の精神的健康状態の社会的要因—2017 年第 2 回双葉郡住民実態調査の分析—、地域安全学会論文集 37 : 97-108、2020 【査読論文】
<https://doi.org/10.11314/jisss.37.97>
- (29) 関谷直也、誰が「避難」するのか／誰のための「避難」なのか、災害情報 No. 18-2 : 153-158、2020 【依頼論文】
https://doi.org/10.24709/jasdis.18.2_153
- (30) 関谷直也・田中淳、日本海の地震・津波に関する予知・想定に対する認識に関する調査研究、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編 37 : 189-234、2021
<https://doi.org/10.15083/0002000154>
- (31) 安本真也・横田崇・牛山素行・石黒聡士・関谷直也、平成 30 年 7 月豪雨における災害情報と住民の避難行動、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編 37 : 151-187、2021
<https://doi.org/10.15083/0002000153>
- (32) 安本真也・河井大介・齋藤さやか・関谷直也、パネル調査に基づくドラマ「パラレル東京」の効果—首都直下地震への対策—、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編 37 : 73-150、2021
<https://doi.org/10.15083/0002000152>
- (33) 石橋真帆・安本真也・朱心怡・岩崎雅宏・関谷直也、2020 年新型コロナウイルス感染症拡大初期の情報行動と社会心理、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編 37 : 1-72、2021
<https://doi.org/10.15083/0002000151>

- (34) 石橋真帆・安本真也・岩崎雅宏・石川俊之・藁谷峻太郎・関谷直也、新型コロナウイルス感染症への不安と情報行動の関連性、災害情報 19:73-83、2021【査読論文】
https://doi.org/10.24709/jasdis.19.1_73
- (35) 石橋真帆・関谷直也、新型コロナウイルス感染症に関する流言流布の実態と心理的要因、リスク学研究 31 (2) : 123-132、2021【査読論文】
<https://doi.org/10.11447/jjra.SRA-0371>
- (36) 関谷直也、コロナと広告、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究 100 : 163-167、2021
<https://doi.org/10.15083/0002000149>
- (37) 安本真也・河井大介・齋藤さやか・関谷直也、パネル調査に基づくドラマ「パラレル東京」の効果—首都直下地震への対策—、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編 37 : 73-150、2021
- (38) 開沼博、転換期に意識すべき「三つのポイント」-10年目の3.11、Voice (508) : 102-108、2020
- (39) 開沼博、同時多発災害の脅威 その時ライフラインは!?危機管理 真の不確実性を認識し戦略を 不可欠な社会と情報の関係整理、エネルギーフォーラム (787)、2020

4 学会報告（口頭発表、ポスター発表）

- (1) N. Yasuda, New emergency response education curriculum: Experiences and lessons learned from the TEPCO Fukushima Daiichi NPP Accident (Online), 2nd Scientific International Conference on CBRNe, 2020/Dec/10.
- (2) 関谷直也、風評問題、トリチウム・処理水問題における生産・流通・消費の課題、日本協同組合学会第 40 回大会シンポジウム『不確実な時代における地域社会と協同組合一震災原発事故から 10 年の福島と協同組合の歩みを踏まえて—』（2020 年 8 月 29 日、福島大学【招待有】）
- (3) 安本真也・河井大介・齋藤さやか・関谷直也、首都直下地震に関する防災啓発番組による知識獲得—知識ギャップ仮説に着目して—、日本心理学会第 84 回大会（2020 年 9 月 8 日～11 月 2 日、オンライン）
- (4) 齋藤さやか・安本真也・関谷直也、地震対策意図と心理的背景—地震動予測地図に関するプレ意識調査からの検討、地域安全学会第 47 回研究発表会（秋季）（2020 年 10 月 20 日、オンライン）
- (5) 石橋真帆・安本真也・岩崎雅宏・石川俊之・藁谷峻太郎・関谷直也、コロナ禍における不安感と感染防止行動の実態—東京都外出自粛要請後における調査研究—、日本リスク研究学会第 33 回年次大会（2020 年 11 月 22 日、オンライン）

- (6) Naoya Sekiya, 2020, Stigma and Reputational Damage After the Triple Disaster, ICRP International Conference on Recovery After Nuclear Accidents, Radiological Protection Lessons from Fukushima and Beyond, December 1 – 18, 2020(online). 【招待有】
- (7) 安本真也・河井大介・齋藤さやか・関谷直也、首都直下地震に関するイメージの変化：自由記述結果からみるドラマ「パラレル東京」の効果、日本災害情報学会第22回学会大会（2020年11月28日、オンライン）
- (8) 関谷直也、原子力災害研究と東日本大震災・原子力災害伝承館の今後の取り組み－東日本大震災と原子力災害の伝承、日本学術会議主催学術フォーラム第11回防災学術連携シンポジウム「東日本大震災からの十年とこれから－58学会、防災学術連携体の活動－」（2021年1月14日、オンライン）【招待有】
- (9) 関谷直也、福島における風評被害－10年目の風評被害の実態と対策－、福島復興に向けたこの10年、放射線安全フォーラム（2021年3月28日、オンライン）

5 受賞歴

- (1) 関谷直也、Yahoo!ニュース 個人「月間 MVA (Most Valuable Article)」
(2020年3月)

6 社会貢献活動等

(1) 出前講義

- ・ 安田仲宏、若狭湾青少年自然の家、「災害と危機管理（原子力防災）」(2020年6月23日)
- ・ 安田仲宏、常盤小学校「防災のおはなし」(2020年8月27日)
- ・ 安田仲宏、環境エネルギー教育支援事業、敦賀工業高等学校「エネルギーの生成と利用」(2020年11月20日)
- ・ 安田仲宏、環境エネルギー教育支援事業、敦賀高等学校「エネルギーの生成と利用」(2020年12月2日)
- ・ 安田仲宏、令和2年度地域と学校が連携した防災教育事業・講演会、茨城県県北生涯学習センター「原子力防災と放射線」(2021年2月2日)

(2) 講演

- ・ 安田仲宏、東邦大学「医学への応用2－放射線の物理学」(2020年7月15日)
- ・ 安田仲宏、福井県防災士養成研修、福井県庁「災害と危機管理（原子力防災）」(2020年9月5日)
- ・ 安田仲宏、防災業務関係者研修カリキュラム社会福祉施設等関係者向け研修、北海道庁「災害に備える（原子力災害と放射線）」(2020年9月15日)

- ・ 安田仲宏、自治体関係者向け原子力防災講演会、日本原電「原子力防災と放射線」、(2020年9月27日)
- ・ 安田仲宏、大分県職員・県内自治体職員向け原子力災害対策に関する研修会「原子力防災と放射線」、大分県庁危機管理室(2020年10月12日)
- ・ 安田仲宏、福井県防災士養成研修、福井県庁「災害と危機管理(原子力防災)」(2020年11月1日)
- ・ 安田仲宏、全国自治体職員対象原子力研修講座、原子力文化財団「原子力防災と放射線」(2020年11月25日)
- ・ 安田仲宏、福井県防災士養成研修、福井県庁「災害と危機管理(原子力防災)」(2020年12月6日)
- ・ 安田仲宏、研究成果発表会、東日本大震災・原子力災害伝承館「伝承館での活動」(2020年3月13日)
- ・ 関谷直也、令和2年度(第68回)河川講習会(オンライン)【特別講演】「災害情報と避難行動」(2021年2月15日)
- ・ 関谷直也、浜松市南区防災講演会【講演】「南海トラフにどう備えるか? -東日本大震災から10年 改めて防災を考える-」(2021年2月27日)
- ・ 関谷直也、東日本大震災発災10年オンラインシンポジウム、復興庁【招待講演】「原子力災害から得られた知見」(2021年3月11日)

(3) 企画・運営等

- ・ 関谷直也、日本災害情報学会・大会委員長

7 メディア

- (1) 安田仲宏、電気新聞「茨城県教委、原子力災害で講演会「正しい情報、学習必要」」(2021年2月12日)
- (2) 安田仲宏、福島民報「震災原発事故の研究報告 双葉の伝承館 防災へ成果発表」(2021年3月16日)
- (3) 安田仲宏、NHK「原子力防災のカギ 屋内退避(おはよう日本)」(2021年3月22日)
- (4) 安田仲宏、茨城新聞「原子力防災について考える 災害時は「屋内退避と避難」」(2021年3月23日)
- (5) 安田仲宏、NHK「原発事故10年 屋内退避 課題は(ニュースザウルスふくい クロ福)」(2021年3月25日)
- (6) 安田仲宏、NHK「原発事故10年 屋内退避 課題は」(2021年3月25日)
- (7) 関谷直也、NHK「トイレトペーパーなぜ不足?(おはよう日本)」(2020年4月4日)
- (8) 関谷直也、北日本新聞「<この人に聞きたい> 新型コロナ感染拡大 社会の不安にどう向き合う 災害時の社会心理に詳しい東京大准教授 関

- 谷直也さん（44） 情報不足、流言広める リスク自覚」（2020年4月6日）
- (9) 関谷直也、河北新報「都民、強い「社会不安」／外出自粛要請 一時的に買いだめ発生／震災直後の光景 重なる 新型コロナウイルスへの感染抑制策を受けて、東京都民が物資の調達で翻弄」（2020年4月6日）
- (10) 関谷直也、読売新聞東京「「感染した」過度な不安も」（2020年4月15日）
- (11) 関谷直也、NHK「政府呼びかけ・接触率8割削減 専門家のネットアンケート テレワークの人では8割超」（2020年4月16日）
- (12) 関谷直也、NHK「テレワークで人との接触8割削減（シブ5時）」（2020年4月17日）
- (13) 関谷直也、毎日新聞東京「新型コロナ：新型コロナ 「仕事接触減」5割台 「夜会食」は9割減 東大など調査」（2020年4月24日）
- (14) 関谷直也、NHK「「感染防止行動」調査 “6月末まで続けられる”は65% 若年層ほど減少傾向」（2020年5月2日）
- (15) 関谷直也、毎日新聞大阪「社告：今週のおすすめ紙面 特集 広島からヒロシマへ／そこが聞きたい「情報混乱」／ストーリー 荒木由美子さんと中国」（2020年5月4日）
- (16) 関谷直也、毎日新聞東京「社告：今週のおすすめ紙面 ストーリー 荒木由美子さんと中国／そこが聞きたい「情報混乱」／デジタルVS番外編」（2020年5月4日）
- (17) 関谷直也、NHK「感染者を非難 ネット上に「自粛警察」 専門家「差別生じさせる許されない行為」（2020年5月5日）
- (18) 関谷直也、毎日新聞東京「そこが聞きたい：買い占め、なぜ＝東京大大学院准教授・関谷直也氏」（2020年5月5日）
- (19) 関谷直也、NHK「新型コロナ感染拡大 仕事の接触機会減少に地域差 テレワーク職種が影響か」（2020年5月6日）
- (20) 関谷直也、毎日新聞東京「新型コロナ：「コロナで自殺」はデマ 千葉、高知、山口の3件」（2020年5月6日）
- (21) 関谷直也、朝日新聞東京「（時時刻刻）PCR、ようやく目安緩和 希望者増に備え「体制を」 検査対象、当初は絞った保健所も」（2020年5月9日）
- (22) 関谷直也、徳島新聞「災害とコロナ（5）東大准教授・関谷直也氏 不安の軽減へ情報提供を」（2020年5月9日）
- (23) 関谷直也、岩手日報「災害とコロナ 経験どう生かす 識者に聞く」（2020年5月11日）
- (24) 関谷直也、読売新聞東京「[大震災 再生の歩み] 漁業 復活の潮目は」（2020年5月11日）

- (25) 関谷直也、公明新聞「特集1 新型コロナ収束への方策／特集2 居住支援のあり方を考える（月刊「公明」6月号）」（2020年5月12日）
- (26) 関谷直也、佐賀新聞「＝災害とコロナ 経験どう生かす＝5 関谷直也さん東大准教授 不安軽減へ情報提供を」（2020年5月12日）
- (27) 関谷直也、西日本新聞「新型コロナ 「自粛警察」正義振りかざし＜下＞感染への不安 暴走 「自粛警察」人権侵害や立件 社会的圧力 行政が期待も」（2020年5月13日）
- (28) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「休業解除、助言もとに判断 県、専門家会議設置へ／新潟県」（2020年5月13日）
- (29) 関谷直也、新潟日報「[新型コロナウイルス] 県版専門家会議きょう初会合 知事、対策判断の材料に」（2020年5月15日）
- (30) 関谷直也、公明新聞「（新型コロナ）検証 マスク不足／頼みの中国産、輸入激減／急増する需要に追い付かず」（2020年5月15日）
- (31) 関谷直也、NHKニュース「新型コロナにビッグデータの活用容認 心理学の専門家「プライバシーを守った上で」」（2020年5月17日）
- (32) 関谷直也、NHK「スマホのデータ活用 アンケートでは（ニュース7）」（2020年5月17日）
- (33) 関谷直也、西日本新聞「交通系ICで来館者把握 全国初 北九州市がコロナ対策 感染者と接触疑いなら連絡」（2020年5月19日）
- (34) 関谷直也、京都新聞「災害とコロナ 経験どう生かす（5・完）デマ 関谷直也・東大准教授 不安軽減へ情報提供を」（2020年5月20日）
- (35) 関谷直也、信濃毎日新聞「検証・新型コロナ対策 安倍首相、説明尽くさず 質問打ち切り、記者数も制限 独メルケル氏と対照的」（2020年5月28日）
- (36) 関谷直也、神戸新聞「コロナ禍 8回の会見検証 説明責任 果たさぬ首相 質疑15分で打ち切り、帰宅 再質問拒否、答えちぐはぐ」（2020年5月28日）
- (37) 関谷直也、愛媛新聞「コロナ関連 質問打ち切り・回答せず 首相 説明責任に疑問符 識者苦言「熱意伝わりにくく」」（2020年5月28日）
- (38) 関谷直也、京都新聞「首相 果たさぬ説明責任 「国難」新型コロナ 問われるリーダーの真価」（2020年5月28日）
- (39) 関谷直也、信濃毎日新聞「検証コロナ対策 安倍首相会見／国難なのに説明不十分／質問打ち切り 疑問残ったまま」（2020年5月28日）
- (40) 関谷直也、山陽新聞「感染デマで閉店、中傷 情報の空白埋めようと？ 「自警団」化した市民 （新型コロナ）」（2020年5月29日）
- (41) 関谷直也、秋田魁新報「新型コロナ 感染者巡るデマ横行 ネット掲示板などへの投稿 中傷被害、摘発例も」（2020年5月29日）

- (42) 関谷直也、読売新聞東京「[コロナに思う] 丁寧に発信 市民へ安心 社会心理学者 関谷直也さん 44」 (2020 年 5 月 29 日)
- (43) 関谷直也、宮崎日日新聞「真偽追究 コロナ情報／感染者巡るデマ横行／「自警団」と化し拡散／営業妨害や中傷相次ぐ」 (2020 年 5 月 31 日)
- (44) 関谷直也、中国新聞セレクト「デマ横行 市民が「自警団」化 「感染のうわさ 早く皆に知らせなきゃ」 新型コロナ」 (2020 年 6 月 5 日)
- (45) 関谷直也、静岡新聞「解説・主張 SHIZUOKA＝新型コロナ デマ SNS 上で飛び交う 求められる情報判断力」 (2020 年 6 月 14 日)
- (46) 関谷直也、西日本新聞「真偽追究 コロナ情報＝「感染者が立ち寄った店」 拡散 「自警団」と化した市民／オピニオン」 (2020 年 6 月 23 日)
- (47) 関谷直也、読売新聞東京「原発処理水 海洋放出 議会「反対」 市町村決議・意見書相次ぐ＝福島」 (2020 年 6 月 26 日)
- (48) 関谷直也、北海道新聞「新型コロナ＊不正確な発言 要職者も」 (2020 年 6 月 28 日)
- (49) 関谷直也、読売新聞大阪「[備える 豪雨・台風の教訓] (中) 個人でも避難計画を (連載) ＝大阪」 (2020 年 7 月 8 日)
- (50) 関谷直也、新潟日報「県原発避難委 汚染検査の課題検討 中間報告集約へ」 (2020 年 7 月 14 日)
- (51) 関谷直也、新潟日報「[新型ウイルス] 柏崎刈羽 感染拡大時の原子力災害 「3密」避けどう避難 バスで移動、被ばく検査 計画の見直し必要」 (2020 年 7 月 15 日)
- (52) 関谷直也、東京新聞「気象庁 懐事情「警報」で 「79 億回閲覧HP」に 広告 窮余の策「頼らず防災予算増を」」 (2020 年 7 月 17 日)
- (53) 関谷直也、中日新聞「特報 気象庁HPに民間広告 災害相次ぎ観測強化、財政厳しく 窮余の策 「79 億回閲覧」を活用」 (2020 年 7 月 22 日)
- (54) 関谷直也、新潟日報「[新型ウイルス] 柏崎原発事故時ウイルス対策 政府方針に疑問続出 県避難委 「両立」の実効性懸念」 (2020 年 8 月 12 日)
- (55) 関谷直也、毎日新聞地方新潟「新型コロナ：新型コロナ 感染症対策、先送り 県検証委が影響議論 原発避難／新潟」 (2020 年 8 月 13 日)
- (56) 関谷直也、テレビ朝日「深刻「自殺した」コロナ”デマ”の実態 (スーパーJチャンネル)」 (2020 年 8 月 20 日)
- (57) 関谷直也、テレビ朝日「独自 コロナで自殺? 「事実ではない」 (大下容子ワイド!スクランブル)」 (2020 年 8 月 20 日)
- (58) 関谷直也、朝日放送「コロナ 風評被害相次ぐ 天理大生に不当な扱い (キャスト)」 (2020 年 8 月 20 日)

- (59) 関谷直也、長崎新聞「東日本大震災 9年半 (3) 差別・風評に苦しむ福島／出身地 ずっと隠してきた／神奈川へ避難した女性 中学でいじめ、結婚も苦悩／放射能とコロナ「未知の恐怖」」(2020年9月8日)
- (60) 関谷直也、新潟日報「県原発避難委 事前配布「30キロ圏も必要」ヨウ素剤、指摘相次ぐ」(2020年9月11日)
- (61) 関谷直也、新潟日報「[東日本大震災 福島後の原発考] 柏崎安全確認本格化へ 県技術委事故原因報告書案を了承 避難方法など議論継続」(2020年9月12日)
- (62) 関谷直也、NHK「“関東大震災だけではない” 新型コロナと差別(おはよう日本)」(2020年9月12日)
- (63) 関谷直也、NHK「関東大震災 朝鮮半島出身者の悲劇 語り継ぐ(おはよう日本)」(2020年9月12日)
- (64) 関谷直也、毎日新聞東京「気象庁：気象庁HPに広告 経費削減ですから 命守る情報に「なぜ」 省内外から疑問の声」(2020年9月14日)
- (65) 関谷直也、NHK「G o T o トラベル 専門家「移動する時代 感染情報の名前・基準統一しわかりやすく」」(2020年9月18日)
- (66) 関谷直也、山陰中央新報「原発／原子力安全顧問 メンバーに関谷氏／島根県が委嘱」(2020年9月18日)
- (67) 関谷直也、京都新聞「東日本大震災9年半 フクシマはまだ後回し 偏見・風評の傷、コロナ禍がえぐる(3ページ特集)」(2020年9月22日)
- (68) 関谷直也、北海道新聞「<卓上四季>風評被害」(2020年9月22日)
- (69) 関谷直也、日刊スポーツ東京「自殺数増加…コロナ禍で抱え込まないで」(2020年9月28日)
- (70) 関谷直也、西日本新聞「大分県／「過労死ライン」超37人 豪雨対応の日田市職員／大分・日田玖珠」(2020年10月16日)
- (71) 関谷直也、新潟日報「県原発避難委 屋内退避疑問相次ぐ 複合災害を懸念」(2020年10月18日)
- (72) 関谷直也、毎日新聞地方新潟「柏崎刈羽原発：安定ヨウ素剤服用、「親の同意」を議論 UPZ圏想定 避難委／新潟」(2020年10月18日)
- (73) 関谷直也、毎日新聞地方新潟「柏崎刈羽原発：柏崎刈羽再稼働 SPEEDI「活用を」 放射性物質拡散予測、避難委で識者ら／新潟」(2020年11月17日)
- (74) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「原発へのテロ想定、対応の問題点議論 県避難委員会／新潟県」(2020年11月17日)
- (75) 関谷直也、東京新聞「こちら特報部 福島原発事故来春10年 立地県・新潟で進む 独自検証(上) 踏み込んだ姿勢 難問鮮明に 「ヨウ素剤配布、高齢者・学校避難…いつ？」」(2020年11月24日)

- (76) 関谷直也、中日新聞「特報 原発の備え 難問ばかり 立地県・新潟 独自検証 国に駄目出し 踏み込んで議論 学校・高齢者避難、ヨウ素剤配布…」(2020 年 11 月 26 日)
- (77) 関谷直也、東京新聞「3・11 後を生きる こちら原発取材班 柏崎刈羽原発 「検証」進み 再稼働へ加速も」(2020 年 12 月 2 日)
- (78) 関谷直也、読売新聞東京「[災後の福島で]「風評」とは(3) 処理水 新たな闘い(連載)＝福島」(2020 年 12 月 9 日)
- (79) 関谷直也、朝日新聞東京「(東日本大震災 10 年へ 3.11 の現在地) 児童 6000 人、極秘の避難計画」(2020 年 12 月 11 日)
- (80) 関谷直也、新潟日報「原発「三つの検証」 避難委「課題の整理」まで 県見解に反発も」(2020 年 12 月 23 日)
- (81) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「(問う 原発再稼働) 報告書とりまとめへ 避難委で県が意向 一部の委員は反発／新潟県」(2020 年 12 月 23 日)
- (82) 関谷直也、新潟日報「特集／[震災 10 年 福島後の原発考] 柏崎再稼働 焦点の 1 年 県「三つの検証」 3 氏に聞く」(2021 年 1 月 3 日)
- (83) 関谷直也、AERA「(時代を読む) 東日本大震災 「生きるか死ぬか」悲痛な声聞け 震災 10 年目に「処理水」海洋放出の動きが加速」(2021 年 1 月 11 日)
- (84) 関谷直也、神奈川新聞「刻む 3.11 から／震災教訓 鍵は「連携」／オンラインフォーラム 専門家ら課題も共有<面名＝広域>」(2021 年 1 月 15 日)
- (85) 関谷直也、毎日新聞大阪「東日本大震災 10 年：福島第 1 原発事故 福島、農業再生道半ば 県外企業、地元と汗」(2021 年 2 月 1 日)
- (86) 関谷直也、毎日新聞東京「東日本大震災 10 年：福島第 1 原発事故 福島の農、復興途上 県外企業、沿岸に進出」(2021 年 2 月 1 日)
- (87) 関谷直也、NHK「WEB特集 “覚悟の笑顔”」(2021 年 2 月 16 日)
- (88) 関谷直也、NHK「WEB特集 原発事故 10 年 “トリチウム水” “処理水” どう処分する」(2021 年 3 月 6 日)
- (89) 関谷直也、読売新聞東京「[東日本大震災 10 年 断面] (1) 原発避難「前提」に穴 その 1」(2021 年 3 月 6 日)
- (90) 関谷直也、南日本新聞「企画[小事大事ー論説委員コラム] 風評被害は高くつく／野平宏」(2021 年 3 月 8 日)
- (91) 関谷直也、朝日新聞東京「(東日本大震災 10 年) 原発避難計画、備えは今 30 キロ圏外、自治体濃淡」(2021 年 3 月 12 日)
- (92) 関谷直也、福島民報「ふくしまは負けない／明日へ 震災原発事故の研究報告 双葉の伝承館 防災へ成果発表」(2021 年 3 月 16 日)
- (93) 開沼博、NHK福島放送ラジオ「こでらんにふくしま」レギュラー出演

(94) 開沼博、電気新聞うえいぶ連載

■令和3年度

1 外部研究費の獲得状況

- (1) 高村昇、日本学術振興会・国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「チェルノブイリから福島を知る～甲状腺超音波所見の自然史」2018年4月～2023年3月〔研究代表者〕
- (2) 高村昇、環境省・放射線の健康影響に係る研究調査事業「大熊町、富岡町におけるリスクコミュニケーションを通じたリスク認知、メンタルヘルスの経時的変化の評価」2020年4月～2023年3月〔主任研究者〕
- (3) 高村昇、環境省・放射線健康管理・健康不安対策事業（放射線の健康影響に係る研究調査事業）2021年4月～2022年3月
- (4) 高村昇、福島イノベーション・コースト構想推進機構 災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業 大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業、2021年4月～2026年3月
- (5) 関谷直也、日本学術振興会・課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業「グローバルな視座から見た原子力災害後のコミュニケーションに関する総合的研究」2020年～2022年〔研究代表者〕
- (6) 関谷直也、日本学術振興会・特別研究促進費「トンガ海底火山噴火とそれに伴う津波の予測と災害に関する総合調査」2021年～2023年（研究代表者：東京大学・佐竹健治）〔研究分担者〕
- (7) 関谷直也、日本学術振興会・科学研究費助成事業（基盤研究(B)）「将来事象予見型の新しい被害予測技術「リアルタイム物理・社会現象予測AI」の開発」2020年～2022年（研究代表者：東京大学・廣井悠）〔研究分担者〕
- (8) 関谷直也、日本学術振興会・科学研究費助成事業（基盤研究(B)）「実効性ある偽情報・誤情報対応策としてのファクトチェック・システムの構築」2019年～2023年（研究代表者：早稲田大学・瀬川至朗）〔研究分担者〕

2 書籍（単著・分担執筆含む）

- (1) 関谷直也、災害情報—東日本大震災からの教訓、東京大学出版会、2021
- (2) 関谷直也、放射線災害のリスク・コミュニケーション、一般財団法人アジア・パシフィック・イニシアティブ(API)編、「福島原発事故10年検証委員会民間事故調最終報告書」、ディスカヴァー・トゥエンティワン、（第3章を執筆）、2021
- (3) 関谷直也、風評被害の実態と対策、秋光信佳・溝口勝編、「福島復興知学講義」、東京大学出版会、2021
- (4) 開沼博、「日本の盲点」PHP研究所、2021
- (5) 開沼博、細野豪志「東電福島原発事故自己調査報告：深層証言&福島復興提言:2011+10」徳間書店、2021

3 論文

- (1) Ohishi K, Orita M, Taira Y, Kashiwazaki Y, Matsunaga H, Takamura N. Risk perception of health risks associated with radiation exposure among residents of Okuma, Fukushima Prefecture Int J Environ Res Public Health 18(24):13208, 2021.
- (2) Matsunaga H, Orita M, Taira Y, Takamura N. Awareness of the implementation of stable iodine prophylaxis. BMC Public Health 21:2235, 2021.
- (3) Matsunaga H, Orita M, Ohishi K, Taira Y, Takamura N. Intention to return in residents of Okuma and its characteristics: the evacuation order was lifted at eight years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station accident. J Radiat Res 62(5):868-870, 2021.
- (4) Yamada Y, Orita M, Matsunaga H, Yamaguchi T, Taira Y, Takamura N. Risk perception regarding implementation of iodine thyroid blocking during a nuclear disaster of mothers living near a nuclear power station in Japan. Endocr J 68(5):553-560, 2021.
- (5) Yamaguchi T, Taira Y, Matsuo M, Orita M, Yamada Y, Takamura N. Local levels of radiation exposure doses due to radiocesium for returned residents in Tomioka town, Fukushima Prefecture. Radiat Prot Dosimetry 193(3-4):207-220, 2021.
- (6) Matsunaga H, Orita M, Taira Y, Takamura N. Risk perception of the pre-distribution of stable iodine to guardians of children living around the Genkai Nuclear Power Plant, Saga Prefecture, Japan. PLoS One 16(5):e0250570, 2021.
- (7) Takamura N, Orita M, Taira Y, Matsunaga H, Yamashita S. Experiences of crisis communication during radiation emergency and risk communication for recovery of the community in Fukushima. J Radiat Res 62(Supplement 1):i95-i100, 2021.
- (8) Tokunaga A, Yoshida K, Orita M, Urata H, Itagaki S, Mashiko H, Yabe H, Maeda M, Ohishi K, Inokuchi S, Iwanaga R, Tanaka G, Nakane H, Takamura N. The mental health status of children who have been evacuated or migrated from rural areas in Fukushima prefecture after the Fukushima daiichi nuclear power station accident: results from the Fukushima health management survey. Fukushima J Med Sci 67(1):8-16, 2021.
- (9) O. Pareniuk, N. Yasuda, Chornobyl exclusion zone: current status and challenges, Annals of the ICRP, Vol.50, Issue 1 suppl, 201-208, 2021.

- (10) B. Turbat, K. Yoshida, A.A. El-Hameed, Y. Ruban, O. Pareniuk, Q.M. Rashed-Nizam, K. Nagashima, E. Benton, N. Yasuda, Verification of historical radiation monitoring data at residential areas for nuclear emergency occurred in a neighboring country, Journal of Nuclear Science and Technology, Vol. 59, No.2, 188-197, 2021.
- (11) 関谷直也、大規模イベントにおけるパニックと群集雪崩れ、治安フォーラム 27(4) (2021 年 4 月)、立花書房 : 44-51、2021
- (12) 関谷直也、「災害情報 : 東日本大震災からの教訓」(東京大学出版会)を上梓して 平穏への願いが作り出す忘却と対峙せよ―特集 大震災 11 年。教訓を未来へ、公明 195 (2022 年 3 月) : 24-27、2022
- (13) Naoya Sekiya、2021、Reputational Damage in Radiation Disasters 10 years after the Accident at TEPCO's Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. Annals of the ICRP Vol 50、 Issue 1_suppl、【査読論文】
<https://doi.org/10.1177/01466453211020846>
- (14) 関谷直也、東京電力福島第一原子力発電所事故後 10 年の風評被害の課題―「検査体制」の見直しと流通の課題―、協同組合研究 41(1) : 42-51、2021 【査読論文】
- (15) 安本真也・関谷直也、火山噴火に対する意識 : 「登山者」と首都圏住民へのアンケート調査をもとに、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編 38 : 39-77、2022
<https://doi.org/10.15083/0002003355>
- (16) 石橋真帆・関谷直也、2020 年新型コロナウイルス感染拡大初期における情報流通と流言流布の実態、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編 38 : 1-38、2022
<https://doi.org/10.15083/0002003354>
- (17) 開沼博、「災害を考える」≡「避難について考える」の限界:福島第一原発事故から次なる大規模災害への示唆、情報学研究:学環:東京大学大学院情報学環紀要 101 : 131-135、2021
- (18) 開沼博、「建前」拡張運動の欺瞞と幼稚さ-日本の違和感、Voice (526) : 60-66、2021
- (19) 開沼博、特集 はじめての福島学、ひろば : コミュニケーションシリーズ (508) : 14-23、2021
- (20) 開沼博、「良き仲間」としてのアカデミック・ジャーナリズム、アステイオン vol 095 特集 : アカデミック・ジャーナリズム、サントリー文化財団・アステイオン編集委員会編 (95) : 110-121、2021

4 学会報告 (口頭発表、ポスター発表)

- (1) N. Yasuda and O. Preniuk, Ten years at Fukushima (Online), CHRNBL Forum 2021 (CHRNBL 35), 2021/Oct/08.
- (2) N. Yasuda, Overview of environmental remediation strategy after FDNPP and current radiation monitoring system in Japan (Online), VII International Conference on Nuclear Decommissioning and Environmental Recovery, INUDECO 2022, 2022/Apr/28.
- (3) 石橋真帆・安本真也・関谷直也、新型コロナウイルスのリスク認知—性別・年代差—、日本災害情報学会・若手研究発表大会（2021年4月24日、オンライン）
- (4) 関谷直也、自然災害とコミュニケーション：科学と防災のあいだの乖離、科学技術社会論学会シンポジウム「新型コロナ・自然災害・原発事故についていかに分かり合うのか—コミュニケーションを再考する—」（2021年5月8日、オンライン）
- (5) 関谷直也、「流言」「うわさ」と「風評被害」の虚実、日本哲学会第80回大会シンポジウム「事実と虚構」（2021年5月15日、オンライン）
- (6) 石橋真帆・田中幹人・関谷直也、リスクの特徴認知と情報源信頼の関連性：COVID-19 パンデミックにおける国際比較、社会情報学会大会（2021年9月12日、大妻女子大学：オンライン）
- (7) 石橋真帆・田中幹人・関谷直也、新型コロナウイルスに関する情報行動の国際比較、日本リスク研究学会第34回年次大会（2021年11月20日、オンライン）
- (8) 石橋真帆・安本真也・関谷直也、コロナ禍における流言の実態とリスク特徴認知の関連性、日本災害情報学会第23回学会大会（2021年11月27日、オンライン）
- (9) 安本真也、河井大介、齋藤さやか、関谷直也、防災啓発番組の視聴は地震の備え行動につながるのか：ドラマ「パラレル東京」の効果検証、日本災害情報学会第23回学会大会（2021年11月27日、オンライン）
- (10) 関谷直也、水害・土砂災害の災害情報と防災対策、防災学術連携体特別シンポジウム「浸水被害、土砂災害に対する病院の備え」第27回日本災害医学会総会学術集会（2022年3月4日、広島国際会議場【招待有】）
- (11) 大瀧翔子・関谷直也、新型コロナウイルス感染症に対する都道府県知事の記者会見から紐解く「衛生広報」、日本災害情報学会第24回学会大会（2022年3月19日、オンライン）
- (12) 安本真也・関谷直也、地震の被害想定という情報は住民の備えにつながるのか、日本災害情報学会第24回学会大会（2022年3月20日、一橋講堂）
- (13) 石橋真帆・安本真也・関谷直也、リスク解釈の「分断」と情報環境・情報利用動機との関連性、日本災害情報学会第24回学会大会（2022年3月20日、一橋講堂）

5 受賞歴

- (1) 関谷直也、第 31 回（令和 3 年度）日本自然災害学会学術奨励賞（F12 に対して）（2021 年 9 月）

6 社会貢献活動等

(1) 出前講義

- ・ 安田仲宏、若狭湾青少年自然の家「災害と危機管理（原子力防災）」（2021 年 6 月 28 日）
- ・ 安田仲宏、高専生対象講義、国立高等専門学校機構「原子力防災と放射線」（2021 年 8 月 24 日）
- ・ 安田仲宏、福島県立安積高等学校専門講座、東日本大震災・原子力災害伝承館「原子力防災と放射線」（2021 年 10 月 31 日）
- ・ 安田仲宏、「越前若狭のふれあい」モニターを対象とした原子力セミナー「知っているようで知らない放射線のはなし」、関西電力（2021 年 12 月 11 日）
- ・ 関谷直也、磐城桜が丘高校「風評被害」（2021 年 6 月 22 日）
- ・ 関谷直也、磐城桜が丘高校「社会心理」（2021 年 6 月 24 日）

(2) 講演

- ・ 安田仲宏、東京工業大学「原子力防災における危機管理モデル（福井・敦賀モデル）」（2021 年 5 月 22 日）
- ・ 安田仲宏、原子力政策研究会での講演会、茨城県議会「原子力防災と放射線」（2021 年 6 月 1 日）
- ・ 安田仲宏、UPZ 圏市町村議会議員に向けた講演会、茨城県議会「原子力防災と放射線」（2021 年 6 月 2 日）
- ・ 安田仲宏、東邦大学「医学への応用 2－放射線の物理学」（2021 年 7 月 13 日）
- ・ 安田仲宏、自治体職員・消防職員対象 原子力防災に関する講演会、日本原子力発電株式会社「原子力防災と放射線」（2020 年 8 月 5 日）
- ・ 安田仲宏、福井県防災士養成研修、福井県庁「災害と危機管理（原子力防災）」（2021 年 9 月 12 日）
- ・ 安田仲宏、福井県防災士養成研修、福井県庁「災害と危機管理（原子力防災）」（2021 年 10 月 2 日）
- ・ 安田仲宏、自治体関係者向け原子力防災講演会、日本原子力発電株式会社「原子力防災と放射線」（2021 年 11 月 15 日）
- ・ 安田仲宏、福井県消防職員対象、福井県消防学校「原子力防災と放射線」（2021 年 11 月 18 日）
- ・ 安田仲宏、内閣府職員・規制庁職員対象、内閣府「原子力防災における課題」（2021 年 12 月 1 日）

- ・ 安田仲宏、廃炉ネットワーク、大阪大学「原子力防災における課題」(2021年12月13日)
- ・ 安田仲宏、全国自治体職員対象原子力研修講座、原子力文化財団「原子力防災と放射線」(2021年2月21日)
- ・ 安田仲宏、原子力研修、茨城県教育庁「原子力防災教育の進め方」(2021年2月22日)
- ・ 安田仲宏、研究成果発表会、東日本大震災・原子力災害伝承館「これまでの放射線防護対策のふり返し、現在、そして未来に」(2021年3月12日)
- ・ 安田仲宏、福井県防災士養成研修、福井県庁「災害と危機管理(原子力防災)」(2021年3月25日)
- ・ 関谷直也、原子力災害と風評被害、日本記者クラブ(2021年10月1日【記者会見】)
- ・ 関谷直也、3.11から11年、日本記者クラブ(2022年3月30日【記者会見】)

(3) 企画・運営等

- ・ 関谷直也、東日本大震災・原子力災害全書編集委員会
- ・ 関谷直也、日本災害情報学会・大会委員長

7 メディア

- (1) 安田仲宏、福井新聞「原子力防災の課題共有 福井大、オンラインでシンポ」(2021年12月2日)
- (2) 関谷直也、神戸新聞「新型コロナ 「まん延防止」初適用 感染抑制甘く急拡大」(2021年4月2日)
- (3) 関谷直也、京都新聞「対象絞り対策 効果見通せず 往来頻繁 京都への適用見送り」(2021年4月2日)
- (4) 関谷直也、下野新聞「3府県・まん延防止措置 初適用／「一步一步進んでたのに」／飲食店観光地／見えぬ先行き 落胆の声」(2021年4月2日)
- (5) 関谷直也、東奥日報「まん延防止措置 初適用 本記1面／識者談話」(2021年4月2日)
- (6) 関谷直也、毎日新聞大阪「原発事故時避難アンケート：「原発避難不安」57市町村 30キロ圏内、入所者搬送で」(2021年4月4日)
- (7) 関谷直也、毎日新聞東京「原発事故時アンケート：原発事故時、高齢者搬送に不安4割 30キロ圏自治体」(2021年4月4日)
- (8) 関谷直也、毎日新聞東京「砂上の原発防災：住民は逃げられるか／1 要介護者搬送、増す苦悩 避難先、空き部屋なく廊下で生活」(2021年4月4日)
- (9) 関谷直也、毎日新聞東京「砂上の原発防災：住民は逃げられるか／2 生かされぬ空間線量 観測値の評価・伝達方法曖昧」(2021年4月6日)

- (10) 関谷直也、毎日新聞東京「砂上の原発防災：住民は逃げられるか／3 車両避難、脆弱な態勢 自治体、汚染検査の職員不足」(2021 年 4 月 7 日)
- (11) 関谷直也、毎日新聞東京「砂上の原発防災：住民は逃げられるか／4 ヨウ素剤、進まぬ配布 5キロ圏内 57% 説明会ネック」(2021 年 4 月 9 日)
- (12) 関谷直也、NHK「原発処理水海洋放出 専門家「放出までの2年間で理解得るため何をするか考える必要」」(2021 年 4 月 13 日)
- (13) 関谷直也、NHK「処理水 海洋放出 決定 風評被害など強い懸念 政府の対策は(ニュース7)」(2021 年 4 月 13 日)
- (14) 関谷直也、時事通信「◎原発処理水・識者コメント」(2021 年 4 月 13 日)
- (15) 関谷直也、産経新聞大阪「【産経抄】」(2021 年 4 月 14 日)
- (16) 関谷直也、産経新聞東京「【産経抄】」(2021 年 4 月 14 日)
- (17) 関谷直也、朝日新聞東京「放出、本命視のまま10年 自転車操業、タンク増設 福島第一」(2021 年 4 月 14 日)
- (18) 関谷直也、毎日新聞東京「砂上の原発防災：住民は逃げられるか／5 止 複合災害、孤立の不安 道路寸断時、避難先示されず」(2021 年 4 月 16 日)
- (19) 関谷直也、福島民報「官製風評／処理水海洋放出 不安払拭 不十分 対策の具体性乏しく 政府の基本方針」(2021 年 4 月 16 日)
- (20) 関谷直也、福島民報「検証／福島第一原発処理水 東大大学院准教授 関谷直也氏に聞く 新たな風評 禍根残す 払拭策 具体的に示せ」(2021 年 4 月 16 日)
- (21) 関谷直也、河北新報「廃炉と海 トリチウム水放出へ／識者に聞く(下)／東大大学院准教授 関谷直也さん／海外への情報発信重要 ー政府の海洋放出方針をどう受け止めるか。／「政府は『先送』」」(2021 年 4 月 19 日)
- (22) 関谷直也、毎日新聞東京「砂上の原発防災：住民は逃げられるか 避難車 検査機材、政府が共用検討 13 道府県で必要数不足」(2021 年 4 月 20 日)
- (23) 関谷直也、読売新聞東京「福島事故10年 食品の放射能 自主検査 26 都道府県 国指針外の品目」(2021 年 5 月 19 日)
- (24) 関谷直也、新潟日報「原発事故 屋内退避、災害時は困難 県避難委が課題整理」(2021 年 6 月 1 日)
- (25) 関谷直也、毎日新聞地方新潟「柏崎刈羽原発：原発避難委員会 半年ぶりに開催 「屋内退避」など議論／新潟」(2021 年 6 月 2 日)
- (26) 関谷直也、朝日新聞東京「処理水放出、68%が否定的 福島の知事・市町村長アンケート」(2021 年 6 月 15 日)
- (27) 関谷直也、信濃毎日新聞「伝え、生かすー三六災害60年(上)＝豪雨の緊張、広がる流言 飯田で飛び交った「山が崩れる」」(2021 年 6 月 20 日)

- (28) 関谷直也、朝日新聞地方福島「(ふくしま この人に聞く) 東大総合防災情報研究センター准教授・関谷直也さん／福島県」(2021年7月15日)
- (29) 関谷直也、河北新報「T O K Y O 2020／福島食材 五輪で明暗／郡山産ネギ 取引量激減／県産モモを選手団絶賛／安全性 韓国に再び説明／韓国選手団の懸念波及か」(2021年8月4日)
- (30) 関谷直也、中国新聞セレクト「福島産モモ 海外選手が絶賛 風評払拭へ「うれしい反響」 東京五輪」(2021年8月5日)
- (31) 関谷直也、岩手日報「福島産モモ 海外勢絶賛 東京五輪 食べ過ぎて太ってしまった― 風評払拭へ地元感謝」(2021年8月5日)
- (32) 関谷直也、日刊スポーツ東京「福島県産モモ「とてもおいしかった」」(2021年8月6日)
- (33) 関谷直也、毎日新聞地方福島「モモ：食べ過ぎて太ってしまった／こんな果物食べたことない 県産モモ絶賛 五輪野球・ソフト海外選手団／福島」(2021年8月9日)
- (34) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「要避難者の避難、論点がまとまる 県の委員会／新潟県」(2021年8月18日)
- (35) 関谷直也、山陰中央新報出雲「連載企画／県都の原発／5万2千人 取り残すな／第2部(5) 避難計画は万全か／要支援者 全国最多」(2021年8月22日)
- (36) 関谷直也、中国新聞「点検・避難計画 島根原発の緊急時対応 <下> 段階的避難 「屋内退避」浸透に課題 啓発・訓練の実効性鍵」(2021年8月23日)
- (37) 関谷直也、毎日新聞地方広島「県警：災害時、デマ情報にご用心 差別・偏見…「パターン知り判断を」 県警呼びかけ／広島」(2021年8月27日)
- (38) 関谷直也、福島民報「風評の再燃は避けられない 処理水問題など討議 日本新聞博物館 オンラインでシンポ」(2021年8月29日)
- (39) 関谷直也、読売新聞東京「[大震災 再生の歩み] 処理水海洋放出 廃炉へ 100万トン海に」(2021年9月11日)
- (40) 関谷直也、新潟日報「新型ウイルス 部活は休止、音楽イベントはOK 制限の線引きに県民困惑 行政の丁寧な説明必要 関谷直也・東大大学院准教授」(2021年9月12日)
- (41) 関谷直也、福島民報「除染廃棄物の再生利用県外実証 国関連の場所で開始へ 県外最終処分オンライン対話集会 環境相」(2021年9月12日)
- (42) 関谷直也、新潟日報上越「[日報政経懇] 上越 東京大大学院准教授・関谷直也氏 災害時のうわさ広めず」(2021年9月14日)
- (43) 関谷直也、愛媛新聞「福島第1原発 解決遠く 東日本大震災から10年半 デブリ採取 準備に遅れ 高線量汚泥の処分も焦点」(2021年9月15日)

- (44) 関谷直也、公明新聞「(福島第1原発の処理水海洋放出) 風評対策の実効性どう高める／東京大学大学院 関谷直也准教授に聞く」(2021年9月21日)
- (45) 関谷直也、河北新報「差別デマ「行政が否定を」／災害時多発 専門家が指摘 災害が起きるたび、被災地で外国人犯罪が横行しているといった悪質なデマがインターネット上に飛び交う。2014年」(2021年9月24日)
- (46) 関谷直也、NHK「大雨と噴火の緊急速報メール 気象庁が配信取りやめ方針 “体制整備に逆行” 指摘も」(2021年10月12日)
- (47) 関谷直也、NHK「気象庁の緊急速報メール廃止 自治体から戸惑いも「住民から疑問」「説明・周知を」」(2021年10月12日)
- (48) 関谷直也、NHK「気象庁「緊急速報メール」気象の特別警報など配信とりやめ(シブ5時)」(2021年10月12日)
- (49) 関谷直也、山陰中央新報出雲「原発／複合災害のリスク指摘／島根県顧問会議 省庁と質疑」(2021年10月13日)
- (50) 関谷直也、フジテレビ「「緊急速報メール」廃止へ(めざまし8)」(2021年10月14日)
- (51) 関谷直也、NHK「緊急速報用メール“配信停止を見送り” 気象庁が取りやめるとした理由と経緯」(2021年10月15日)
- (52) 関谷直也、福島民報「処理水海洋放出 組合員が学ぶ 福島で県生協大会」(2021年10月20日)
- (53) 関谷直也、新潟日報「県原発避難委 医療者らの被ばく議論 線量上限なく問題視」(2021年10月23日)
- (54) 関谷直也、河北新報「命守る教訓 一冊に／東大大学院准教授 関谷直也さん発刊／震災時の状況検証／社会心理学に立脚・分析 その情報、災害時に人に避難を促すものになっていますか? 東日本」(2021年12月20日)
- (55) 関谷直也、新潟日報「原発県避難委 全10項目で論点整理 被ばく議論は継続」(2021年12月28日)
- (56) 関谷直也、テレビ朝日「神奈川県「緊急メール」誤配信(グッド!モーニング)」(2022年1月17日)
- (57) 関谷直也、毎日新聞東京「続・砂上の原発防災:／下 複合災害、具体策見えず」(2022年2月2日)
- (58) 関谷直也、朝日新聞東京「女川原発訓練、住民不参加 コロナ感染拡大を懸念 関係機関のみ実施へ」(2022年2月5日)
- (59) 関谷直也、中国新聞「島根原発 避難計画の憂い <下> 対応力 施設や団体 「不可能」の声 実効性の向上が重要」(2022年2月7日)

- (60) 関谷直也、毎日新聞東京朝「続・砂上の原発防災：識者インタビュー 避難の想定、多様に 東大総合防災情報研究センター准教授・関谷直也さん」
(2022 年 2 月 10 日)
- (61) 関谷直也、朝日新聞名古屋版「(そこが知りたい 災害と備え) 避難行動
関谷直也・東大准教授に聞く／東海・共通」(2022 年 2 月 22 日)
- (62) 関谷直也、公明新聞「月刊「公明」3 月号 好評発売中／特集 大震災 11
年。教訓を未来へ／新妻復興副大臣「全力で被災者に寄り添う」」(2022
年 2 月 24 日)
- (63) 関谷直也、河北新報「処理水放出 賛否が拮抗／「分からない」も 32%
／全国世論調査 東日本大震災 11 年を前に河北新報社加盟の日本世論調
査会は 5 日、郵送方式で行った原発に関する全国世論」(2022 年 3 月 6 日)
- (64) 関谷直也、佐賀新聞「処理水放出計画、賛否拮抗 全国世論調査 7 割「脱
原発」志向」(2022 年 3 月 6 日)
- (65) 関谷直也、中国新聞「東日本大震災 11 年 処理水放出 賛否が拮抗 7
割「脱原発」志向 全国世論調査」(2022 年 3 月 6 日)
- (66) 関谷直也、東奥日報「全国世論調査 処理水放出 賛否拮抗 「分からな
い」も」(2022 年 3 月 6 日)
- (67) 関谷直也、共同通信「自動車避難「必要」半数 南海トラフ地震 72 市
調査」(2022 年 3 月 7 日)
- (68) 関谷直也、読売新聞東京「東日本大震災 11 年 「対」の巨大地震 注意
揺れ小さく 大きな津波」(2022 年 3 月 7 日)
- (69) 関谷直也、河北新報「南海トラフ津波 72 市調査／車で避難 「必要」
半数／対象などルール策定 2 割 南海トラフ巨大地震で津波被害が想定
される 13 県 72 市の約半数が、避難に自動車が必要だ」(2022 年 3 月 8 日)
- (70) 関谷直也、宮崎日日新聞「東日本大震災 11 年／南海トラフ 津波被害想
定 13 県 72 市／避難に車「必要」半数／ルール策定 2 割弱／国は判断材
料示せ」(2022 年 3 月 8 日)
- (71) 関谷直也、佐賀新聞「＝東日本大震災 11 年＝ 自動車避難「必要」半数
南海トラフ 72 市調査 ルール策定 2 割弱」(2022 年 3 月 8 日)
- (72) 関谷直也、山陽新聞「東日本大震災 11 年 自動車避難「必要」半数 南
海トラフ想定 72 市調査 ルール策定 2 割弱」(2022 年 3 月 8 日)
- (73) 関谷直也、熊本日新聞「「避難に車必要」が半数 南海トラフ地震の被
害想定自治体 ルール策定は 2 割弱 共同通信の調査」(2022 年 3 月 8 日)
- (74) 関谷直也、愛媛新聞「南海トラフ地震 津波避難 車「必要」半数 被害
想定 72 市調査 ルール明示 2 割弱」(2022 年 3 月 8 日)
- (75) 関谷直也、中国新聞「車で避難 半数が「必要」 南海トラフ地震 津波
想定 72 市調査 ルール策定 2 割弱止まり」(2022 年 3 月 8 日)

- (76) 関谷直也、静岡新聞「東日本大震災 11 年＝自動車避難「必要」半数 南海トラフ 津波被害想定 13 県 72 市調査」 (2022 年 3 月 8 日)
- (77) 関谷直也、岩手日報「車で避難「必要」半数 南海トラフ地震 72 市調査ルール策定は 2 割弱」 (2022 年 3 月 8 日)
- (78) 関谷直也、沖縄タイムス「車で避難 「必要」半数／南海トラフで津波想定 72 市調査／ルール策定は 2 割弱」 (2022 年 3 月 8 日)
- (79) 関谷直也、四国新聞「東日本大震災 11 年＝避難「車必要」半数 南海トラフ津波想定 72 市 ルール策定わずか 2 割弱」 (2022 年 3 月 8 日)
- (80) 関谷直也、徳島新聞「東日本大震災 11 年 徳島など南海トラフ津波想定 の 72 市 「避難に車必要」半数」 (2022 年 3 月 8 日)
- (81) 関谷直也、中日新聞「南海トラフ地震 13 県 72 市調査 津波避難 「車が必要」半数 ルール明示 14 市のみ」 (2022 年 3 月 8 日)
- (82) 関谷直也、下野新聞「東日本大震災 11 年／南海トラフ津波想定 72 市／車避難 半数が「必要」／ルール策定は 2 割弱／国の呼び掛け浸透せず」 (2022 年 3 月 8 日)
- (83) 関谷直也、京都新聞「東日本大震災 11 年 避難に自動車「必要」半数 南海トラフ地震 72 市調査 ルール策定、2 割弱止まり」 (2022 年 3 月 8 日)
- (84) 関谷直也、秋田魁新報「＜東日本大震災 11 年＞津波想定、南海トラフ「特別強化地域」72 市 避難に自動車「必要」半数 ルール策定は 2 割弱」 (2022 年 3 月 8 日)
- (85) 関谷直也、長崎新聞「南海トラフ地震 72 市調査／自動車避難「必要」半数／ルール策定は 2 割弱」 (2022 年 3 月 8 日)
- (86) 関谷直也、新潟日報「[あすの選択 新潟と福島] 下 漁業」 (2022 年 3 月 10 日)
- (87) 関谷直也、福島民報「震災・原発事故 11 年／復興を問う 国際教育研究拠点 具体像いまだ不透明 既存施設の集約懸念」 (2022 年 3 月 10 日)
- (88) 関谷直也、福島民報「復興を問う 雇用生む新産業を 避難 12 市町村 帰還促進に向け」 (2022 年 3 月 10 日)
- (89) 関谷直也、テレビ朝日「渋滞 車避難 駐車場に入れない 被災地に残された課題 (大下容子ワイド!スクランブル)」 (2022 年 3 月 11 日)
- (90) 関谷直也、新潟日報「「被ばく予測実施を」 県原発検証避難委が会合」 (2022 年 3 月 15 日)
- (91) 関谷直也、毎日新聞地方新潟「柏崎刈羽原発：柏崎刈羽原発 避難委の議論終了 方向性示し、取りまとめへ／新潟」 (2022 年 3 月 17 日)
- (92) 関谷直也、福島民報「第一原発 処理水処分問題を解説 東大大学院 開沼、関谷准教授講演」 (2022 年 3 月 31 日)
- (93) 開沼博、NHK福島放送ラジオ「こでらんにふくしま」レギュラー出演

(94) 開沼博、電気新聞うえいぶ連載

■令和4年度

1 外部研究費の獲得状況

- (1) 高村昇、福島イノベーション・コースト構想推進機構・大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業「災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」2021年4月～2026年3月
- (2) 関谷直也、日本学術振興会・課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業「グローバルな視座から見た原子力災害後のコミュニケーションに関する総合的研究」2020年～2022年〔研究代表者〕
- (3) 関谷直也、日本学術振興会・特別研究促進費「トンガ海底火山噴火とそれに伴う津波の予測と災害に関する総合調査」2021年～2023年（研究代表者：東京大学・佐竹健治）〔研究分担者〕
- (4) 関谷直也、日本学術振興会・科学研究費助成事業（基盤研究(B)）「将来事象予見型の新しい被害予測技術「リアルタイム物理・社会現象予測AI」の開発」2020年～2023年（研究代表者：東京大学・廣井悠）〔研究分担者〕
- (5) 関谷直也、日本学術振興会・科学研究費助成事業（基盤研究(B)）「実効性ある偽情報・誤情報対応策としてのファクトチェック・システムの構築」2019年～2023年（研究代表者：早稲田大学・瀬川至朗）〔研究分担者〕
- (6) 葛西優香、日本自然災害学会・令和4年度第2回災害調査補助制度、「福島県双葉郡の神社・民俗芸能の再興現状調査」2023年3月～2024年2月〔研究代表者〕
- (7) 山田修司、公益財団法人上廣倫理財団令和4年度研究助成「道徳の物質的転回による設計論の構築に向けた技術哲学的考察」2023年3月～2024年2月〔研究代表者〕

2 書籍（単著・分担執筆含む）

- (1) 関谷直也、原子力災害、日本自然災害学会編「自然災害科学・防災の百科事典」丸善出版：806、2022
- (2) 静間健人・土田昭司、「第15章 災害と応用心理学 Topic20 日本における防災の実態と防災関与の研究」『応用心理学ハンドブック』福村出版：772-773、2022〔分担執筆〕

3 論文

- (1) Thu Zar W, Lochard J, Taira Y, Takamura N, Orita M, Matsunaga H. Risk communication in the recovery phase after a nuclear accident: the contribution of the “co-expertise process”. Radioprotection 57(4):281-288, 2022.

- (2) Taira Y, Matsuo M, Orita M, Matsunaga H, Takamura N, Hirao S. Assessment of localized and resuspended ¹³⁷Cs due to decontamination and demolition in the difficult-to-return zone of Tomioka town, Fukushima Prefecture. *Integr Environ Assess Manag* 18(6): 1555-63, 2022.
- (3) Matsunaga H, Orita M, Taira Y, Kashiwazaki Y, Takamura N. Risk perception of internal and external radiation exposure among administration staff affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. *J Environ Radioact* 248: 106869, 2022.
- (4) Liu M, Matsunaga H, Orita M, Taira Y, Takamura N. Risk perception of genetic effects and mental health among residents of Kawauchi village, 10 years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. *J Radiat Res* 63(2):261-263, 2022.
- (5) Kashiwazaki Y, Matsunaga H, Orita M, Taira Y, Oishi K, Takamura N. Occupational difficulties of disaster-affected local government employees in the long-term recovery phase after the Fukushima nuclear accident: A cross-sectional study using modeling analysis. *Int J Environ Res Public Health* 19(7):3979, 2022.
- (6) Matsunaga H, Orita M, Liu M, Kashiwazaki Y, Taira Y, Takamura N. Evaluation of residents' timing of return to or new settlement in Kawauchi village, at 10 years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. *Int J Environ Res Public Health* 19(1): 543, 2022.
- (7) Matsunaga H, Orita M, Liu M, Taira Y, Takamura N. Life satisfaction and factors affecting satisfaction in Kawauchi village residents at 10 years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. *Radiat Prot Dosimetry* 198(1-2): 23-30, 2022.
- (8) 安本真也・葛西優香・富澤周・内田充紀・関谷直也、首都直下地震と都民の意識—2022 年東京都民調査から—、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編 39 : 43-105、2023
<https://doi.org/10.15083/0002007278>
- (9) 関谷直也・安本真也・富澤周・葛西優香・内田充紀、富士山大規模噴火と都民の意識—2022 年東京都民調査から—、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編、No. 39 : 107-146、2023
<https://doi.org/10.15083/0002007279>
- (10) 内田充紀・安本真也・富澤周・葛西優香・関谷直也、首都圏大規模水害と都民の意識—2022 年東京都民調査から—、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編 39 : 147-168、2023
<https://doi.org/10.15083/0002007280>
- (11) 丹波史紀・安本真也・静間健人・関谷直也・小山良太・服部正幸、東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態—2021 年第 3 回

双葉郡住民実態調査一、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編 39 : 169-237、2023

<https://doi.org/10.15083/0002007281>

- (12) 田中幹人・石橋真帆・于海春・林東佑・楊鯤昊・関谷直也・鳥海不二夫・吉田光男、COVID-19 をめぐるメディア・コミュニケーションとその課題、医療と社会 32(1) : 11-22、2022
<https://doi.org/10.4091/iken.32-71>
- (13) 関谷直也、自然災害のリスク・コミュニケーション—科学と防災の間の乖離、科学技術社会論研究 20 新型コロナ・自然災害・原発事故についていかに分かり合うのか コミュニケーションを再考する、科学技術社会論学会、2022 【依頼論文】
https://doi.org/10.24646/jnlsts.20.0_14
- (14) 関谷直也、〈虚実〉のコミュニケーションとしての「うわさ」「流言」「風評」、哲学 73 : 37-47、2022 【依頼論文】
<https://doi.org/10.11439/philosophy.2022.37>
- (15) Sayaka SAITO・Shinya YASUMOTO・Naoya SEKIYA, 2022, Earthquake probability in the National Seismic Hazard Maps for Japan and people's risk perceptions: the search for more effective expression, Earth, Planets and Space (EPS) 【査読論文】 <https://doi.org/10.1186/s40623-022-01627-0>
- (16) 安本真也・河井大介・齋藤さやか・関谷直也、首都直下地震に関する映像による認知の変化—パネル調査を用いたドラマ「パラレル東京」の効果分析一、災害情報 20-1 : 123-136、2022 【査読論文】
- (17) 永松伸吾・牛山素行・関谷直也・鈴木進吾、避難情報は人的被害を軽減したか—平成 30 年 7 月豪雨・令和元年東日本台風の実証分析一、災害情報 20-1 : 51-62、2022 【査読論文】
- (18) 安本真也・葛西優香・富澤周・関谷直也、地震の被害想定をめぐるコミュニケーション—都民の意識と地震のしろうと理論一、地域安全学会論文集 41 : 95-105、2022 【査読論文】
<https://doi.org/10.11314/jisss.41.95>
- (19) 関谷直也、災害情報とリスク・コミュニケーション—特集 災害多発時代の復旧・復興への課題、ガバナンス 263 (2023 年 3 月)、ぎょうせい : 29-31、2023
- (20) 青砥和希、震災復興・地方創生下の子どもの居場所におけるコーディネーターの役割—福島県白河市での実践報告を題材に一、小児の精神と神経、62 巻 4 号 : 315-318、2023
- (21) 安本真也・葛西優香・富澤周・関谷直也、地震の被害想定をめぐるコミュニケーション—都民の意識と地震のしろうと理論一、『地域安全学会論文集』、41 巻 : 95 - 105、2022 【査読有】
- (22) 土田昭司・静間健人・浦山郁、新型コロナウイルス感染症流行ならびにそのワクチンに対する 2021 年 10 月までの市民の対応の変化、リスク学研究、32 巻 1 号 : 43-56、〔分担執筆〕 【査読有】
- (23) 丹波史紀・安本真也・静間健人・関谷直也・小山良太・服部正幸、東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態—2021 年第 3 回双葉郡住民実態調査一、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編、39 巻 : 169-237、2022 〔分担執筆〕
- (24) 山田修司、防災の工学化と政治性、東北都市学会研究年報、19・20 巻 : 67-83、2022 【査読有】

- (25) 山田修司、集客施設による避難訓練の取組みと観光危機管理の観点からの考察、東北地域災害科学研究、59 巻：135-140、2023

4 学会報告（口頭発表、ポスター発表）

- (1) N. Yasuda, Overview of environmental remediation strategy after FDNPP and current radiation monitoring system in Japan, VII International Conference on Nuclear Decommissioning and Environmental Recovery, INUDECO 2022, 2022/Apr/28.
- (2) N. Yasuda, Japanese experience on Nuclear Culture, Nuclear Culture and Nuclear Presence: What Happens After Nuclear Explosions (Online), 2022/Aug/04.
- (3) 林田凱・安田仲宏・他、廃炉のための CR-39 検出器を用いた中性子源イメージング技術の開発、第 8 回次世代イニシアティブ廃炉技術カンファレンス（NDEC-8）（2023 年 3 月 9 日、福島大学）
- (4) N. Yasuda and O. Pareniuk, Nuclear emergency preparedness and response, Activities and Roles on Japan and Ukraine、福島国際研究教育機構第 5 分野先行研究シンポジウム（2023 年 3 月 14 日、J ヴィレッジ）
- (5) 吉田佳乃子・安田仲宏、平時と有事における放射線モニタリング情報の有効活用——降雨との関連、東日本大震災・原子力災害第 1 回学術研究集会、（2023 年 3 月 17 日、コラッセふくしま）
- (6) 弓削湧輔・安田仲宏、原子力災害避難時における甲状腺被ばく線量モニタリングの実現性の検討、東日本大震災・原子力災害第 1 回学術研究集会（2023 年 3 月 17 日、コラッセふくしま）
- (7) 山口雅・田代研・松尾陽一郎・安田仲宏、東電福島第一原発事故後の放射線防護の検証と新しい影響評価手法の開発、東日本大震災・原子力災害第 1 回学術研究集会（2023 年 3 月 17 日、コラッセふくしま）
- (8) Olena PARENIIUK, Kateryna SHAVANOVA, Yuliia RUBAN, Anastasiia TORIANIK, Nakahiro YASUDA, Public education and countering the nuclear disinformation during Ukrainian-russian war、東日本大震災・原子力災害第 1 回学術研究集会（2023 年 3 月 17 日、コラッセふくしま）
- (9) 安本真也・葛西優香・富澤周・関谷直也、東京都民の地震の被害想定に関する意識、第 50 回（2022 年度）地域安全学会研究発表会（春季）（2022 年 5 月 20 日、愛媛大学）
- (10) 石橋真帆・田中幹人・関谷直也、国際比較データを用いた外出自粛理由に関する構造の検討、日本心理学会第 86 回大会（2022 年 9 月 8 日～11 日、日本大学文理学部）

- (11) 山口文恵・高原省五・山本一也・関谷直也、屋内退避に対する住民意識—茨城県水戸市における事例—、日本原子力学会 2022 年秋の大会（2022 年 9 月 7 日～9 日、茨城大学日立キャンパス）
- (12) 佐竹健治・前野深・西田究・サッパシーアナワット・関谷直也、トンガ海底火山噴火とそれに伴う津波の予測と災害に関する総合調査—科学研究費特別研究促進費による突発災害調査研究令和 3 年度報告—自然災害科学総合シンポジウム（2022 年 9 月 26 日、京都大学防災研究所（ハイブリッド））
- (13) 葛西優香・関谷直也、共同性再興における祭祀の意味 ～福島県双葉郡浪江町の事例を通じて～、日本災害情報学会第 25 回大会（2022 年 10 月 9 日、日本大学三軒茶屋キャンパス）
- (14) 関谷直也、東京電力福島第一原子力発電所事故と風評被害—11 年目の現状—、システム農学会 2022 年度シンポジウム「東日本大震災に伴う原発事故の放射能汚染対策 10 年を振り返る」（2022 年 10 月 28 日、福島テルサ【招待有】）
- (15) 関谷直也、東京電力福島第一原子力発電所事故をめぐる国際比較調査 2017→2022、第四回福島大学・東京大学・立命館大学 原子力災害復興連携フォーラム 東京電力福島第一原子力発電所事故後の「生活再建」と「国際的な理解醸成」（2023 年 2 月 8 日、コラッセふくしま）
- (16) 関谷直也、風評被害のメカニズム—東京電力福島第一原子力発電所事故後のリスクの社会的増幅（2023 年 3 月 13 日、「原子力に関わる人文・社会科学的総合知問題」研究専門委員会、社会・環境部会「『総合知』の視点と原子力利用の諸課題：『風評』問題をめぐって」、日本原子力学会 2023 年春の年会、東京大学駒場キャンパス【招待有】）
- (17) 佐竹健治・前野深・西田究・サッパシーアナワット・関谷直也、トンガ海底火山噴火とそれに伴う津波の予測と災害に関する総合調査—科学研究費特別研究促進費による突発災害調査研究令和 3 年度報告—、令和 4 年度「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第 2 次）」成果報告シンポジウム（2023 年 3 月 6 日、東京大学（ハイブリッド））
- (18) 山口文恵・高原省五・山本一也・関谷直也、屋内退避に対する住民意識—茨城県水戸市における事例—、東日本大震災・原子力災害第 1 回学術研究集会（2023 年 3 月 17 日、コラッセふくしま）
- (19) 葛西優香・関谷直也、復興過程における 20 代～30 代の継承意識—福島県双葉郡の神社再建、神楽・民俗芸能、盆踊りの継承プロセスを通じて—、東日本大震災・原子力災害第 1 回学術研究集会（2023 年 3 月 17 日、コラッセふくしま）

- (20) 関谷直也・小山良太、東京電力福島第一原子力発電所事故後の海外からみた福島のイメージ、東日本大震災・原子力災害第1回学術研究集会（2023年3月17日、コラッセふくしま）
- (21) 姜婉清・関谷直也、東京電力福島第一原子力発電所事故における風評対策の変遷—いわき市、福島県、中央省庁の事例を中心に—、日本災害情報学会第26回学会大会（2023年3月21日、国士舘大学世田谷キャンパス）
- (22) 富澤周・関谷直也、災害対策における「協議会」の成立、日本災害情報学会第26回学会大会（2023年3月21日、国士舘大学世田谷キャンパス）
- (23) 服部正幸・関谷直也・小山良太、原子力災害被災地における住民コミュニケーションの実態と地域再生の課題—双葉郡葛尾村における全戸訪問悉皆調査を通して、日本災害情報学会第26回学会大会（2023年3月21日、国士舘大学世田谷キャンパス）
- (24) 葛西優香・関谷直也、住民活動再興における祭祀の意味—福島県双葉郡浪江町の事例を通じて—、日本災害復興学会 2022 年度京都大会、(2022 年 10 月 1 日～2 日、京都大学)
- (25) 葛西優香・関谷直也、共同性再興における祭祀の意味～福島県双葉郡浪江町の事例を通じて～、日本災害情報学会第 25 回学会大会、(2022 年 10 月 8 日～9 日、日本大学)
- (26) 葛西優香・関谷直也、復興過程における 20 代～30 代の継承意識—福島県双葉郡の神社再建、神楽・民俗芸能、盆踊りの継承プロセスを通じて—、2022 年度東日本大震災・原子力災害学術研究集会、(2023 年 3 月 17 日、コラッセふくしま)
- (27) 静間健人、東日本大震災・原子力災害伝承館の認知度調査—調査・研究部門について—、地域安全学夏の学校（2022 年 8 月 19 日、神奈川大学）
- (28) 静間健人、災害伝承施設来館者の想いの変化—自由記述の分析—、日本応用心理学会第 88 回大会（2022 年 9 月 18 日、京都工芸繊維大学）
- (29) 静間健人、支援調査と支援記録の定量的分析（西日本豪雨）、日本災害復興学会 2022 年度京都大会（2022 年 10 月 1 日、京都大学）
- (30) 静間健人、来館者アンケートの分析から見る震災伝承施設体験、日本リスク学会第 35 回年次大会（2022 年 11 月 13 日、京都大学）
- (31) 静間健人・土田昭司・浦山郁、コロナ禍において重視する生活領域と諸活動の関連、日本リスク学会第 35 回年次大会企画セッション（2022 年 11 月 13 日、京都大学）
- (32) 山田修司、震災伝承施設における資料化とその概念的検討：モビリティーズの観点による伝承施設の意義、日本都市学会第 69 回大会（2022 年 10 月 30 日、名古屋学院大学）
- (33) 山田修司、移動経験の不確実性に着目した避難の検討、東北都市学会 2022 年度大会（2022 年 11 月 12 日、石巻専修大学）

- (34) 山田修司、集客施設による避難訓練の取組みと観光危機管理の観点からの考察、令和4年度東北地域災害科学研究集会（2022年12月27日、弘前大学）

5 受賞歴

- (1) 関谷直也、日本心理学会第86回大会、特別優秀発表賞（石橋 真帆、田中 幹人、関谷 直也、国際比較データを用いた外出自粛理由に関する構造の検討）（2022年9月）
- (2) 関谷直也、第21回ドコモ・モバイル・サイエンス賞優秀賞を受賞（『災害情報に関する研究と実践』）（2022年10月）
- (3) 関谷直也、第31回大川出版賞（『災害情報』出版に対して）（2022年12月）

6 社会貢献活動等

(1) 出前講義

- ・ 安田仲宏、敦賀市防災士会「原子力防災」（2022年5月18日）
- ・ 安田仲宏、奈良県生駒市なだ地区自治連合会「原子力発電の基礎知識と原子力防災」、福井原子力センター「あっとほうむ」（2022年6月18日）
- ・ 安田仲宏、東日本大震災・原子力災害伝承館専門講座、福島県立安積高等学校「原子力防災と放射線」（2022年6月26日）
- ・ 安田仲宏、足羽公民館環境学習かたくり学級、足羽公民館「原子力発電の基礎知識と放射線測定体験」（2022年8月4日）
- ・ 安田仲宏、東日本大震災・原子力災害伝承館専門講座、早稲田大学雄弁会「原子力防災と放射線」、（2022年8月29日）
- ・ 安田仲宏、社会福祉施設等関係者対象研修、北海道庁「放射線防護のために必要な知識」（2022年9月15日）
- ・ 安田仲宏、東日本大震災・原子力災害伝承館専門講座、千代田商事「日本のエネルギーの現状・原子炉のしくみ」（2022年11月19日）
- ・ 安田仲宏、奈良県生駒市南地区自治連合会、福井原子力センター「あっとほうむ」「原子力発電の基礎知識と原子力防災」、（2022年11月26日）
- ・ 安田仲宏、米原市婦人会 すみれグループ、福井原子力センター「あっとほうむ」「原子力発電の基礎知識と原子力防災」（2022年11月28日）
- ・ 安田仲宏、「越前若狭のふれあい」モニターを対象とした原子力セミナー、関西電力「原子力・放射線の基礎知識 原子力防災」（2022年12月2日）
- ・ 安田仲宏、令和4年度 自主防災会・女性防火クラブリーダー研修会、敦賀市「原子力災害から命を守る」（2023年2月12日）
- ・ 安田仲宏、放射線・エネルギー等に関する専門家派遣事業・原子力文化財団、三方中学校「放射線の基礎知識・霧箱実習・自然放射線の測定」（2023年2月17日）

- ・ 関谷直也、筑波大学付属駒場中・高等学校、灘中学校・高等学校、高槻中学校・高等学校、ふくしま学宿（2022年12月26日）
- ・ 青砥和希、宇都宮大学地域デザイン科学部「NPO論」（2022年6月29日）
- ・ 青砥和希、福島学院大学短期大学部「人間関係論」（2022年7月14日）
- ・ 葛西優香、特定非営利活動法人東京都中途失聴・難聴者協会「女性のための防災～自分と家族を守り、皆が助かるために何ができるか～」(2022年9月3日)
- ・ 葛西優香、「マインドスケープス事業におけるコンビーニング#2 災禍からのレジリエンス」（2022年9月4日、双葉町産業交流センター）
- ・ 葛西優香、文教大学「地元学」（2022年10月20日）
- ・ 葛西優香、リアル研究員と話そう vol. 2 @双葉みらいラボ（2022年10月20日、福島県立ふたば未来学園）
- ・ 葛西優香、関東学院大学「浪江で体感していること」（2022年10月30日）
- ・ 葛西優香、独立行政法人都市再生機構「UR都市機構職員研修」（2022年10月31日）
- ・ 葛西優香、職員研修「復興過程のエリアマネジメント」（2022年12月16日、浪江町役場）
- ・ 葛西優香、特定非営利活動法人日本防災士機構・防災士フォローアップ研修「防災士の町における役割」（2023年2月18日、オンライン）
- ・ 葛西優香、愛知工業大学「大学生防災フォーラム」（2023年3月8日）
- ・ 静間健人、要配慮者と避難、リアル研究員と話そう！ vol. 1 @双葉みらいラボ（2022年7月22日、福島県立ふたば未来学園）
- ・ 山田修司、哲学が交わるとき、リアル研究員と話そう！ vol. 2 @双葉みらいラボ（2022年10月20日、福島県立ふたば未来学園）

(2) 講演

- ・ 安田仲宏、東邦大学「医学への応用2ー放射線の物理学」、(2022年7月5日)
- ・ 安田仲宏、令和4年度防災教室講習会、福井県教育庁「原子力防災と放射線教育の基礎知識」（2022年8月9日）
- ・ 安田仲宏、自治体職員、実動機関、防災士会、教育関係者対象原子力研修、茨城県教育庁「原子力防災教育の進め方」（2022年8月10日）
- ・ 安田仲宏、教員・自治体職員対象「エネルギーや原子力、放射線等に関する専門家派遣」、美浜町「原子力防災時における対応の基礎」（2022年8月22日）

- ・ 安田仲宏、福井県防災士養成研修、福井県庁「災害と危機管理（原子力防災）」（2022年9月25日）
- ・ 安田仲宏、原子力防災訓練事前研修、敦賀市「災害と危機管理（原子力防災）」（2022年10月16日）
- ・ 安田仲宏、東海村議会原子力問題調査特別委員会「広域避難について」（2022年11月8日）
- ・ 安田仲宏、令和4年度学校における原子力災害対応研修、茨城県教育庁「原子力防災と放射線」（2022年12月1日）
- ・ 安田仲宏、令和4年度講師派遣事業、石川県消防学校「原子力防災 座学と実習」（2022年12月13日）
- ・ 安田仲宏、市幹部職員・自治会代表者・福祉施設職員対象静岡県原子力防災訓練原子力防災講座研修、牧之原市「原子力防災の基礎的な講義」（2023年2月4日）
- ・ 安田仲宏、全国自治体職員対象原子力研修講座、原子力文化財団「原子力防災と放射線」（2023年2月15日）
- ・ 安田仲宏、地域防災シンポジウム、茨城大学「原子力防災と放射線～行動を起こすために最低限知っておくこと」（2023年3月6日）
- ・ 安田仲宏、福島国際研究教育機構 F-REI 第5分野先行研究シンポジウム「Nuclear emergency preparedness and response-Activities and Roles on Japan and Ukraine」（2023年3月14日）
- ・ 安田仲宏、研究成果発表会、東日本大震災・原子力災害伝承館「放射線防護行動の検証」（2021年3月18日）
- ・ 関谷直也、南相馬市市民勉強会、浮舟文化会館「災害復興と人材育成、研究交流」（2022年6月2日）
- ・ 関谷直也、河川関係事務研修会、静岡県河川協会「災害情報と避難行動」（2022年9月7日、札の辻クロスホール）
- ・ 関谷直也、総務省消防庁令和4年度全国防災・危機管理トップセミナー（市区長対象）「適時適切な避難情報の発令について」（2022年11月17日、丸の内ホール&コンファレンススクエア）
- ・ 関谷直也、厚生労働省令和4年度全国食品衛生監視員研修会「『パニック』と『風評被害』」（2022年11月18日、NS 虎ノ門ビル）
- ・ 関谷直也、令和3年度防災・日本再生シンポジウム 日本位置の原子力立地 福井県における防災危機管理 X『東日本大震災から10年をふりかえる～広域避難』『新潟における原子力防災』（2022年11月28日、福井大学国際原子力工学研究所）
- ・ 関谷直也、第5回 防災教育特別セミナー『関東大震災から100年～次の巨大災害に備えるために～』、一般社団法人防災教育普及協会「巨大災害の社会心理と情報伝達」（2023年1月23日、大手町サンケイプラザ）

- ・ 関谷直也、第5回 防災教育特別セミナー「関東大震災から100年～次の巨大災害に備えるために～」防災教育普及協会「巨大災害の社会心理と情報伝達—関東大震災と首都直下地震と情報」（2023年2月14日、大手町サンケイプラザ）
- ・ 関谷直也、Reputational damage and distribution damage in radiation disasters after the accident at TEPCO's Fukushima Daiichi Nuclear Power Station, 2023 Fukushima Medical University International Symposium on the Fukushima Health Management Survey "Thinking Together about Health, Life, and our Future in Fukushima", 4 March 2023, Fukushima Medical University: Fukushima City, Fukushima Medical University（関谷直也、東京電力福島第一原子力発電所事故後の風評被害と流通の課題、2023年 福島県立医科大学「県民健康調査」国際シンポジウム「ともに考える福島健康・暮らし・未来」（2023年3月4日、福島県立医科大学福島駅前キャンパス）
- ・ 関谷直也、National Longitudinal survey and International crosssectional survey on Risk Perception and social psychological changes after the accident at TEPCO's Fukushima Daiichi Nuclear Power Station: Reputational damage and distributional damage in radiation disasters, Kick off symposium for a project "Acquisition, preservation, and dissemination of nuclear disaster knowledge", within a framework of "Fukushima Institute for Research, Education and Innovation", National Training Center "J-Village", Naraha Town: Fukushima Prefecture. （2023年3月14日）
- ・ 青砥和希、第127回日本小児精神神経学会「シンポジウム2」（2022年6月26日、白河文化交流館コミネス）
- ・ 青砥和希、第44回全国公民館研究集会・令和4年度東北地区社会教育研究大会・第67回東北地区公民館大会福島大会「現代的課題の解決に向けた社会教育の役割」（2022年10月14日、いわき市文化センター）
- ・ 青砥和希、わかもののまちサミット2022（2022年11月6日、京都市中央青少年活動センター）〔全体登壇〕
- ・ 青砥和希、福島県立相馬総合高等学校「総合的な探究の時間 課題研究校内発表会」（2022年12月8日）〔モデレーター〕
- ・ 青砥和希、福島県教育委員会「令和4年度教育フォーラム」（2022年12月23日、オンライン開催）〔アドバイザー〕
- ・ 葛西優香、東京都葛飾区「女性のための防災講座」（2022年11月14日）
- ・ 葛西優香、日本学術会議公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム2022—原子力災害11年の総括と福島県農林水産業の復興—」（2022年11月19日、双葉町産業交流センター）〔パネリスト〕

- ・ 葛西優香、公益財団法人東京都中小企業振興公社「安全・防災」（2022 年 11 月 24 日）〔分野別会議におけるセミナー講師〕

(3) 企画・運営等

- (1) 関谷直也、東日本大震災・原子力災害全書編集委員会
- (2) 関谷直也、東日本大震災・原子力災害第 1 回学術研究集会実行委員会事務局
- (3) 関谷直也、日本災害情報学会・大会委員長
- (4) 開沼博、福島学カレッジ
- (5) 開沼博、対話福島
- (6) 開沼博、伝承館×東京大学共同研究「旧・帰還困難区域のまちづくりを考える」
- (7) 青砥和希、福島県総合計画審議会委員・委員（2021 年 6 月 5 日～2023 年 6 月 4 日、2023 年 6 月 5 日～2025 年 6 月 4 日）
- (8) 葛西優香、UR 都市機構防災専門員（2020 年 12 月～）
- (9) 葛西優香、日本災害復興学会・企画委員（2023 年 4 月～）
- (10) 青砥和希、伝承と教育を考える公開対談「空白を考える」（2023 年 1 月 16 日、2 月 17 日、3 月 14 日、福島県立ふたば未来学園）〔企画・運営等〕
- (11) 山田修司、研究ワークショップ：災害の社会認識論と災害の語り（2022 年 9 月 3 日、双葉町産業交流センター）〔企画・運営等〕

7 メディア

- (1) 安田仲宏、福井新聞「敦賀・原子力防災調査「市民の関心じわり低下-福島事故 10 年経過 風化懸念」」（2022 年 4 月 6 日）
- (2) 安田仲宏、朝日新聞「原子力防災「関心ある」78%、事故の風化進む 敦賀市民の意識調査」（2022 年 4 月 15 日）
- (3) 安田仲宏、中日新聞「原子力災害「敦賀市と福井大付研 市民アンケートー関心低下、周知が課題」」（2022 年 4 月 22 日）
- (4) 安田仲宏、NHK「現地のウクライナ研究者を雇用へ」（2022 年 5 月 20 日）
- (5) 安田仲宏、日刊県民福井「ウクライナの研究者支援 福井大、講義通じ謝礼 原発安全確保に奔走」（2022 年 5 月 21 日）
- (6) 安田仲宏、中日新聞「ウクライナから講義 福井大が謝礼 原発研究仲間 物心支えたい」（2022 年 5 月 21 日）
- (7) 安田仲宏、中日新聞「チェルノブイリ支援、研究者の絆 福井大、オンライン講義企画」（2022 年 5 月 21 日）
- (8) 安田仲宏、日刊県民福井「ウクライナで原発責任者 安全確保へ物質支援訴え 福井大研究所オンラインで講義」（2022 年 5 月 26 日）
- (9) 安田仲宏、中日新聞「ウクライナの原発責任者 安全確保へ物資支援訴え」（2022 年 5 月 26 日）

- (10) 安田仲宏、NHK「ウクライナ研究者が学生に講義」(2022 年 5 月 26 日)
- (11) 安田仲宏、FBC 福井放送「ウクライナ支援 福井大学」(2022 年 5 月 26 日)
- (12) 安田仲宏、福井テレビ「ウクライナの原子力研究者がオンライン授業 福井大学」(2022 年 5 月 26 日)
- (13) 安田仲宏、毎日新聞「原子力防災 関心低く 福井大と敦賀市アンケ 若年層に顕著 啓発を模索」(2022 年 6 月 29 日)
- (14) 安田仲宏、北陸朝日放送「「戦争と核」⑤ロシアが核の盾も 日本の原発防衛はいま (木下容子ワイド! スクランブル シリーズ)」(2022 年 8 月 11 日)
- (15) 安田仲宏、毎日新聞「原発ニュースウォッチ 実効性高める工夫必要 国の総合防災訓練」(2022 年 11 月 25 日)
- (16) 安田仲宏、読売新聞「原子力防災 情報を交換 ウクライナの専門家 敦賀市長と面談」(2023 年 2 月 11 日)
- (17) 安田仲宏、福井新聞「「敦賀で心と体休めて」市長激励 来日のウクライナ研究者に」(2023 年 2 月 11 日)
- (18) 安田仲宏、日刊県民福井「ロシア攻撃を受けた原発安全確保に尽力 ウクライナから研究者 4 人 福井大付属研究所受け入れ 敦賀」(2023 年 2 月 11 日)
- (19) 安田仲宏、読売新聞「原子力防災 関心高めて 福井大生ら体験報告会「避難の準備 大事」」(2023 年 2 月 12 日)
- (20) 安田仲宏、読売新聞「安定ヨウ素剤配布 4 割 原子力防災への関心低下指摘」(2023 年 2 月 15 日)
- (21) 安田仲宏、福井新聞「放射線「意外と身近」 若狭町・三方中 60 人線量測定」(2023 年 2 月 18 日)
- (22) 安田仲宏、読売新聞「原発攻撃 伝えるのが使命 ウクライナの専門家 講演 外出の自由なく「作業員は人質」」(2023 年 3 月 3 日)
- (23) 安田仲宏、読売新聞「原子力の行方 原発攻撃 危機乗り越える ウクライナの専門家 福島で公演 増設の発電機稼働」(2023 年 3 月 16 日)
- (24) 関谷直也、日刊工業新聞「防災・減災、大規模災害待ったなし 「富士山噴火」いつ起こる？」(2022 年 5 月 4 日)
- (25) 関谷直也、NHK「原発事故処理水放出 64.8%が「知らない」 国内外で理解進まず 東大などが調査」(2022 年 5 月 18 日)
- (26) 関谷直也、読売新聞東京「ヨウ素剤配布先 拡大 原発事故に備え 半径 5～30 キロ圏に＝新潟」(2022 年 6 月 4 日)
- (27) 関谷直也、毎日新聞地方新潟「柏崎刈羽原発：柏崎刈羽 避難委、報告書案了承 再稼働三つの検証 一部は議論継続／新潟」(2022 年 6 月 6 日)
- (28) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「県の避難委、条件提示のみ 原発事故、被曝シミュレーション／新潟県」(2022 年 6 月 6 日)

- (29) 関谷直也、読売新聞東京「原発避難報告書で素案 次回以降会合で最終案＝新潟」(2022年6月6日)
- (30) 関谷直也、新潟日報「県原発検証委 避難時被ばく試算を 報告書案了承へ」(2022年7月3日)
- (31) 関谷直也、NHK「御嶽山噴火訴訟・賠償認めず 専門家「火山現象予測に限界あることを伝えるべき」」(2022年7月13日)
- (32) 関谷直也、新潟日報「県の原発検証巡り報告書 「避難」456の論点抽出 解決、検証に踏み込まず」(2022年9月4日)
- (33) 関谷直也、毎日新聞地方新潟「柏崎刈羽原発：報告書に456の論点 柏崎刈羽「三つの検証」、避難委が議論終了 県、計画への反映着手へ／新潟」(2022年9月4日)
- (34) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「避難委、報告書を了承 再稼働は見通せず 原発「三つの検証」／新潟県」(2022年9月4日)
- (35) 関谷直也、読売新聞東京「原発避難 報告書案を了承 有識者委 12項目456論点 県に指摘＝新潟」(2022年9月4日)
- (36) 関谷直也、新潟日報「県原発検証委 避難方法456の論点示す 知事に報告書提出」(2022年9月22日)
- (37) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「原発事故時避難、「論点の検討を」 委員長、知事に報告書／新潟県」(2022年9月22日)
- (38) 関谷直也、読売新聞東京「原発避難検証 知事に報告書＝新潟」(2022年9月22日)
- (39) 関谷直也、毎日新聞地方新潟「柏崎刈羽原発：柏崎刈羽原発 知事に報告書提出 避難委「情報公開特に重要」／新潟」(2022年9月22日)
- (40) 関谷直也、新潟日報「県の原発「三つの検証」 4会場で説明会開催 来月」(2022年10月26日)
- (41) 関谷直也、NHK「ソウル転倒事故 専門家 人が集まりやすい狭い路地や坂道はリスク 大規模災害でも」(2022年10月31日)
- (42) 関谷直也、NHK「立ったまま気を失った人も 現場で何が(ニュース7)」(2022年10月31日)
- (43) 関谷直也、新潟日報「三つの検証座長に問う 県が長岡で住民説明会」(2022年11月6日)
- (44) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「避難委報告説明、住民は不安次々 原発「三つの検証」／新潟県」(2022年11月6日)
- (45) 関谷直也、福島民報「食の流通加速化へ議論 双葉で日本学術会議」(2022年11月20日)
- (46) 関谷直也、福島民報「ふくしまは負けない／明日へ 高校生、処理水問題考える Jヴィレッジで浜通り会議」(2022年12月19日)

- (47) 関谷直也、NHK「大雪・新潟で車の大規模立往生 検索ワード分析 上位に「ライブカメラ」「スタック」」(2022年12月23日)
- (48) 関谷直也、福島民報「ふくしまは負けない／明日へ 高校生が原子力災害学ぶ 双葉の伝承館 専門講座が最終回」(2022年12月27日)
- (49) 関谷直也、河北新報「あすへ 東日本大震災／福島・双葉 原子力災害伝承館／風評被害解消 正確な発信で／研究員、中高生に「専門講座」 福島県双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館」(2022年12月28日)
- (50) 関谷直也、福島民友新聞「県内ニュース 風評の原因や実態解説 伝承館研究員、双葉で中高生向け講座」(2023年1月6日)
- (51) 関谷直也、河北新報「河北春秋 2013 年秋、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故を経験した子どもたち取材した時のこと。「宮城と入力すれば『東北楽天』、岩手は『あまちゃん』」(2023年1月8日)
- (52) 関谷直也、読売新聞大阪「[阪神大震災 28 年 情報技術×防災] (下) 「スマホ頼み」リスク」(2023年1月15日)
- (53) 関谷直也、福島民報「ふくしまは負けない／明日へ 原子力災害復興 8 日フォーラム 福島」(2023年2月2日)
- (54) 関谷直也、読売新聞東京「[サイエンスR e p o r t] 福島原発事故 農産物 流通経路回復せず」(2023年2月5日)
- (55) 関谷直也、河北新報「処理水 福島産に不安感／アジア・欧米 ネット調査／「危険」 日本以外で6割 東京電力福島第1原発事故に対する国内外での意識調査で、処理水の海洋放出による福島県産」(2023年2月8日)
- (56) 関谷直也、信濃毎日新聞「処理水海洋放出、国内外で意識調査 福島県産品、不安感なお強く 風評被害対策、海外に届かず」(2023年2月8日)
- (57) 関谷直也、愛媛新聞「「福島県産品に不安感」 処理水放出 国内外で意識調査 東京大大学院」(2023年2月8日)
- (58) 関谷直也、岩手日報「「福島産」処理水で不安感 東大の国内外意識調査 海外に風評対策届かず」(2023年2月8日)
- (59) 関谷直也、福島民友新聞「県内ニュース 福島県産品の安全性、海外から不安 処理水放出の意識調査」(2023年2月8日)
- (60) 関谷直也、北海道新聞「福島産品 処理水で不安感* 東大院准教授 10 カ国調査* 海外に風評対策届かず」(2023年2月8日)
- (61) 関谷直也、神戸新聞「<ニュース ピックアップ> 処理水放出で福島産品に不安感」(2023年2月9日)
- (62) 関谷直也、朝日新聞地方福島「処理水放出、海外で懸念 東大院准教授が意識調査／福島県」(2023年2月9日)
- (63) 関谷直也、福島民友新聞「県内ニュース 処理水、福島県産食品... 海外不安拭う情報を 災害復興フォーラム」(2023年2月9日)

- (64) 関谷直也、福島民報「意識調査結果を報告 福大と東大復興フォーラム 福島」(2023年2月9日)
- (65) 関谷直也、読売新聞東京「福島産 中韓「危険」9割 処理水放出 海外、風評根強く 東大アンケート」(2023年2月14日)
- (66) 関谷直也、読売新聞東京「県産食品 中韓「危険」9割 処理水放出 海外、風評根強く 東大アンケート=福島」(2023年2月15日)
- (67) 関谷直也、福島民報「震災・原発事故12年 復興の分岐点 福島国際研究教育機構 教育機能議論加速を 人材定着に不可欠」(2023年3月3日)
- (68) 関谷直也、福島民友新聞「県内ニュース 甲状腺がん「肥満関連」 福島医大国際シンポ、米研究成果を報告」(2023年3月5日)
- (69) 関谷直也、福島民報「「被ばく影響考えにくい」 米国の専門家 放射線量低く 原発事故県民健康調査国際シンポ」(2023年3月5日)
- (70) 関谷直也、朝日新聞東京「(東日本大震災12年 3.11の現在地) 原発避難、テロより怖い雪」(2023年3月6日)
- (71) 関谷直也、福島民友新聞「県内ニュース 【処理水の波紋・理解の深度】 海外の懸念拭えず「事実伝えないと」」(2023年3月6日)
- (72) 関谷直也、読売新聞東京「[かながわ防災リポート] イベント会場で避難訓練=神奈川」(2023年3月12日)
- (73) 関谷直也、朝日新聞東京「(東日本大震災12年) 福島の生産者に聞く：上 戻った笑顔、豊かな海を守る」(2023年3月15日)
- (74) 開沼博、NHK福島放送ラジオ「こでらんにふくしま」レギュラー出演
- (75) 開沼博、電気新聞うぇいぶ連載
- (76) 福島民友新聞「『知の交流拠点』へ一步 双葉・伝承館開館2年、研究事業本格化」(2022年9月19日)
- (77) 青砥和希・葛西優香・静間健人・山田修司、福島民友「被災地の調査・研究報告 伝承館常任研究員、県を表敬」(2023年2月11日)
- (78) 青砥和希・葛西優香・静間健人・山田修司、福島民報「伝承館研究員が知事訪問 活動報告、復興推進誓う」(2023年2月11日)
- (79) 葛西優香、文化放送(ラジオ)「防災アワー」(2022年8月7日)
- (80) 葛西優香、福島民報「地域の防災力向上へ奔走 震災・原子力災害伝承館の葛西さん福島県浪江町に移住」(2022年10月26日)
- (81) 葛西優香、茨城放送(ラジオ)「防災のチカラ」(2023年1月6日)
- (82) 葛西優香、テレビユー福島「『一生懸命生きてきた。継続できるように備えよう』大阪出身女性が福島移住 2つの震災経て『防災』伝える」(2023年1月12日)
- (83) 葛西優香、浪江町「震災遺構浪江町立請戸小学校ホームページ」インタビュー掲載(2023年2月15日)

- (84) 葛西優香、福島民友新聞『『なみえ寺子屋』始動 町民と移住者がタッグ、伝統芸能を継承』(2023年3月7日)
- (85) 葛西優香、読売新聞「地域のつながり 防災に 伝承館常任研究員 浪江に移住し奮闘」(2023年3月8日)
- (86) 葛西優香、文春オンライン『『人の営みがない。音も聞こえない…』防災組織を研究する 36歳女性が、福島県浪江町に移り住んだわけ 3.11から12年、あの震災の語り部たち#1』(2023年3月11日)
- (87) 葛西優香、福島放送「県政広報番組チャレンジふくしまナビ：伝承館研究活動報告会」(2023年3月31日)
- (88) 葛西優香、浪江町「浪江町移住定住ガイドブック」インタビュー掲載(2023年3月)
- (89) 葛西優香、日本災害情報学会 News Letter、No.93：7「町の継承～変えられないものの背景にある住民心理を問う～」(2023年4月〔寄稿〕)
- (90) 山田修司、福島民友新聞「哲学で復興ひもとく 双葉・伝承館開館2年、被災者の思い言語化へ」(2022年9月19日)
- (91) 山田修司、福島放送「県政広報番組チャレンジふくしまナビ：伝承館研究活動報告会」(2023年3月31日)

■令和5年度

1 外部研究費の獲得状況

- (1) 高村昇、福島イノベーション・コースト構想推進機構・大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業「災害・被災者医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」2021年4月～2026年3月
- (2) 高村昇、環境省・放射線健康管理・健康不安対策事業（放射線の健康影響に係る研究調査事業）「双葉町、大熊町における処理水、除去土壌、廃炉に関するリスク認知評価と、リスクコミュニケーションおよびそれに資する環境放射能評価の推進」2023年4月～2026年3月〔主任研究員〕
- (3) 関谷直也、福島国際教育研究機構・委託研究事業「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信（大規模災害とデータサイエンス）」2024年3月～〔研究代表者〕
- (4) 関谷直也、公益財団法人食生活研究会・特別助成金「東京電力福島第一原子力発電所事故の社会的影響」
- (5) 関谷直也、日本学術振興会・科学研究費助成事業（基盤研究(B)）「長期避難を余儀なくされた被災者の調査と支援に関する研究」2023年～2026年（研究代表者：立命館大学・丹波史紀）〔研究分担者〕
- (6) 関谷直也、日本学術振興会・特別研究促進費「トンガ海底火山噴火とそれに伴う津波の予測と災害に関する総合調査」2021年～2023年（研究代表者：東京大学・佐竹健治）〔研究分担者〕
- (7) 開沼博、福島国際教育研究機構委託研究事業「福島浜通り地域におけるまちづくり研究及びラーニング・コミュニティハブ整備事業」事業テーマ（2）

福島浜通り地域におけるラーニング・コミュニティハブの整備「コミュニティ&コミュニケーションの場の創出に関わる実践研究」2024 年 3 月～
〔研究代表者〕

- (8) 静間健人、日本自然災害学会・令和 5 年度第 2 回災害調査補助制度「東日本大震災・原子力災害による避難先での避難行動要支援者名簿の作成状況及び課題についての調査」2023 年 12 月～2024 年 3 月〔研究代表者〕
- (9) 山田修司、日本学術振興会科学研究費助成事業・研究活動スタート支援、「構成的な道徳的行為者性の把握に向けた移動研究の技術倫理的展開」2023 年 8 月～2026 年 3 月〔研究代表者〕

2 書籍（単著・分担執筆含む）

- (1) 関谷直也、「関東大震災の社会的影響」『関東大震災と東京大学』東京大学出版会

3 論文

- (1) Hande V, Orita M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Xiao X, Taira Y, Takamura N. Importance of improving radiation risk perception during reconstruction of Futaba town at 11 years after lifting of Fukushima nuclear accident evacuation orders. Radioprotection 58(4): 261-9, 2023.
- (2) Liu M, Orita M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Xiao X, Takamura N. Temporal variation in environmental radioactivity and radiation exposure doses in the restricted areas around the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. Sci Rep 13:22459, 2023.
- (3) Palmer J, Ahmed S, Allen S, Amra A, Andrew R, Chowdhury AB, Bellizzi S, Das S, de Almeida L, Andrade PdC, Brandão LdS, Sadutshang TD, Ekawati L, Costa IMF, Gan P, Garcia G, Kumar A, Lacerda M, Le XP, Liu J, Manerkar S, d'Unienville AM, Melo J, Mkosi A, Ohanesian A, Pieter Y, Preston N, Proujansky AP, Rico G, Swaka AS, Sidhu A, Siquiera A, Takamura N, Trenchard T, van Moll D, Villasana D, Waguih A, Werning I, Wu YH, Min TY, Zellweger M. Highlights 2023: capturing diverse health stories. Lancet 402(10420):2396-476, 2023.
- (4) Hande V, Orita M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Xiao X, Schneider T, Lochard J, Taira Y, Takamura N. Thoughts, perceptions and concerns of coastal residents regarding the discharge of tritium-containing treated water from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant into the Pacific Ocean. BMC Public Health 23(1):2436, 2023.
- (5) Taira Y, Matsuo M, Orita M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Xiao X, Hirao S, Takamura N. Regional case studies: Environmental

- radioactivity levels and estimated radiation exposure doses of residents and workers in areas affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. *Rad Env Medicine* 12(1): 37-52, 2023.
- (6) Matsunaga H, Orita M, Xiao X, Kashiwazaki Y, Taira Y, Takamura N. Latest Topics of Interest on Radiation Risk Communication: A Decade After Japan's Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. *Disaster Med Public Health Prep* 17:e531, 2023.
 - (7) Matsunaga H, Xu X, Orita M, Kashiwazaki Y, Taira Y, Takamura N. Twelve years on: An evaluation of mental health status in Tomioka Town, located within 20 km of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station. *J Radiol Prot* 43(2), 2023.
 - (8) Thu Zar W, Matsunaga H, Xiao X, Lochard J, Orita M, Takamura N. An analysis of the desire to make radiation measurements and to dialogue with experts among the residents of Tomioka town, Fukushima Prefecture: about the implementation of the co-expertise process. *Radioprotection* 58(2), 79, 2023.
 - (9) Hande V, Orita M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Taira Y, Takamura N. Changes in the intention to return and the related risk perception among residents and evacuees of Tomioka town 11 years after the Fukushima nuclear accident. *Disaster Med Public Health Prep* 17(e386):1-8, 2023.
 - (10) Xiao X, Matsunaga H, Orita M, Kashiwazaki Y, Taira Y, Win TZ, Lochard J, Schneider T, Takamura N. Assessment of the radiation risk perceptions and interest in tritium water among the returnee and evacuee in Tomioka Town within 20 km from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *Int J Environ Res Public Health* 20(3):2690, 2023.
 - (11) Hande V, Orita M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Taira Y, Takamura N. Comparison of quality of life between elderly and non-elderly adult residents in Okuma town, Japan, in a post-disaster setting. *PLoS One* 18(2): e0281678, 2023.
 - (12) Matsunaga H, Xiao X, Hande V, Orita M, Y. Kashiwazaki Y, Taira Y, Takamura N. Frequency of visits to Tomioka town and related factors among evacuees more than a decade after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. *J Radiat Res* 64(3), 530-537, 2023.
 - (13) Takamura N, Orita M, Matsunaga H, Taira Y. Eleven years of community efforts for the recovery from the nuclear disaster. *Environ Advan*, 11, 2023.

- (14) 関谷直也、ALPS 処理水に関する住民意識：2019 年、2021 年、2023 年調査より一特集 今改めて原子力発電について考える、生活協同組合研究 571 (2023 年 8 月) : 40-48、2023
- (15) 関谷直也、災害の心理学—Normalcy Bias とパニックに着目して、月刊フェスク 2023 年 7 月号 : 2-7、2023
[online] <https://www.fesc.or.jp/monthly-fesc/api/magazines/187/pdf>
- (16) 関谷直也、パニックと流言—特集 都市災害に備える：関東大震災から 100 年、運輸と経済 83(9) (2023 年 9 月) : 60-65、2023
- (17) 関谷直也、災害時の流言と求められる対応 : 不安・怒り・善意が広げる仕組み—関東大震災の教訓を現代に、新聞研究 (859)2023 年 11 月号、日本新聞協会 : 24-27、2023
- (18) 関谷直也、原子力災害と風評被害 (特集 原発事故と健康影響—福島県民健康調査と風評対策)、公衆衛生 87(11)、2023 年 11 月 : 1086-1093、2023
- (19) 関谷直也、関東大震災の現代的意味：災害の真理を見つけ、「忘却」「風化」に抗い、「継承」「伝承」すること、UP52 (11) : 10 - 16、2023
- (20) 関谷直也、物理と心理、日本原子力学会誌 ATOMO Σ 65(4) : 213、2023 【依頼論文】 [online] <https://doi.org/10.3327/jaesjb.65.4.213>
- (21) 関谷直也、東京電力福島第一原子力発電所事故の ALPS 処理水の経緯と課題、季刊経済研究 42(1-3) : 22-40、2023
- (22) 石橋真帆・安本真也・関谷直也、日本における新型コロナウイルス感染症に対する価値観の実態—第 3 波における社会調査データを用いた検討—、災害情報 21-1 : 81-91、2023 【査読論文】
- (23) 富澤周・関谷直也、地方自治体における総合的な災害対策と災害法制の関係に関する一考察—災害対策基本法及び活動火山対策特別措置法の制定過程に着目して—、地域安全学会論文集 43 : 167-177、2023 【査読論文】
- (24) 齋藤さやか・安本真也・関谷直也、地震動予測地図における確率表現のリスク認知—全国意識調査をもとに、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編、No. 40 : 51-135、2024
- (25) 開沼博、「空転する反パターンリズム依存症—特集 ポストコロナの勝機」Voice (546) : 146-150、2023
- (26) 中村満寿央・田村太郎・菅磨志保・静間健人、被災世帯を対象とする支援需要評価に関する研究—生活再建への移行期における被災者生活実態調査の実践から—、日本災害復興学会論文集、No. 23 : 31-42、2024 (分担執筆) 【査読有】
- (27) 山田修司、震災伝承施設における資料化とその概念的検討、日本都市学会年報、56 巻 : 193-202、2023 【査読有】

4 学会報告 (口頭発表、ポスター発表)

- (1) K. Yoshida, N. Nakao, Y. Yuge, K. Tashiro and N. Yasuda, Visualization of spatio-temporal variation of air dose rate due to precipitation and development of rapid alert method in case of nuclear disaster, Third Edition of the Scientific International Conference on CBRNe, Rome, 2023/Sep/26.

- (2) N. Yasuda, Lessons learned from radiation protection according to ICRP reference levels after the accident at Fukushima, Third Edition of the Scientific International Conference on CBRNe, Rome, 2023/Sep/26.
- (3) N. Yasuda, Lessons learned from responding to the nuclear disaster -Feedback to natural disaster response on information / communication, wide-area evacuation and training / education (Invited talk), Third Edition of the Scientific International Conference on CBRNe, Rome, 2023/Sep/26.
- (4) 吉田佳乃子・安田仲宏、原子力災害時における住民放射線防護の意思決定を支援する時空間解析による空間線量率異常値検出方法、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 27 日～29 日、福島学院大学福島駅前キャンパス）
- (5) 弓削勇輔・中尾虹海・吉田佳乃子・安田仲宏、原子力災害避難時における甲状腺被ばく線量モニタリングの実現性の検討、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 27 日～29 日、福島学院大学福島駅前キャンパス）
- (6) 中尾虹海・田代研・安田仲宏、東京電力福島第一原子力発電所事故後における原子力防災対策の課題抽出と調査、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 27 日～29 日、福島学院大学福島駅前キャンパス）
- (7) 吉田佳乃子・中尾虹海・弓削勇輔・安田仲宏、東電福島第一原発事故初期の時空間情報統合による住民避難計画の検証（東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会、2024 年 3 月 19 日～20 日、コラッセふくしま）
- (8) 弓削勇輔・吉田佳乃子・中尾虹海・安田仲宏、原子力災害避難時における甲状腺被ばく線量モニタリングの実現性の検討（2）、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日～20 日、コラッセふくしま）
- (9) 中尾虹海・弓削勇輔・吉田佳乃子・安田仲宏、東電福島第一原発事故後の放射線防護対策における課題の検証（1）、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日～20 日、コラッセふくしま）
- (10) 谷山勇士朗・後藤裕瑛・中尾虹海・弓削勇輔・吉田佳乃子・小山智加・安田仲宏、学校の原子力防災（1）—全国の状況と福井県敦賀市・美浜町への聞き取り—、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日～20 日、コラッセふくしま）
- (11) 三宅真太郎・関谷直也・安本真也・佐藤翔輔・吉本充宏・石峯康浩・秦康範、トンガ海底火山の噴火に伴う潮位変化に対する自治体対応—津波警報・注意報が発表された市町村における避難情報等の伝達状況調査—、第 42 回日本自然災害学会学術講演会（2023 年 9 月 17 日、金沢大学）

- (12) 富澤周・関谷直也、火山防災協議会における「事前に定めた計画」に基づく立入規制と阿蘇火山防災会議協議会の関係の考察、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 28 日、福島学院大学福島駅前キャンパス）
- (13) 福井桃子・濱田健夫・ハウタサーリアリ・関谷直也、VR を用いた列車内のパニック防止のための研究、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 28 日、福島学院大学福島駅前キャンパス）
- (14) 三浦瑞貴・葛西優香・開沼博・関谷直也、被災地復興のステップを考慮した特定復興再生拠点区域における住宅の比較分析、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 28 日、福島学院大学福島駅前キャンパス）
- (15) 橘清司・関谷直也、福島第一原発事故後の避難自治体における復興過程、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 28 日、福島学院大学福島駅前キャンパス）
- (16) 葛西優香・関谷直也、住民自治組織の形成過程と「祭」再興の関係性～双葉郡浪江町の事例に着目して～、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 28 日、福島学院大学福島駅前キャンパス）
- (17) 佐藤翔輔・関谷直也・安本真也・吉本充宏・石峯康浩・秦康範、トンガ海底火山の噴火に伴う潮位変化に対する住民の対応—津波警報・津波注意報が発表された地域の住民に対する質問紙調査—、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 28 日、福島学院大学福島駅前キャンパス）
- (18) 石橋真帆・三羽恵梨子・坂井愛理・島田裕平・関谷直也・富尾淳、災害医療体制に関するコミュニケーションの現状と課題、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 29 日、コラッセふくしま）
- (19) 服部正幸・関谷直也・小山良太、原子力災害被災地における住民コミュニケーションの実態と地域再生の課題—双葉郡葛尾村における全戸訪問悉皆調査を通して—（第 2 報） D6
- (20) 安本真也・葛西優香・富澤周・内田充紀・関谷直也、地震防災における感情的アプローチの可能性—ドラマ「パラレル東京」による認知の変化についての追加分析—、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 29 日、コラッセふくしま）
- (21) 福井桃子・渡邊英徳・関谷直也、デジタルアーカイブによる地下鉄サリン事件の風化防止、第 53 回（2023 年度）地域安全学会研究発表会（秋季）（2023 年 11 月 19 日、静岡県地震防災センター）
- (22) 石橋真帆・関谷直也、災害イメージの形成プロセスに関する検討—解釈レベル理論に着目して—、日本災害情報学会第 28 回学会大会（2024 年 3 月 16 日、東京大学大学院情報学環・福武ホール）
- (23) 石峯康浩・吉本充宏・秦康範・佐藤翔輔・安本真也・関谷直也、フンガ火山 2022 年噴火災害のトンガ王国内での影響に関する現地調査報告、日本

災害情報学会第 28 回学会大会（2024 年 3 月 16 日、東京大学大学院情報学環・福武ホール）

- (24) 葛西優香・関谷直也、コミュニティ生成過程への着目～双葉郡浪江町の事例を通じて～、日本災害情報学会第 28 回学会大会（2024 年 3 月 16 日、東京大学大学院情報学環・福武ホール）
- (25) 周テキブン・関谷直也、東京電力福島第一原子力発電所 ALPS 処理水放出時における反対意見形成過程に関する研究—中国ショートビデオプラットフォーム Douyin（抖音）を中心に—、日本災害情報学会第 28 回学会大会（2024 年 3 月 16 日、東京大学大学院情報学環・福武ホール）
- (26) 石橋真帆・関谷直也、東京電力福島第一原子力発電所事故に関する解釈の具体性に関する検討、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）
- (27) 葛西優香・高原耕平・岩本裕貴・関谷直也、「ふくしまボイス」報告—安全な対話の場は浜通りに何をもたらすか—、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）
- (28) 関谷直也、東京大学大学院情報学環東京電力福島第一原子力発電所事故の ALPS 処理水放出と合意形成、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）
- (29) 丁可・開沼博、中国における処理水放出反対言説の分析、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 27 日、福島学院大学福島駅前キャンパス）
- (30) 吉田豊・根本豪己・山田拓実・開沼博、福島復興を再考する：双葉町・大熊町・富岡町・浪江町の飲食店事業者の語りから、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 27 日、福島学院大学福島駅前キャンパス）
- (31) ト新哲・開沼博、ALPS 処理水放出をめぐる中国の SNS における世論の一調査—微博と知乎におけるネット世論に着目して—、日本災害情報学会第 27 回学会大会（2023 年 10 月 27 日、福島学院大学福島駅前キャンパス）
- (32) 福西理紗子・開沼博、チャリティー番組の番組内容・視聴率・寄付額に対する災害の影響—『24 時間テレビ』を事例として—、日本災害情報学会第 28 回学会大会（2024 年 3 月 16 日～17 日、東京大学大学院情報学環・福武ホール）
- (33) 徐氷岩・開沼博、処理水放出直後に訪日した中国人観光客の SNS 上の投稿の分析、日本災害情報学会第 28 回学会大会（2024 年 3 月 16 日～17 日、東京大学大学院情報学環・福武ホール）
- (34) 海老名悠希・開沼博、発災により実現した幼稚園カウンセリングで寄せられた主訴は、平時と変わらない、日本災害情報学会第 28 回学会大会（2024 年 3 月 16 日～17 日、東京大学大学院情報学環・福武ホール）
- (35) 吉田豊・根本豪己・山田拓実・開沼博、福島復興を再考する：双葉町・大熊町・富岡町・浪江町の飲食店事業者の語りから（2）、日本災害情報学会第 28 回学会大会（2024 年 3 月 16 日～17 日、東京大学大学院情報学環・福武ホール）
- (36) ト新哲・石井晴音・葛西優香・開沼博、印象に残り、未来を考えるきっかけとなる展示とは？—東日本大震災・原子力災害伝承館への来館者を対象

- にした調査をとおして一、日本災害情報学会第 28 回学会大会（2024 年 3 月 16 日～17 日、東京大学大学院情報学環・福武ホール）
- (37) 金子巧・開沼博、国内避難民の社会的孤立を防ぐ一難民からの示唆一、日本災害情報学会第 28 回学会大会（2024 年 3 月 16 日～17 日、東京大学大学院情報学環・福武ホール）
 - (38) 丁可・開沼博、中国における処理水放出反対言説の社会心理学的研究、日本災害情報学会第 28 回学会大会（2024 年 3 月 16 日～17 日、東京大学大学院情報学環・福武ホール）
 - (39) 開沼博・井上天凱、福島・東京の高校生の 3.11 に対する認識の現状と課題、日本災害情報学会第 28 回学会大会（2024 年 3 月 16 日～17 日、東京大学大学院情報学環・福武ホール）
 - (40) 柳瀬一樹・開沼博、いかにして能登半島地震に際してチャリティーアニメ配信は実現したのか？—『花咲くいろは』を事例として—、日本災害情報学会第 28 回学会大会（2024 年 3 月 16 日～17 日、東京大学大学院情報学環・福武ホール）
 - (41) 奥山泰牙・佐藤弥人・開沼博、福島県浜通りにおいて 3.11 復興学習に取り組む高校教員の現状分析、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）
 - (42) 丁可・開沼博、中国における処理水放出反対言説の継続的な研究、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）
 - (43) ト新哲・開沼博、中国人の ALPS 処理水海洋放出と日本商品の消費に対する態度—海洋放出から半年後のアンケート調査に基づいて—、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）
 - (44) 吉田久仁子・高橋ももこ・開沼博、ホープツーリズムからみた南相馬市の保育士不足と神奈川県保育者養成校の課題と展望、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）
 - (45) 海老名悠希・開沼博、保育職と協働する心理職が有事に貢献すべきは急性ストレス対策ではない—緊急スクールカウンセラー派遣事業におけるケース分析から—、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）
 - (46) 福西理紗子・開沼博、チャリティー番組の番組内容・視聴率・寄付額に対する災害の影響—『24 時間テレビ』を事例として—、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）
 - (47) 柳瀬一樹・開沼博、いかにして能登半島地震に際してチャリティーアニメ配信は実現したのか？—『花咲くいろは』を事例として—、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）
 - (48) 根本豪己・吉田豊・山田拓実・開沼博、福島復興を再考する—双葉町・大熊町・富岡町・浪江町の飲食店事業者の語りから—、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）
 - (49) 石井晴音・ト新哲・葛西優香・開沼博、何が災害伝承を可能にするのか？—東日本大震災・原子力災害伝承館への来客者へのアンケート調査の結果から—、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）

- (50) 井上天凱・開沼博、震災記憶消滅世代の東日本大震災・原発事故に対する認識の現状と課題、東日本大震災・原子力災害第2回学術研究集会（2024年3月19日、コラッセふくしま）
- (51) 青砥和希、福島県における高校生向け震災伝承プログラムの可能性と課題、令和5年度環境創造センター成果報告会（2023年10月3日、コミュタン福島）
- (52) 葛西優香・関谷直也、集合状態と集団の中間的存在—新しいシステムの誕生を通じて—、第42回日本自然災害学会学術講演会（2023年9月17日、金沢大学）
- (53) 葛西優香、住民自治組織の形成—祭に関わる活動に着目して—、令和5年度環境創造センター成果報告会（2023年10月3日、コミュタン福島）
- (54) 葛西優香・関谷直也、住民自治組織の形成過程と「祭」再興の関係性—双葉郡浪江町の事例に着目して—、日本災害情報学会第27回学会大会（2023年10月28日、福島学院大学／コラッセふくしま）
- (55) 葛西優香、8町村の盆踊り継承過程、エフレイ・フォーラム—環境動態評価を活かしたまちづくり—（2024年2月23日、いわき芸術文化交流館アリオス）
- (56) 葛西優香・関谷直也、コミュニティ生成過程への着目—双葉郡浪江町の事例を通じて—、日本災害情報学会第28回学会大会（2024年3月16日、東京大学大学）
- (57) 葛西優香・高原耕平・岩本裕貴・関谷直也、「ふくしまボイス」報告—安全な対話の場は浜通りに何をもたらすか—、東日本大震災・原子力災害第2回学術研究集会（2024年3月19日、コラッセふくしま）
- (58) 静間健人、災害伝承施設における来館者体験の分析—東日本大震災・原子力災害伝承館の2022年度までの来館者アンケートを用いて—、日本応用心理学会第89回大会（2023年8月26日、亜細亜大学）
- (59) 静間健人、原発避難者に向けた避難元広報誌の情報の変遷、第42回日本自然災害学会学術講演会（2023年9月17日、金沢大学）
- (60) 静間健人、アウトリーチの必要性—フレーミング理論を災害伝承に応用するために—、令和5年度環境創造センター成果報告会（2023年10月3日、コミュタン福島）
- (61) 静間健人、福島県の広域避難者に届けられた情報媒体の内容分析—地元紙のダイジェスト版を対象として—、日本災害情報学会第27回学会大会（2023年10月28日、福島学院大学）
- (62) 野元颯馬・土田昭司・河野和宏・Chayanee WONGSURIYANAN・浦山郁・静間健人・Titaya SARARIT、地震対策促進のための仮想現実および拡張現実を用いた体験型学習アプリケーション開発の試み、日本災害情報学会第27回学会大会（2023年10月28日、福島学院大学）

- (63) 静間健人、原子力防災における要配慮者の整理、日本都市学会第 70 回大会（2023 年 11 月 4 日、小田原 UMECO）
- (64) 静間健人、東日本大震災の避難者への情報支援の内容分析—ふくしまの今が分かる新聞を対象として—、第 36 回日本リスク学会年次大会（2023 年 11 月 11 日、北海道大学）
- (65) 静間健人、復興住宅における生活実態と主観的評価、日本行動科学学会第 39 回ウィンターカンファレンス In 琵琶湖・湖西（2024 年 2 月 18 日、琵琶湖湖畔おごと温泉 湯の宿 木もれび）
- (66) 静間健人、ふくしまの民俗芸能に関する情報の発信—3.11 後の地元新聞を分析の対象として—、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）
- (67) 静間健人、東日本大震災・原子力災害の避難者への情報支援の内容整理—自治体広報誌・ダイジェスト版新聞・避難者向け情報紙を対象として—、第 10 回震災問題研究交流会（2024 年 3 月 20 日、早稲田大学・オンライン）
- (68) 山田修司、移動の機能と主体の技術哲学的考察、応用哲学会第 15 回年次研究大会（2023 年 4 月 23 日、金沢大学）
- (69) 山田修司、倫理的に受容可能な移動の予備的考察、東北都市学会 2023 年度大会（2023 年 9 月 2 日、弘前大学）
- (70) 山田修司、展示から創造へ：震災伝承の認識論モデルの考察と提案、令和 5 年度環境創造センター成果報告会（2023 年 10 月 3 日、コミュタン福島）
- (71) 山田修司、観客性に注目した震災伝承の理論的考察、日本都市学会第 70 回大会（2023 年 11 月 4 日、小田原 UMECO）
- (72) 山田修司、受容可能なリスクと感情のナラティブに関する検討、東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会（2024 年 3 月 19 日、コラッセふくしま）

5 受賞歴

- (1) 関谷直也、第 9 回内川芳美記念メディア学会賞（『災害情報』出版に対して）（2023 年 6 月）
- (2) 関谷直也、防災功労者防災担当大臣表彰（2023 年 9 月）
- (3) 関谷直也、日本自然災害学会第 42 回学術講演会 発表優秀賞（三宅真太郎・佐藤翔輔・吉本充宏・石峯康浩・秦康範・安本真也・関谷直也、2023 「トンガ海底火山の噴火に伴う潮位変化に対する自治体対応—津波警報・注意報が発表された市町村における避難情報等の伝達状況調査—」、第 42 回日本自然災害学会学術講演会、2023 年 9 月 17 日、金沢大学角間キャンパス）
- (4) 関谷直也、日本災害情報学会 第 27 回 学会大会優秀発表賞（服部正幸・関谷直也・小山良太、2023、「原子力災害被災地における住民コミュニケ

ーションの実態と地域再生の課題―双葉郡葛尾村における全戸訪問悉皆調査を通して―（第2報）」、日本災害情報学会第27回学会大会（2023年10月29日、コラッセふくしま）

- (5) 関谷直也、日本災害情報学会第28回学会大会優秀発表賞（周テキブン・関谷直也、2024「東京電力福島第一原子力発電所 ALPS 処理水放出時における反対意見形成過程に関する研究―中国ショートビデオプラットフォーム Douyin（抖音）を中心に―」日本災害情報学会第28回学会大会 2024年3月16-17日、東京大学（口頭発表））

6 社会貢献活動等

(1) 出前講義

- ・ 安田仲宏、福井県美浜町「美浜町における原子力防災-さらなる防災力向上に向けて-」（2023年7月29日、電源地域振興センター）
- ・ 安田仲宏、「原子力の基礎と放射線測定体験」、足羽公民館環境学習かたくり学級（2023年8月3日、足羽公民館）
- ・ 安田仲宏、福井県原子力平和利用協議会令和5年度研修事業「今やるべき原子力防災と廃棄物処理問題への挑戦〜」、「原子力防災の現在-さらなる防災力向上に向けて-」（2023年8月19日）
- ・ 安田仲宏、第2栗野南児童クラブ 原子力防災に関する出前講座「放射線の基礎知識について/防災のおはなし」（2023年8月22日、敦賀市役所）
- ・ 安田仲宏、東日本大震災・原子力災害伝承館専門講座、政策研究大学院大学「原子力災害から命を守る」（2023年9月4日、東日本大震災・原子力災害伝承館）
- ・ 安田仲宏、中日本ハイウェイエンジニアリング名古屋「原子力防災の現在-さらなる防災力向上に向けて-」（2023年10月19日、福井原子力センター「あっとほうむ」）
- ・ 安田仲宏、交野市星田財産区「原子力発電の基礎知識・原子力防災」（2023年11月14日、福井原子力センター「あっとほうむ」）
- ・ 安田仲宏、奈良県生駒市西地区自治連合会「原子力発電の基礎知識と原子力防災」（2024年1月21日、福井原子力センター「あっとほうむ」）
- ・ 安田仲宏、薩摩川内市「原子力防災と放射線」（2024年1月25～26日、電源地域振興センター）
- ・ 関谷直也、新潟高校（2023年7月31日）
- ・ 青砥和希、宇都宮大学「NP0論」（2023年6月1日）
- ・ 青砥和希、福島学院大学「人間関係形成論」（2023年7月6日）
- ・ 青砥和希、福島県立白河高等学校「総合的な探究の時間」（2023年7月7日）
- ・ 青砥和希、国立那須甲子青少年自然の家「総合的な探究の時間」（2023年7月27日）

- ・ 青砥和希、宮城学院女子大学「コミュニティビジネス論」（2023 年 12 月 4 日）
- ・ 青砥和希、宮城学院女子大学「コミュニティビジネス論」（2023 年 12 月 11 日）
- ・ 大杉遥、ふたば未来学園高等学校「放射性廃棄物の処理処分と資源化」（2023 年 6 月 28 日）
- ・ 大杉遥、福井大学「福島高校 S S H と福井大学の交流会」（2023 年 10 月 5 日）
- ・ 葛西優香、福島高校「今、ここで考える、まちづくり」（2023 年 6 月 24 日）
- ・ 葛西優香、関東学院大学「地域創生特論（福島）震災・原子力災害の伝承、防災」（2023 年 10 月 5 日）
- ・ 葛西優香、北海道教育大学「【現代日本社会・文化論Ⅱ】東日本大震災・原子力災害について学ぶ」（2023 年 10 月 18 日）
- ・ 葛西優香、横浜市立幸ヶ谷小学校「防災授業」（2023 年 12 月 4 日）

(2) 講演

- ・ 安田仲宏、東邦大学、「医学への応用 2－放射線の物理学」（2023 年 6 月 27 日）
- ・ 安田仲宏、自治体職員及び実動機関向け講演会「原子力防災と放射線・グループワーク」（2023 年 8 月 7 日、茨城県教育庁）
- ・ 安田仲宏、令和 5 年度講師派遣事業「原子力防災 座学と実習」（2023 年 11 月 8 日、石川県消防学校）
- ・ 安田仲宏、福井県消防職員対象研修「原子力防災」（2023 年 11 月 21 日、福井県消防学校）
- ・ 安田仲宏、福井県防災士養成研修「災害と危機管理（原子力防災）」（2023 年 11 月 26 日、福井県庁）
- ・ 安田仲宏、自治体職員、実動機関、防災士会、教育関係者対象原子力研修「原子力防災教育の進め方」（2023 年 11 月 29 日、茨城県教育庁）
- ・ 安田仲宏、自治体向け原子力研修講座、原子力文化財団「原子力防災と放射線～行動を起こすために知っておくべきこと～」（2024 年 2 月 27 日）
- ・ 安田仲宏、研究成果発表会、東日本大震災・原子力災害伝承館「東日本大震災・原子力災害における放射線防護対策の検証～次の世代に伝承すべきこと～」（2024 年 3 月 18 日）
- ・ 関谷直也、総務省消防庁令和 5 年度全国防災・危機管理トップセミナー（市区長向け）「適時適切な避難情報の発令について」（2023 年 6 月 7 日、全国都市会館大ホール）

- ・ 関谷直也、東京大学 大正関東地震 100 年シンポジウム「関東大震災と東京大学—教訓を首都直下地震対策に活かす—」、東京大学大学院情報学環、地震研究所、生産技術研究所、災害・復興知連携研究機構「関東大震災の社会的影響」（2023 年 7 月 23 日）
- ・ 関谷直也、立憲民主党参議院議員研修会「大規模災害に備えて、政治は何をすべきか」（2023 年 9 月 12 日、都市センターホテル）
- ・ 関谷直也、National Longitudinal survey and International crosssectional survey on Risk Perception and social psychological changes after the accident at TEPCO's Fukushima Daiichi Nuclear Power Station: Reputational damage and distributional damage in radiation disasters, OECD NEA Committee on Radiological Protection and Public Health Expert Group on a Post-Accident Food Safety Framework (EGFSF) (2023 年 9 月 20 日)
- ・ 関谷直也、日本食品工業倶楽部「風評被害とはなにか 東京電力福島第一原子力発電所事故後の風評被害」（2023 年 11 月 8 日、学士会館）
- ・ 関谷直也、日本農学アカデミー・（公財）農学会・日本学術会議食料科学委員会・農学委員会・東日本大震災に係る食料問題分科会 共同主催『東日本大震災がもたらした食料問題—福島県の現状と課題—』「原子力災害と風評被害-13 年目の課題」（2023 年 11 月 11 日、東京大学農学部弥生講堂）
- ・ 関谷直也、横浜市商工会議所第 39 回産業防災連絡会議・講演会「東京電力福島第一原子力発電所事故後の風評被害」（2023 年 11 月 28 日、横浜シンポジア議場）
- ・ 関谷直也、「도쿄전력 후쿠시마 제 1 원자력 발전소 사고와 품평(루머) 피해」 지역시스템공학 세미나 도쿄전력 후쿠시마 제 1 원자력 발전소 사고 및 농업재생、서울대학교 농업생명과학대학 200 동 3220 호）（「東京電力福島第一原子力発電所事故と風評被害」地域システム工学セミナー東京電力福島第一原子力発電所事故と農業再生、ソウル大学 農業生命科学大学 200 棟 3220 号室）（2023 年 12 月 22 日）
- ・ 関谷直也、日本水産学会春季大会水産政策シンポジウム『福島第一原発処理水と水産業』『東京電力福島第一原子力発電所事故後の風評被害』（2024 年 3 月 26 日、東京海洋大学品川キャンパス）
- ・ 青砥和希、福島県環境創造センター「ふくしまナラティブスコラ」2023 年 8 月 6 日
- ・ 青砥和希、福島県議会「議員勉強会」（2023 年 9 月 14 日）
- ・ 青砥和希、立命館大学「家族応援プロジェクトシンポジウム」（2023 年 9 月 23 日）〔パネリスト〕

- ・ 青砥和希、人と防災未来センター「ふくしまナラティブキャラバン@人と防災未来センター」（2023年11月26日）〔ファシリテーター〕
- ・ 青砥和希、福島県生活環境部環境共生課「(仮称)福島県カーボンニュートラルの推進等に関する条例」検討のための県内大学生による対話型ワークショップ」（2023年12月2日）
- ・ 青砥和希、福島県教育庁「教育フォーラム」（2023年12月22日）〔コメンテーター〕
- ・ 大杉遥、敦賀原子力利用平和協議会「今やるべき原子力防災と廃棄物処理問題への挑戦」（2023年8月19日）
- ・ 葛西優香、原子力損害賠償・廃炉等支援機構「廃炉の対話」（2023年7月2日）〔ファシリテーター〕
- ・ 葛西優香、福島県危機管理部「自主防災組織リーダー研修会」（2023年7月22日）
- ・ 葛西優香、防災推進国民大会 2023 実行委員会「ぼうさいこくたい 2023 in KANAGAWA」（2023年9月17日）〔パネリスト〕
- ・ 葛西優香、日本農学アカデミー「東日本大震災がもたらした食料問題—福島県の現状と課題—」（2023年11月11日）〔パネリスト〕
- ・ 葛西優香、(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構・ふくしま12市町村移住支援センター「未来ネットワークふくしま移住セミナー」（2024年1月13日）
- ・ 葛西優香、福島県食品生活衛生課「食品検査結果に関するリスクコミュニケーションセミナー」（2024年1月16日）〔ファシリテーター〕
- ・ 葛西優香、福島国際研究教育機構「F-REI まちづくりに向けたワークショップ」（2024年2月22日）〔ワークショップ参加〕
- ・ 葛西優香、「新しい東北」官民連携推進協議会「“ふるさと愛”プロジェクト in J-VILLAGE」（2024年2月13日）〔ゲスト登壇〕
- ・ 葛西優香、特定非営利活動法人ビーンズふくしま・ふくしま母子サポートネット「ママカフェ 防災講座」（2024年3月20日）

(3) 企画・運営等

- ・ 安田仲宏、自治体向け原子力研修講座、原子力文化財団・東日本大震災・原子力災害伝承館（2024年2月26～27日）
- ・ 関谷直也、東日本大震災・原子力災害全書編集委員会
- ・ 関谷直也、東日本大震災・原子力災害 第2回 学術研究集会 実行委員会事務局
- ・ 関谷直也、日本災害情報学会 大会委員長
- ・ 開沼博、福島学カレッジ
- ・ 開沼博、対話福島

- ・ 開沼博、伝承館×東京大学共同研究「旧・帰還困難区域のまちづくりを考える」
- ・ 青砥和希、福島県総合計画審議会・委員（2023年6月5日～2025年6月4日）
- ・ 青砥和希、福島県総合計画審議会地域懇談会（2023年6月30日）
- ・ 葛西優香、浪江町景観計画策定委員会・委員（2023年11月～）
- ・ 葛西優香、福島県防災基本条例（仮称）検討委員会・委員（2024年3月～）
- ・ 大杉遥、災害復興学会「ふくしまボイス」（2023年9月23日）〔企画・運営〕

7 メディア

- (1) 安田仲宏、NHK「地震津波と原発事故 12 市町 “屋内退避・避難 難しくなる”」 （2024 年 3 月 7 日）
- (2) 安田仲宏、NHK「あの日、もし原発事故が起きていたら」（2024 年 3 月 29 日）
- (3) 関谷直也、毎日新聞東京「東日本大震災 12 年：原発避難、計画通り進まず 宮城・女川で地震、複合災害想定し訓練」（2023 年 4 月 5 日）
- (4) 関谷直也、河北新報「廃炉の歯車 処理水放出を前に／（2）輸出難航／石巻・カキ養殖／海外 理解醸成進まず 三陸特産のカキを養殖販売する海遊（石巻市雄勝町）の社長伊藤浩光さん（62）は」（2023 年 4 月 10 日）
- (5) 関谷直也、読売新聞東京「[防災ニッポン] 災害時のデマ シナリオ SNS「動物園クマ脱走」」（2023 年 4 月 12 日）
- (6) 関谷直也、河北新報「関東大震災 100 年／（4）朝鮮人大虐殺／軍隊・警察に住民が加担／相互信頼で差別に抗す／中国人、社会主義者も犠牲 1923 年の関東大震災は火災や建物倒壊などによる」（2023 年 5 月 10 日）
- (7) 関谷直也、信濃毎日新聞「関東大震災 100 年（4）＝根拠なき流言で朝鮮人虐殺 警察や軍隊、普通の人々が迫害」（2023 年 5 月 17 日）
- (8) 関谷直也、読売新聞東京「災害情報 高齢者届きにくく 震度 6 強 珠洲市で＝石川」（2023 年 5 月 24 日）
- (9) 関谷直也、毎日新聞東京「焦点：韓国、福島第 1 「処理水」視察 放出てこ、懸案進展狙う」（2023 年 5 月 26 日）
- (10) 関谷直也、読売新聞東京「[関東大震災 100 年] 教訓（5）偽の洪水 知らずに拡散 その 2」（2023 年 6 月 13 日）
- (11) 関谷直也、朝日新聞東京「懸念強める南太平洋諸国 核実験場、関心高く処理水放出」（2023 年 7 月 5 日）

- (12) 関谷直也、岩手日報「★次への備え★ 復興のまち陸前高田 最大津波想定 命守る有識者組織 車避難など検討 24 年度末計画策定へ」(2023 年 7 月 6 日)
- (13) 関谷直也、朝日新聞デジタル デジ専 《朝日新聞デジタル》「(今さら聞けない世界) 処理水放出、日本の主張はなぜ伝わらないのか 意識調査で 浮かぶ要因」(2023 年 7 月 20 日)
- (14) 関谷直也、読売新聞東京「[処理水と宮城の海] (5) 漠然とした不安 払拭へ＝宮城」(2023 年 7 月 26 日)
- (15) 関谷直也、毎日新聞東京「水説：風評被害の背景には＝元村有希子」(2023 年 7 月 26 日)
- (16) 関谷直也、読売新聞東京「[処理水と宮城の海] 番外編 安全性 海外へ発信継続 関谷直也准教授＝宮城」(2023 年 8 月 2 日)
- (17) 関谷直也、NHK「原発処理水放出 調査専門家「国民が理解しているという担保を事業者に示すのが重要」」(2023 年 8 月 13 日)
- (18) 関谷直也、NHK「福島第一原発の処理水 流通業者にアンケート (ニュース 7)」(2023 年 8 月 13 日)
- (19) 関谷直也、NHK「流通業者アンケート「反対」大幅減 (おはよう日本)」(2023 年 8 月 14 日)
- (20) 関谷直也、信濃毎日新聞「関東大震災に関する全国世論調査 関谷直也・東京大准教授 流言・デマの拡大、知る人あまりに少ない」(2023 年 8 月 20 日)
- (21) 関谷直也、岩手日報「大災害 教訓どう伝える 関東大震災 100 年 全国世論調査」(2023 年 8 月 20 日)
- (22) 関谷直也、産経新聞大阪「【災害列島 関東大震災 100 年】災害時デマ…命のリスク」(2023 年 8 月 21 日)
- (23) 関谷直也、産経新聞東京「【災害列島 関東大震災 100 年】命を脅かす「災害デマ」」(2023 年 8 月 21 日)
- (24) 関谷直也、河北新報「処理水あす放出／専門家はこう見る／漁業者にメリットなし／政府の情報発信 不十分」(2023 年 8 月 23 日)
- (25) 関谷直也、読売新聞東京「処理水放出 地元「安全へ緊張感を」 輸出業者「信頼へ努力」」(2023 年 8 月 23 日)
- (26) 関谷直也、福島民報「東大大学院情報学環総合防災情報研究センター准教授 関谷直也氏に聞く 政府と国民の合意形成は不十分」(2023 年 8 月 23 日)
- (27) 関谷直也、北海道新聞「＜各自核論＞関谷直也＊東大大学院准教授＊処理水放出開始＊風評払拭へ情報発信を」(2023 年 8 月 25 日)
- (28) 関谷直也、新華社(中国)「福島汚染水の海洋放出はいかにして決まったのか」(2023 年 8 月 27 日)

- (29) 関谷直也、東京新聞「関東大震災 100 年 群集圧死の教訓 首都直下地震 帰宅困難 450 万人予想 帰路に殺到 事故リスク 「電話ボックスの広さに 6 人以上」」 (2023 年 8 月 28 日)
- (30) 関谷直也、静岡新聞「伝える 関東大震災 100 年と静岡 (1) = 富士宮に 体験記 「流言 罪軽からず」 県内にも不安、混乱拡散」 (2023 年 8 月 28 日)
- (31) 関谷直也、高知新聞「『流言禍 関東大震災から高知へ』 (5) 虚実 瞬時に共有」 (2023 年 8 月 29 日)
- (32) 関谷直也、NHK「首都圏ネットワーク 福田村事件 負の歴史を語り継ぐ」 (2023 年 8 月 30 日)
- (33) 関谷直也、読売新聞東京「[関東大震災 世紀の教訓] (2) デマ信じず 朝鮮人救う = 神奈川」 (2023 年 8 月 30 日)
- (34) 関谷直也、NHK WEB 特集「関東大震災 100 年 私たちの不安がフェイクを広げる どうすれば」 (2023 年 8 月 31 日)
- (35) 関谷直也、NHK「関東大震災から 100 年 災害時のデマ 専門家「真偽不明の情報うのみにしない」」 (2023 年 8 月 31 日)
- (36) 関谷直也、高知新聞「『流言禍 関東大震災から高知へ』 (7 - 終) 試される社会の善悪」 (2023 年 8 月 31 日)
- (37) 関谷直也、NHK「関東大震災 100 年 “教訓 改めて学んで” (おはよう日本)」 (2023 年 9 月 1 日)
- (38) 関谷直也、神戸新聞「関東大震災 100 年 - 識者が語る「今」 東大教授 広井悠氏 東大大学院教授 関谷直也氏」 (2023 年 9 月 1 日)
- (39) 関谷直也、愛媛新聞朝刊ワイド「[えひめ防災・減災 いよゼロプロジェクト] 大雨特別警報、記録的短時間大雨情報… 緊急安全確保、避難指示… 情報多様化 防災役立てて」 (2023 年 9 月 1 日)
- (40) 関谷直也、朝日新聞「(関東大震災 100 年) 激震と火、灰と化す街」 (2023 年 9 月 1 日)
- (41) 関谷直也、TBS「報道／ニュース／報道特集 (全 214 字) 現代でも起こりうる「群衆事故」とは (Nスタ)」 (2023 年 9 月 3 日)
- (42) 関谷直也、東京新聞地方埼玉「対策と課題聞く 「流言出ると考え冷静判断を」 識者 県 誤情報の把握 監視難しく」 (2023 年 9 月 3 日)
- (43) 関谷直也、TBS 毎日放送「現代でも起こりうる「群衆事故」とは (Nスタ)」 (2023 年 9 月 3 日)
- (44) 関谷直也、TBS 毎日放送「現代でも起こりうる「群衆事故」とは (TBS NEWS)」 (2023 年 9 月 4 日)
- (45) 関谷直也、読売新聞東京「[巨大災害 現代のリスク] (5) 最終回 富士は活火山 対策急務 その 2」 (2023 年 9 月 5 日)

- (46) 関谷直也、京都新聞「課題 今も 関東大震災 100 年（下）災害流言 関谷直也東大教授 防止困難 発生前提対応を」（2023 年 9 月 6 日）
- (47) 関谷直也、福井新聞「◎安定ヨウ素剤申請 低迷 原発事故時想定、県が事前配布 対象住民の 5.6%止まり 専門家「防災意識低下も」（ズームアップふくい）」（2023 年 10 月 12 日）
- (48) 関谷直也、朝日新聞東京「柏崎刈羽原発、避難に不安 防災訓練「実態に合わぬ」」（2023 年 10 月 30 日）
- (49) 関谷直也、電気新聞「[天馬行空] 風評被害の本丸は」（2023 年 11 月 6 日）
- (50) 関谷直也、農業共済新聞「原発事故と福島県、食料問題で講演会／米価など格差 情報発信が重要」（2023 年 11 月 22 日）
- (51) 関谷直也、朝日新聞地方茨城「原発避難に現実感、拡散予測の意義 関谷直也・東京大教授〈災害社会科学〉に聞く／茨城県」（2023 年 12 月 3 日）
- (52) 関谷直也、福島民報「霞む最終処分（3） 序章 処理水は語る 小委の目的すり替え 風評対策は発展せず」（2023 年 12 月 4 日）
- (53) 関谷直也、朝日新聞東京「防災気象情報、整理へ 土砂災害や洪水、名称に統一感」（2023 年 12 月 7 日）
- (54) 関谷直也、新潟日報「[誰のための原発か 新潟から問う 負わされた宿命「住民避難」のいま] 武力攻撃 安全確保への対応未知数 自衛隊任せ「幻想に近い」」（2023 年 12 月 22 日）
- (55) 関谷直也、朝日新聞東京「善意のはずが—SNS 拡散、混乱とデマ 「家族が下敷き」根拠不明、救助の妨げ」（2024 年 1 月 4 日）
- (56) 関谷直也、The Asahi Shimbun AJW VOX POPULI: Providing correct information is essential in wake of major disaster (2024 年 1 月 5 日)
- (57) 関谷直也、朝日新聞東京「(天声人語) 被災地と情報」（2024 年 1 月 5 日）
- (58) 関谷直也、毎日新聞東京「余録：災害時に広がるデマには…」（2024 年 1 月 6 日）
- (59) 関谷直也、毎日新聞東京「クローズアップ：能登地震 1 週間 「揺れから 5 分」津波襲う 観測網、トラブル相次ぐ」（2024 年 1 月 8 日）
- (60) 関谷直也、NHK「能登半島地震 虚偽情報拡散 専門家「“外国人窃盗団”は典型例 ヘイトの助長にも」」（2024 年 1 月 10 日）
- (61) 関谷直也、NHK「“外国人窃盗団が能登に” 地震後 偽情報拡散」（2024 年 1 月 10 日）
- (62) 関谷直也、NHK「“外国人窃盗団が能登に” 地震後 偽情報拡散（おはよう日本）」（2024 年 1 月 11 日）

- (63) 関谷直也、読売新聞東京「(時時刻刻) 志賀原発、リスク露呈 規制委、能登地震の知見収集を指示」(2024年1月11日)
- (64) 関谷直也、河北新報「能登地震／津波 発生1分後に到達／日本海側 避難に難しさ」(2024年1月16日)
- (65) 関谷直也、宮崎日日新聞「表層深層 FOCUS／能登地震2週間／津波、発生1分で到達／大陸反射、何度も襲来／日本海側 避難に難しさ／危機感啓発行き届かず」(2024年1月16日)
- (66) 関谷直也、佐賀新聞「＝表層深層＝ 能登地震 津波、発生1分で到達 日本海側、避難に難しさ」(2024年1月16日)
- (67) 関谷直也、信濃毎日新聞「焦点＝能登地震津波被害 第1波早い日本海多くの断層、海岸線に近く 猶予なし「揺れたら即避難」」(2024年1月16日)
- (68) 関谷直也、神戸新聞「能登地震2週間 津波1分で到達 避難困難 日本海側、沿岸に活断層多く 「届きにくい内陸へ、揺れたら逃げて」」(2024年1月16日)
- (69) 関谷直也、神奈川新聞「能登半島地震／津波、発生1分で到達／日本海側、避難に難しさ」(2024年1月16日)
- (70) 関谷直也、中国新聞「表層深層 津波 発生1分で到達 能登地震 日本海側 避難に難しさ」(2024年1月16日)
- (71) 関谷直也、熊本日新聞「表層深層＝津波到達、発生1分後 能登地震 日本海側、避難に難しさ」(2024年1月16日)
- (72) 関谷直也、愛媛新聞「能登地震 津波到達最速1分 揺れたら即避難して 専門家 意識徹底呼びかけ」(2024年1月16日)
- (73) 関谷直也、東京新聞「核心 1分で第1波 脅威の速度 日本海側 海岸近くに断層 避難間に合わないケースも」(2024年1月16日)
- (74) 関谷直也、東奥日報「能登地震 津波、発生1分で到達 日本海側 避難に難しさ」(2024年1月16日)
- (75) 関谷直也、沖縄タイムス「[表層深層] 津波 発生1分で到達／日本海側 避難に難しさ／能登半島地震」(2024年1月16日)
- (76) 関谷直也、信濃毎日新聞「表層深層＝能登地震発生2週間 津波、発生1分で到達 日本海側、避難に難しさ」(2024年1月16日)
- (77) 関谷直也、秋田魁新報「＜表層深層＞能登半島地震2週間 津波、発生1分で到達 日本海側、避難の難しさが浮き彫り」(2024年1月16日)
- (78) 関谷直也、京都新聞「表層深層 津波 最短1分で到達 能登地震 海岸線近い断層、波は反復 日本海側 避難難しく」(2024年1月16日)
- (79) 関谷直也、中日新聞「核心 最短1分 どう逃げる 能登半島地震津波 重い教訓」(2024年1月16日)

- (80) 関谷直也、静岡新聞「表層深層＝津波、発生 1 分で到達 能登地震 避難
余裕ない日本海側」 (2024 年 1 月 16 日)
- (81) 関谷直也、徳島新聞「表層深層 津波 発生 1 分で襲来 能登地震 日本
海側「短時間で到達」特徴 避難の難しさ浮き彫り」 (2024 年 1 月 16 日)
- (82) 関谷直也、岩手日報「★表層深層★ 日本海側 避難は難題 能登半島地
震 1 分後に津波第 1 波 反射し何度も 識者、意識徹底訴え」 (2024 年
1 月 16 日)
- (83) 関谷直也、山陽新聞「表層深層 能登地震 津波 1 分で到達 日本海側、
避難に難しさ」 (2024 年 1 月 16 日)
- (84) 関谷直也、AERA「後を絶たない、デマ情報の投稿 非常時に SNS で拡散
されやすい流言やうわさ 能登半島地震の衝撃」 (2024 年 1 月 22 日)
- (85) 関谷直也、新潟日報「[誰のための原発か 新潟から問う] 規制委「屋内
退避」の原災指針見直し 避難計画への影響注視 県内自治体 有効性に
疑問の声」 (2024 年 1 月 24 日)
- (86) 関谷直也、読売新聞東京「災害記憶 防災に 忘却前提に伝え継ぐ 関谷
直也・東大教授に聞く」 (2024 年 2 月 1 日)
- (87) 関谷直也、毎日新聞東京「科学の森：原発避難の課題浮き彫り 前提崩れ
た能登半島地震」 (2024 年 2 月 15 日)
- (88) 関谷直也、朝日新聞東京「(検証 能登半島地震) 頼みの原発避難路、断
たれた」 (2024 年 2 月 21 日)
- (89) 関谷直也、NHK「能登半島地震 2 か月 被災者アンケート 84%が被災
前の住居や同じ自治体に住みたい 専門家「不安取り除くことが復興のポ
イント」」 (2024 年 3 月 1 日)
- (90) 関谷直也、NHK「“地元で暮らしたい” 一方で不安や心配事も 避難生
活 1 万人超 住まいの確保 課題に (おはよう日本)」 (2024 年 3 月 1 日)
- (91) 関谷直也、熊本日新聞「SNS こちら編集局「それ、調べます」＝能登
地震対応、過去の教訓は？ 全国 20 地方紙アンケート 津波避難「生き
た」 避難所いまだ課題 東日本大震災 13 年 #311」 (2024 年 3 月 3 日)
- (92) 関谷直也、西日本新聞「東日本大震災 13 年 #311jp 地方紙協働企画＝
能登地震、過去の教訓は 津波避難 呼びかけ評価 各家庭の耐震対策
不備 全国 20 紙アンケート」 (2024 年 3 月 3 日)
- (93) 関谷直也、信濃毎日新聞「能登地震対応巡る 20 地方紙アンケート 関谷
直也教授に聞く 過疎地で広域被害、他地域でも」 (2024 年 3 月 7 日)
- (94) 関谷直也、NHK「福島原発事故 13 年・茨城県が福島県に避難抑制を要
請 専門家「不断に計画見直しを」」 (2024 年 3 月 8 日)
- (95) 関谷直也、NHK「新潟 柏崎刈羽原発 地元で広がる“避難への不安” (首
都圏情報 ネットドリ！)」 (2024 年 3 月 8 日)

- (96) 関谷直也、時事通信「◎複合災害対応に課題＝能登地震で浮き彫り－規制委「自治体の判断」・東日本大震災 13 年」 (2024 年 3 月 8 日)
- (97) 関谷直也、佐賀新聞「揺らぐ原発避難計画 周辺道路、寸断の恐れ 複合災害対応、能登で露呈」 (2024 年 3 月 9 日)
- (98) 関谷直也、信濃毎日新聞「原発周辺 109 市町村で道路寸断恐れ 「複合災害」への備え、不安 志賀原発周辺住民、能登地震で実感」 (2024 年 3 月 9 日)
- (99) 関谷直也、神戸新聞「原発周辺 道路寸断恐れ 109 市町村 国内 19 原発の 30 キロ圏分析 災害時、避難に支障」 (2024 年 3 月 9 日)
- (100) 関谷直也、熊本日新聞「表層深層＝道路寸断、家屋損壊…能登で露呈 原発避難、実効性に疑問 能登地震」 (2024 年 3 月 9 日)
- (101) 関谷直也、中国新聞「表層深層 複合災害 備え不十分 原発周辺道 寸断の恐れ 揺らぐ退避計画」 (2024 年 3 月 9 日)
- (102) 関谷直也、愛媛新聞「原発避難 揺らぐ実効性 道路寸断 能登でも 政府は複合災害対応指針を」 (2024 年 3 月 9 日)
- (103) 関谷直也、四国新聞「表層深層＝緊急輸送道路、寸断恐れ 揺らぐ原発避難計画 「複合災害」備えに不安」 (2024 年 3 月 9 日)
- (104) 関谷直也、秋田魁新報「<表層深層>東日本大震災 13 年 原発周辺道路、寸断リスク 能登で露呈、備え不十分」 (2024 年 3 月 9 日)
- (105) 関谷直也、京都新聞「表層深層 能登地震でも周辺道路寸断 原発避難 揺らぐ実効性 福島事故 13 年 複合災害 備え進まず」 (2024 年 3 月 9 日)
- (106) 関谷直也、中日新聞「東日本大震災 13 年 原発 30 キロ圏 地震時どうなる 109 市町村 道路寸断恐れ」 (2024 年 3 月 9 日)
- (107) 関谷直也、静岡新聞「表層深層＝揺らぐ 原発事故避難計画 複合災害懸念 能登で露呈 30 キロ圏 土砂道路寸断の恐れ」 (2024 年 3 月 9 日)
- (108) 関谷直也、山陽新聞「揺らぐ原発避難計画 能登で露呈 「複合災害」備え不十分」 (2024 年 3 月 9 日)
- (109) 関谷直也、長崎新聞「表層深層／原発周辺の道路寸断恐れ／揺らぐ避難計画 能登で露呈／複合災害対応 備え不十分」 (2024 年 3 月 9 日)
- (110) 関谷直也、南日本新聞「[地方紙協働企画＝東日本大震災 13 年・#311.jp] 避難呼びかけ評価、環境改善求める声も／東日本・熊本地震の教訓は能登に生かせたか」 (2024 年 3 月 10 日)
- (111) 関谷直也、福井新聞「◎3・11 教訓生きたか 能登地震対応でアンケート 迅速な避難指示、評価 ライフライン復旧「遅い」 人口減社会 課題 浮き彫り 東日本大震災 13 年 #311.jp」 (2024 年 3 月 10 日)

- (112) 関谷直也、秋田魁新報「＜東日本大震災 13 年＞全国 20 地方紙合同アンケート 3・11 の教訓は生きたか？ 能登半島地震対応、評価割れる」(2024 年 3 月 10 日)
- (113) 関谷直也、京都新聞「東日本大震災 13 年 #311.jp 地方紙協働企画 能登地震 「教訓」評価分かれ 本紙など 20 紙 読者アンケート 津波避難・全国支援に実感 避難所環境・耐震化問題」(2024 年 3 月 10 日)
- (114) 関谷直也、新潟日報「[東日本大震災 13 年地方紙協働企画 #311.jp] 全国 20 地方紙アンケート 能登地震の対応 津波の避難「教訓生きた」避難所環境改善求める声」(2024 年 3 月 11 日)
- (115) 関谷直也、福井新聞「◎複合災害 避難に難しさ 「東日本」13 年 能登では道路寸断続出 県計画 実効性に疑問も」(2024 年 3 月 11 日)
- (116) 関谷直也、琉球新報「＜読者の知りたいに応える オンデマンド調査報道 JOD パートナー社から＞能登地震対応 割れる評価／全国 20 紙アンケート／東日本、熊本 過去の教訓生きた？」(2024 年 3 月 11 日)
- (117) 関谷直也、福島民友新聞「【処理水の波紋】理解醸成、進んだのか 「国民レベルで議論必要」」(2024 年 3 月 27 日)
- (118) 開沼博、NHK福島放送ラジオ「ふくどん」レギュラー出演
- (119) 開沼博、電気新聞うえいぶ連載
- (120) 青砥和希、ふくしま FM「FUKU-SPACE「FUKUSHIMA KEY PERSON」」(2023 年 4 月 13 日)
- (121) 葛西優香、ぎょうせいオンライン「地域の助け合いが自分と家族の命を守る第一歩！～「地区防災計画」の作り方～(連載)」(2023 年 4 月～2024 年 3 月)
- (122) 葛西優香、河北新報「福島・浪江町に移住の葛西さん 地域の営み再生に伴走 助け合いの防災構築」(2023 年 9 月 9 日)
- (123) 葛西優香、北海道新聞「水曜討論 震災の記憶どう伝える」(2023 年 9 月 11 日)
- (124) 葛西優香、福島民報「浜通りの未来を考える 「ふくしまボイス」福島県双葉町で開催 復興や複合災害伝承、住民ら意見交換」(2023 年 9 月 24 日)
- (125) 葛西優香、北海道新聞「北海道教育大学で福島に関わる講義」(2023 年 10 月 19 日)
- (126) 葛西優香、福島テレビ「人の営みが失われた町へ移住 コミュニティ再生を見つめる研究員 災害時、心を救うのは地域のつながり【福島発】」(2024 年 3 月 11 日)
- (127) 葛西優香、福島民報「盆踊り継承パネル展」(2024 年 3 月 17 日)

(128) 静間健人、関西大学大学案内 2024 (pp. 32-33) 『自分の道を拓き続ける Interest の行方。一卒業生の Interest 「大震災の経験から何を教訓とし、何を未来に伝えるのか。その答えは、住民の声の中にある。」』

■令和 6 年度

1 外部研究費の獲得状況

- (1) 高村昇、環境省・放射線健康管理・健康不安対策事業（放射線の健康影響に係る研究調査事業）「双葉町、大熊町における処理水、除去土壌、廃炉に関するリスク認知評価と、リスクコミュニケーションおよびそれに資する環境放射能評価の推進」2023 年 4 月～2026 年 3 月〔研究代表者〕
- (2) 高村昇、福島イノベーション・コースト構想推進機構・大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業「災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」2021 年 4 月～2026 年 3 月
- (3) 高村昇、福島国際教育研究機構・委託研究事業「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信（原子力災害医療科学）」2024 年 3 月～2024 年 8 月〔研究代表者〕
- (4) 高村昇、環境省・放射線健康管理・健康不安対策事業（放射線の健康影響に係る研究調査事業）「福島県内の放射線リスクコミュニケーション活動と研究調査」2024 年 4 月～2025 年 3 月
- (5) 高村昇、福島国際教育研究機構・委託研究事業「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信（原子力災害医療科学）」2024 年 8 月～2025 年 3 月〔研究代表者〕
- (6) 安田仲宏、「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」 研究人材育成型廃炉研究プログラム（令和 6 年度～令和 10 年度）「燃料デブリ研究と SEEM 学構築を 基軸とした研究人材育成」東北大学（代表機関）、福井大学（再委託機関）
- (7) 関谷直也、福島国際教育研究機構委託研究事業「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信（大規模災害とデータサイエンス）」2024 年 3 月～〔研究代表者〕
- (8) 関谷直也、公益財団法人食生活研究会特別助成金「東京電力福島第一原子力発電所事故の社会的影響」
- (9) 関谷直也、日本学術振興会・科学研究費助成事業（基盤研究（B））「長期避難を余儀なくされた被災者の調査と支援に関する研究」2023 年～2026 年（研究代表者：立命館大学・丹波史紀）〔研究分担者〕
- (10) 開沼博、福島国際教育研究機構委託研究事業「福島浜通り地域におけるまちづくり研究及びラーニング・コミュニティハブ整備事業」事業テーマ（2）福島浜通り地域におけるラーニング・コミュニティハブの整備「コミュニ

ティ&コミュニケーションの場の創出に関わる実践研究」2024 年 3 月～
〔研究代表者〕

- (11) 開沼博、経済産業省・地域経済政策推進事業費補助金（映像芸術文化を通じた関係人口創出事業）／ハマコネ
- (12) 開沼博、経済産業省・地域経済政策推進事業費補助金（映像芸術文化支援事業）／ハマカルアートプロジェクト 2024
- (13) 山田修司、公益財団法人窓研究所 2024 年度助成事業、「複合災害地域における帰還困難区域の伝統工芸伝承 13 年 大堀相馬焼をケーススタディとして」、2025 年 3 月～2027 年 3 月（研究代表者：立教大学・高山真）〔共同研究者〕
- (14) 山田修司、日本学術振興会・科学研究費助成事業（基盤研究（C））、「関係的自律としてのモビリティの構想に向けた技術哲学的研究」2025 年 4 月～2028 年 3 月〔研究代表者〕（※採択）

2 書籍（単著・分担執筆含む）

- (1) 葛西優香、伝統芸能保存会の活動―福島県双葉郡八町村からの想い―、東日本大震災・原子力災害伝承館、2025
- (2) 山田修司、災害の記憶の場所と資料化の概念、松本行真編著『災禍の民衆知と避難行動の比較分析』東信堂、231-252、2025

3 論文

- (1) Liu M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Xu X, Orita M, Takamura N. Residents of the towns in which the Fukushima Daiichi nuclear station is located express more worries about reputational damage than about the discharge of treated water itself. J Rad Res in press doi: 10.1093/jrr/rraf003.
- (2) Matsunaga H, Orita M, Taira Y, Shibayama K, Shinchi K, Takamura N. Risk perception regarding a nuclear accident and common factors related to health among guardians residing near a restarted nuclear power plant in Japan after the Fukushima accident. Int J Disaster Risk Reduct in press.
- (3) Zabirowa A, Matsunaga H, Orita M, Kashiwazaki Y, Xiao X, Schneider T, Takamura N. Impact of the discharge of treated water on residents' intention to return to areas near the TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Station a decade after the accident. Radioprotection in press
- (4) Zabirowa A, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Xiao X, Orita M, Takamura N. Recognition of the residents who provided land for the interim

- storage facilities in Okuma and Futaba towns located adjacent to the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *J Radiol Prot* in press
- (5) Liu M, Matsunaga H, Orita M, Kashiwazaki Y, Xiao X, Takamura N. Comparative analysis of public concerns regarding treated water discharged from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station: perspectives before and after the initial release. *J Radiat Res* 22;66(1):103–105, 2025. doi: 10.1093/jrr/rrae102.
 - (6) Nessipkhan A, Matsuda N, Takamura N, Oriuchi N, Ito H, Awai K, Kudo T. Nessipkhan A, Matsuda N, Takamura N, Oriuchi N, Ito H, Awai K, Kudo T. The influence of revised ordinance on radiation protection management in Japanese hospitals: device deployment and involvement of radiology technologists. *Jpn J Radiol* 43(1):117–128, 2025. doi: 10.1007/s11604-024-01653-w.
 - (7) Samuels S, Reynolds J, Sharma SK, Shrestha A, Tiwari A, Bhattarai U, Gautam U, Das S, Trenchard T, Sadat A, Gan P, Kumar A, Mohammed S, Kattody P, Kathoon N, Kumar S, Sallnow L, Nakashima M, Takamura N, Waguih A, Werning I, Balasubramanya KV, Kastura AM, Koodalimath RS, Bellizzi S, Das S. Highlights 2024: diverse insights and perspectives on health stories. *Lancet* 404(10471):2505–2534, 2024. doi: 10.1016/S0140-6736(24)02718-1.
 - (8) Nessipkhan A, Matsuda N, Takamura N, Oriuchi N, Ito H, Kiguchi M, Nishihara K, Tamaru T, Awai K, Kudo T. Occupational radiation exposure among medical personnel in university and general hospitals in Japan. *Jpn J Radiol*. 42(9):1067–1079, 2024.
 - (9) Zabirowa A, Saiko A, Orita M, Furuya F, Yamashita S, Takamura N. Thyroid ultrasound findings in young and middle-aged adults living in the region of the Chornobyl Nuclear Power Plant. *Radiat Environ Biophys* 63(3): 465–468, 2024.
 - (10) Xiao X, Matsunaga H, Orita M, Kashiwazaki Y, Win TZ, Takamura N. Risk perception in long-term evacuees of Futaba Town, Fukushima: A cross-sectional study reveals greater concerns outside the Prefecture, 12 years after the accident. *J Radiat Res* 65(4):549–554, 2024. doi: 10.1093/jrr/rrae039.
 - (11) Zabirowa A, Matsunaga H, Orita M, Kashiwazaki Y, Xiao X, Takamura N. Differences in community awareness regarding the discharge of treated water from the Fukushima Daiichi nuclear power station. *J Radiat Res* 65(3):413–415, 2024.

- (12) Miyata J, Yamanashi H, Kawashiri S, Soutome S, Arima K, Tamai M, Nonaka F, Honda Y, Kitamura M, Yoshida K, Shimizu Y, Hayashida N, Kawakami S, Takamura N, Sawa T, Yoshimura A, Nagata Y, Ohnishi M, Aoyagi K, Kawakami A, Saito T, Maeda T. Profile of Nagasaki Islands Study (NaIS): A Population-Based Prospective Cohort Study on Multi-disease. *J Epidemiol* 34(5):254-263, 2024.
- (13) Imakhanova A, Matsuda N, Takamura N, Oriuchi N, Ito H, Awai K, Kudo T. Radiation Exposure Characteristics among Healthcare Workers: Before and After Japan's Ordinance Revision. *Health Phys* 126(4):207-215, 2024.
- (14) Ts.Erkhembayar, N. Yasuda, Q.M. Rashed-Nizam, E. Khosbayar, N. Chimedtsogzol, Ch. Erdenegerel, Radioactive background in some uranium deposits of Mongolia, *The International Journal of Engineering and Science*, Vol.12, No.12, 29-38, 2024.
- (15) 三宅真太郎・佐藤翔輔・吉本充宏・石峯康浩・秦康範・安本真也・関谷直也、2022年1月15日のトンガ海底火山噴火に伴う日本国内の潮位変化に自治体と住民はどう対応したか、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編、No. 41 : 1-62、2025
- (16) 石橋真帆・関谷直也、新型コロナウイルス感染症をめぐるコミュニケーション—2022年国内調査—、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編、No. 41 : 63-106、2025
- (17) 米山太賀・範懿・石橋真帆・横山広美・関谷直也、AIを用いた避難支援システムに対する認知、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編、No. 41 : 225-250、2025
- (18) 多田健太・内田充紀・関谷直也、「災害を伝える」というコミュニケーション過程に関する研究、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編、No. 41 : 251-284、2025
- (19) イスンミン・富澤周・吉本充宏・石峯康浩・横田崇・安本真也・関谷直也、火山防災体制の不足点—自治体の火山防災に関する調査に基づいて—、東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編、No. 41 : 285-374、2025
- (20) 石橋真帆・関谷直也、COVID-19 パンデミック下における情報行動と感染リスク認知の関係性—横断的メディア利用アプローチによる検討、地域安全学会論文集、vol. 45、2024
- (21) 関谷直也、災害情報はいのちを救えるか——南海トラフ地震臨時情報から考える、世界、2024年11月号、岩波書店 : 155-162、2024

- (22) 石橋真帆・安本真也・入江さやか・鍵慶和・関谷直也、令和6年能登半島地震における津波避難の実態－住民調査による検討－、自然災害科学 vol. 43(3) : 689-708、2024【査読論文】
- (23) 三宅真太郎・佐藤翔輔・吉本充宏・石峯康浩・秦康範・安本真也・関谷直也、遠地津波発生時の津波情報の伝達と避難行動の喚起に関する課題－トンガ海底火山噴火に伴う潮位変化に対する住民対応の質問紙調査－、土木学会論文集(海岸工学)、80巻17号(論文ID: 24-17101)、2024【査読論文】 <https://doi.org/10.2208/jscej.24-17101>
- (24) 安本真也・河井大介・齋藤さやか・関谷直也、首都直下地震に関する防災啓発番組の説得的コミュニケーション：補強効果の検証、社会情報学 13(1) : 51-64、2024【査読論文】 https://doi.org/10.14836/ssi.13.1_51
- (25) 石橋真帆・関谷直也・田中幹人、日本社会はCOVID-19というリスクをどのように捉えたのか？－調査票調査から－、人工知能 39(3) : 374-380、2024 https://doi.org/10.11517/jjsai.39.3_374
- (26) 関谷直也、災害情報はいのちを救えるか－南海トラフ地震臨時情報から考え世界 2024年11月号、岩波書店 : 155-162、2024
- (27) 関谷直也、今そこにある危機 富士山噴火 太平洋側の巨大地震と連動、月刊エネルギーフォーラム 840(2024年12月号) : 112-113、2024
- (28) 開沼博、「正念場を迎える福島復興」「巨大な実験場」で終わらせるな－平成全史 : 令和の日本再生へ 今こそ知りたい平成全史(後編) Wedge/ウエッジ [編] 36(6) : 56-59、2024
- (29) 開沼博、「3.11以後の大規模災害と被災地・被災者をめぐる問題」神奈川大学評論 / 神奈川大学評論編集専門委員会 編 (106) : 116-124、2024
- (30) 開沼博、「「つながり」の現在地－特集 つながらない時代の「生」を考える」東洋学術研究 63(1) : 75-100、2024
- (31) 静間健人、要配慮者概念の拡張－脆弱性とレジリエンスの観点からの整理－、日本都市学会年報、57巻 : 223-230、2024【査読有】
- (32) 静間健人・山田修司、東日本大震災・原子力災害に関する情報接触と当事者意識の世代間比較、日本都市学会年報、58巻、2025【査読有】 (※掲載決定)
- (33) 山田修司、観客性に注目した震災伝承の理論的考察、日本都市学会年報、57巻 : 231-238、2024【査読有】
- (34) 山田修司・静間健人、震災伝承施設の利用意向に関連する要因の探索的検討、日本都市学会年報、58巻、2025【査読有】 (※掲載決定)

4 学会報告(口頭発表、ポスター発表)

- (1) 中尾虹海・吉田佳乃子・弓削湧輔・谷山勇士朗・安田仲宏、東電福島第一原発事故後5日間における時空間情報の統合による放射線防護対策の検証

- (1)、日本災害情報学会第29回学会大会(2024年11月9～10日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター)
- (2) 吉田佳乃子・中尾虹海・安田仲宏・高橋信・渡邊豊・小山智加・米山照彦・小野晋太郎、SEEM学構築に向けた1F廃炉エスノグラフィーシステム、第10回次世代イニシアティブ廃炉技術カンファレンス(NDEC-10)(2025年2月26日プラザ萬象)
- (3) 吉田佳乃子・中尾虹海・弓削湧輔・谷山勇士朗・安田仲宏、東電福島第一原発事故後5日間における時空間情報の統合による放射線防護対策の検証(3)」、日本災害情報学会第30回学会大会(2025年3月15～16日、東京大学 法学政治学系総合教育棟(ガラス棟)／大学院情報学環・福武ホール)
- (4) 弓削湧輔・岩崎洋亮・安田仲宏、人流シミュレーションを用いた原子力災害避難時の甲状腺被ばく線量モニタリング体制の検討、日本災害情報学会第30回学会大会(2025年3月15～16日、東京大学 法学政治学系総合教育棟(ガラス棟)／大学院情報学環・福武ホール)
- (5) 中尾虹海・吉田佳乃子・弓削湧輔・谷山勇士朗・安田仲宏、東電福島第一原発事故後5日間における時空間情報の統合による放射線防護対策の検証(2)、日本災害情報学会第30回学会大会(2025年3月15～16日、東京大学 法学政治学系総合教育棟(ガラス棟)／大学院情報学環・福武ホール)
- (6) 吉田佳乃子・中尾虹海・弓削湧輔・谷山勇士朗・安田仲宏、東電福島第一原発事故後5日間における時空間情報の統合による放射線防護対策の検証(3)、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会(2025年3月19～20日、コラッセふくしま)
- (7) 岩崎洋亮・弓削湧輔・安田仲宏、人流シミュレーションを用いた原子力災害避難時の甲状腺被ばく線量モニタリング体制の検討、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会(2025年3月19～20日、コラッセふくしま)
- (8) 中尾虹海・吉田佳乃子・弓削湧輔・谷山勇士朗・安田仲宏、東電福島第一原発事故後5日間における時空間情報の統合による放射線防護対策の検証(2)、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会(2025年3月19～20日、コラッセふくしま)
- (9) 大瀧翔子・関谷直也、新型コロナウイルス感染症パンデミックにおける都道府県知事記者会見の変遷、2024年社会情報学会大会(2024年9月15日、香川短期大学)
- (10) 三浦瑞貴・関谷直也、Xへの投稿行為と地域訪問の関係性におけるテキスト分析—東日本大震災以降の福島県双葉郡の関係人口に着目して—2024年社会情報学会大会(2024年9月15日、香川短期大学)

- (11) 鍵慶和・安本真也・石橋真帆・入江さやか・関谷直也、令和6年能登半島地震における避難生活での困難に関わる調査研究、第43回日本自然災害学会学術講演会（2024年9月19日、千葉大学西千葉キャンパス）
- (12) 石橋真帆・安本真也・入江さやか・鍵慶和・関谷直也、令和6年能登半島地震における津波避難の実態、第43回日本自然災害学会学術講演会（2024年9月19日、千葉大学西千葉キャンパス）
- (13) 安本真也・石橋真帆・入江さやか・鍵慶和・関谷直也、令和6年能登半島地震の被害状況と今後の生活に関する意向、第43回日本自然災害学会学術講演会（2024年9月19日、千葉大学西千葉キャンパス）
- (14) 大瀧翔子・関谷直也、近代日本における衛生広報の歴史―戦時プロパガンダと工作する衛生広報、日本広報学会第30回研究発表全国大会（2024年11月10日、南山大学）
- (15) 地引泰人・関谷直也、東日本大震災後の放射線安全基準の討議過程における国際機関の組織間関係の予備的検討、日本災害情報学会第29回学会大会（2024年11月9日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）
- (16) 三宅真太郎・安本真也・関谷直也、スマートフォンにおける災害情報通知の特徴―Yahoo! JAPAN アプリ PUSH 通知の開封率の分析―、日本災害情報学会第29回学会大会（2024年11月9日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）
- (17) 多田健太・内田充紀・関谷直也、「災害を伝える」というコミュニケーション過程に関する研究、日本災害情報学会第29回学会大会（2024年11月9日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）
- (18) 佐藤史弥・秦康範・本多亮・吉本充宏・安本真也・関谷直也・牧紀男、火山災害に関する意識調査の標準的な質問紙の設計と住民意識の地域間比較、日本災害情報学会第29回学会大会（2024年11月9日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター（ポスター発表））
- (19) 石橋真帆・関谷直也、関東大震災証言データにもとづく災害観の抽出、日本災害情報学会第29回学会大会（2024年11月9日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター（ポスター発表））
- (20) 入江さやか・安本真也・石橋真帆・入江さやか・鍵慶和・関谷直也、令和6年能登半島地震被災地における情報入手、日本災害情報学会第29回学会大会（2024年11月9日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター（ポスター発表））
- (21) 関谷直也、南海トラフ地震臨時情報の課題―メッセージのあいまいさとエリートパニック―、日本災害情報学会第29回学会大会（2024年11月10日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）
- (22) 三浦瑞貴・関谷直也、Xへの投稿行為と地域における昼間人口との差異分析―東日本大震災以降の福島県双葉郡の関係人口「見える化」を目指して

- 一、日本災害情報学会第 29 回学会大会（2024 年 11 月 10 日、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター）
- (23) 米山太賀・範懿・石橋真帆・横山広美・関谷直也、2024、AI を用いた避難支援システムに対する評価、日本災害情報学会第 29 回学会大会、新潟市朱鷺メッセ、2024 年 11 月 10 日
- (24) 作間敦・安本真也・石橋真帆・荒木優弥・関谷直也、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の確率論的な情報としての受け取られ方、日本災害情報学会第 29 回学会大会（2024 年 11 月 10 日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）
- (25) 安本真也・石橋真帆・作間敦・荒木優弥・関谷直也、令和 6 年 8 月 8 日南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発表直後の住民の反応、日本災害情報学会第 29 回学会大会（2024 年 11 月 10 日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）
- (26) 中山準之助・関谷直也、気象に関する防災情報の認知と住民避難に関する考察 ～「水害からの避難」に関する WEB モニターアンケートより、日本災害情報学会第 29 回学会大会（2024 年 11 月 10 日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）
- (27) 鍵慶和・安本真也・石橋真帆・関谷直也、令和 6 年能登半島地震における被災世帯の居住意向に関する研究—2024 年 6 月時点仮設住宅居住者を対象に—（2024 年 11 月 10 日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）
- (28) Maho Ishibashi and Naoya Sekiya, Analyzing testimonies about the Great Kanto Earthquake of 1923, Society For Risk Analysis Annual Meeting, Austin, Texas, 9th December.
- (29) 石橋真帆・安本真也・荒木優弥・作間敦・三宅真太郎・関谷直也・横田崇、誰がどこまでの対策を許容するのか—2024 年 8 月 8 日発出の南海トラフ臨時情報を事例に一、日本災害情報学会第 30 回学会大会、東京大学、2025 年 3 月 15-16 日。（口頭発表）
- (30) LEE SEUNGMIN・鍵慶和・石橋真帆・安本真也・関谷直也、石川県能登半島地域における二重被災の実態と影響、日本災害情報学会第 30 回学会大会（2025 年 3 月 15～16 日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール（口頭発表））
- (31) 鍵慶和・LEE SEUNGMIN・石橋真帆・安本真也・関谷直也、“二重被災”が被災者にもたらす影響—令和 6 年能登半島地震 1 年後調査から—、日本災害情報学会第 30 回学会大会（2025 年 3 月 15～16 日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール（口頭発表））
- (32) 福井桃子・関谷直也、緊急時の命を守るための説得—走行中の車内で旅客に適切な行動を促す車内放送に関する研究—、日本災害情報学会第 30 回

学会大会（2025 年 3 月 15～16 日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール（口頭発表））

- (33) 三浦瑞貴・関谷直也、2018 年以降のロケーションデータから読み取る福島県双葉郡 8 町村の時系列変化、日本災害情報学会第 30 回学会大会（2025 年 3 月 15～16 日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール（口頭発表））
- (34) 鍵慶和・関谷直也、広報紙を用いた東日本大震災における「2 次避難」に関する探索的研究、東日本大震災・原子力災害第 3 回学術研究集会（2025 年 3 月 19～20 日、コラッセふくしま（口頭発表））
- (35) 多田健太・内田充紀・関谷直也、「災害を伝える」というコミュニケーション過程に関する研究、東日本大震災・原子力災害第 3 回学術研究集会（2025 年 3 月 19～20 日、コラッセふくしま（口頭発表））
- (36) 三浦瑞貴・関谷直也、2018 年以降のロケーションデータから読み取る福島県双葉郡 8 町村の時系列変化、東日本大震災・原子力災害第 3 回学術研究集会（2025 年 3 月 19～20 日、コラッセふくしま（口頭発表））
- (37) 吉田豊・根本豪己・山田拓実・開沼博、福島復興を再興する：双葉町・大熊町・富岡町・浪江町の飲食店事業者の語りから（3）「チャレンジショップ制度」について、日本災害情報学会第 29 回学会大会（2024 年 11 月 9 日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）
- (38) 花岡桃可・三木菜摘・洪瑋廷・奥山泰冴・根本豪己・原まりこ・関口裕士・開沼博、処理水海洋放出から 1 年の社会的影響 北海道のホタテ生産・加工に注目して、日本災害情報学会第 29 回学会大会（2024 年 11 月 9 日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）
- (39) 藤澤実波・松田直人・大塚舞優・根本豪己・網敷悟至・多田健太・丁可・開沼博、原子力災害被災地における地域医療の現状と課題—浪江町・大熊町・双葉町の町営診療所を中心に—、日本災害情報学会第 29 回学会大会（2024 年 11 月 10 日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）
- (40) 田中千福・中尾創・鍵慶和・奥山泰冴・根本豪己・網敷悟至・吉田豊・開沼博、福島県浜通り地域の子どもの取り巻く環境について—浪江町・双葉町・大熊町・富岡町へのヒアリングから—、日本災害情報学会第 29 回学会大会（2024 年 11 月 10 日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）
- (41) 根本豪己・吉田豊・山田拓実・開沼博、福島復興を再考する：双葉町・大熊町・富岡町・浪江町の飲食店事業者の語りから（4）「賃金設定」について、日本災害情報学会第 29 回学会大会（2024 年 11 月 10 日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）
- (42) 萩本秀樹・開沼博、発足間もない町内会に見る災害時の共助の機能—平成 30 年 7 月豪雨の被災地の事例—、日本災害情報学会 第 30 回学会大会（2025

年3月16日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール）

- (43) 佐藤彩乃・栗田雅彦・開沼博、ラジオはいかに災害情報インフラであり続けるのか「荒川区中学生調査」防災意識と情報行動の実態①、日本災害情報学会 第30回学会大会（2025年3月16日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール）
- (44) 田中大翔・遠藤李江・桃井有子・栗田雅彦・佐藤彩乃・開沼博、中学生はいかに防災の担い手になりえるか「荒川区中学生調査」の防災意識と情報行動の実態②、日本災害情報学会第30回学会大会（2025年3月16日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール）
- (45) 吉田豊・小野恵里歌・開沼博、情報都市化社会における都心の「アンテナショップ」の可能性—日本橋ふくしま館 MIDETTE の情報発信に着目して—日本災害情報学会 第30回学会大会（2025年3月16日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール）
- (46) 相本啓太・開沼博、福島へのアンコンシャス・バイアス:「Fukushima water」から見るメディアが無意識に生産する差別や偏見の分析、日本災害情報学会 第30回学会大会（2025年3月16日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール）
- (47) 小山田洸太・開沼博、「SNS ネイティブ調査」と災害時のメディアの必要性、日本災害情報学会第30回学会大会（2025年3月16日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール）
- (48) 安本真也・瀬川至朗・河井大介・開沼博・石橋真帆、東日本大震災前後の「福島」に関する全量日本語ツイートの量的分析—災害に関するキーワードに着目して—、日本災害情報学会第30回学会大会（2025年3月16日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール）
- (49) 柳瀬一樹・開沼博、チャリティーアニメ配信に見る地縁・地域コミュニティの変容と支援者の細分化について、日本災害情報学会第30回学会大会（2025年3月16日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール）
- (50) 山田拓実・吉田豊・根本豪己・開沼博、浜通り中4町のサプライチェーンに関する実態と課題—浪江町の飲食店を対象としたケーススタディ、日本災害情報学会第30回学会大会（2025年3月16日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール）
- (51) 中込達也・開沼博、「SNS ネイティブ世代」の情報行動と防災」、日本災害情報学会第30回学会大会（2025年3月16日、東京大学 法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）／大学院情報学環・福武ホール）

- (52) 根本豪己・吉田豊・山田拓実・開沼博、福島復興を再考する—双葉町・大熊町・富岡町・浪江町の飲食店に着目して——人手の調達における実態と課題、そのプロセス——、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（2025年3月19～20日、コラッセふくしま）
- (53) 吉田豊・根本豪己・山田拓実・開沼博、福島復興を再考する—双葉町・大熊町・富岡町・浪江町の飲食店に着目して——飲食店事業者の語りと実践に伴う持続性に向けた課題抽出—、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（2025年3月19～20日、コラッセふくしま）
- (54) 戸田隆翔・開沼博、高校生が捉える災害報道の信頼性、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（2025年3月19～20日、コラッセふくしま）
- (55) 松原理乃・開沼博、地震発生時における原子力規制委員会のポスの注目度と、クライシスコミュニケーション上の課題は何か？、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（2025年3月19～20日、コラッセふくしま）
- (56) 奥山泰冴・高村泰広・開沼博、原子力を主題としたSTEAM教育を受講する高校生が持つニーズと実態の調査、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（2025年3月19～20日、コラッセふくしま）
- (57) 折井孝浩・開沼博、福島第一原発事故の除去土壌問題におけるメディア報道の特徴と認知度への影響、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（2025年3月19～20日、コラッセふくしま）
- (58) 伊藤美生・開沼博、福島県双葉郡におけるご当地キャラクターの役割と住民とのつながりの変遷、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（2025年3月19～20日、コラッセふくしま）
- (59) 中込達也・開沼博、「SNS ネイティブ世代」の情報行動と防災、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（2025年3月19～20日、コラッセふくしま）
- (60) 志知泰昌・奥山泰冴・開沼博、自家用車を使用した長期的避難の実態と求められる支援策の検討、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（2025年3月19～20日、コラッセふくしま）
- (61) 安本真也・瀬川至朗・河井大介・開沼博・石橋真帆、東日本大震災前後の「福島」に関する全量日本語ツイートの量的分析、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（2025年3月19～20日、コラッセふくしま）
- (62) 葛西優香・関谷直也、復興過程のまちづくり～祭からの発展～、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（2025年3月19日、コラッセふくしま）
- (63) 山田修司、関係的自律としてのモビリティーズ：技術論の観点から、応用哲学会第16回年次研究大会（2024年6月1日、オンライン（Slack））

- (64) 山田修司・静間健人、モビリティの観点による震災伝承の検討、令和6年度環境創造センター成果報告会（2024年6月25日、コミュタン福島）
- (65) 静間健人・山田修司、日常生活における東日本大震災・原子力災害についての情報探索行動、令和6年度環境創造センター成果報告会（2024年6月25日、コミュタン福島）
- (66) 鈴木ミチル・杉山高志・安斎聡子・佐藤由紀・杉浦彰子・宮前良平・山田修司・静間健人、語りの形式の違いによるナラティブの時間の特徴—東日本大震災の被災者の語りを例に一、日本質的心理学会第21回大会（2024年10月19日、成城大学）
- (67) 静間健人・山田修司、東日本大震災・原子力災害に関する情報への接触状況についての調査、日本都市学会第71回大会（2024年10月26日、石巻魚市場）
- (68) 山田修司・静間健人、震災伝承施設の利用意向に関連する要因の探索的検討、日本都市学会第71回大会（2024年10月27日、石巻魚市場）
- (69) 山田修司、避難と帰還のあいだ：論点と展望、日本都市学会第71回大会特別セッション（2024年10月27日、石巻魚市場）
- (70) 静間健人・山田修司、東日本大震災・原子力災害に関する当事者意識と価値観—Web調査データの分析—、日本リスク学会第37回年次大会（2024年11月16日、静岡県立大学）
- (71) 山田修司・静間健人、震災伝承施設は観光対象か？—2024・2025年ウェブ調査報告—、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（福島：2025年3月19日、コラッセふくしま）
- (72) 松永妃都美・山田修司・高村昇、福島県の複合災害を継承する語り部の困難経験に関連する要因、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（2025年3月19日、コラッセふくしま）
- (73) 鈴木ミチル・杉山高志・安斎聡子・佐藤由紀・杉浦彰子・宮前良平・山田修司・静間健人、震災体験の語りの方法と時間の構造—福島県双葉町での語り部と街歩きの事例から—、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（福島：2025年3月19日、コラッセふくしま）
- (74) 静間健人・山田修司、東日本大震災・原子力災害に関する社会課題への人々の関心の風化、東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会（福島：2025年3月20日、コラッセふくしま）
- (75) 松永妃都美・山田修司・高村昇、福島県の複合災害を継承する語り部の困難経験に関連する要因、第95回日本衛生学会学術総会（2025年3月21日、ソニックシティ）

5 受賞歴

- (1) 中尾虹海・吉田佳乃子・弓削湧輔・谷山勇士朗・安田仲宏、東電福島第一原発事故後 5 日間における時空間情報の統合による放射線防護対策の検証 (1)、日本災害情報学会第 29 回学会大会 優秀発表賞 (2025 年 3 月 16 日)
- (2) 三宅真太郎・安本真也・関谷直也、スマートフォンにおける災害情報通知の特徴 ―Yahoo! JAPAN アプリ PUSH 通知の開封率の分析―、日本災害情報学会第 29 回学会大会 学会大会優秀発表賞 (2025 年 11 月 9 日 (口頭発表))
- (3) 多田健太・内田充紀・関谷直也、『災害を伝える』というコミュニケーション過程に関する研究、日本災害情報学会第 29 回学会大会 学会大会優秀発表賞 (2024 年 11 月 9 日 (口頭発表))
- (4) 福井桃子・関谷直也、緊急時の命を守るための説得―走行中の車内で旅客に適切な行動を促す車内放送に関する研究―、日本災害情報学会第 30 回学会大会 学会大会優秀発表賞 (2025 年 3 月 15～16 日 (口頭発表))

6 社会貢献活動等

(1) 出前講義

- ・ 安田仲宏、一般社団法人情熱クラブ「放射線の基礎知識・原子力防災」(2024 年 4 月 27 日、静岡市グランシップ)
- ・ 安田仲宏、愛知県東郷町「原子力について基礎を学ぶ・身近にある放射線を測る」(2024 年 6 月 3 日、福井原子力センター「あっとほうむ」)
- ・ 関谷直也、宮城第一高校 (2024 年 7 月 21 日)
- ・ 関谷直也、新潟高等学校 (2024 年 7 月 30 日)
- ・ 関谷直也、福島県立白河高等学校 (2024 年 8 月 7 日)
- ・ 葛西優香、災害時にも助け合えるまちづくり、一般社団法人金町みらい協議会「金町防災シンポジウム『金町×防災 日々の地域活動から生まれる災害時の助け合い』」(2024 年 6 月 22 日、東京理科大学葛飾キャンパス) [講師・パネリスト]
- ・ 葛西優香、樋渡・牛渡地区防災計画作成ファシリテーター (2024 年 5 月 12 日、2024 年 7 月 7 日)
- ・ 葛西優香、神奈川県議員・防災士 (視察研修)「復興過程のまちづくり」2024 年 8 月 6 日
- ・ 葛西優香、福島県立福島高等学校 福島研修授業「今、ここで考える、まちづくりと人生」(2024 年 8 月 27 日)
- ・ 葛西優香、関東学院大学 福島視察「被災地で考える地域防災」(2024 年 9 月 5 日)
- ・ 葛西優香、関東学院大学 地域創生特論 (福島)「福島県における東日本大震災・原子力災害の被災状況と防災上の教訓」(2024 年 10 月 10 日)

- ・ 葛西優香、東京都葛飾区自治町会連合会（視察研修）「防災研究と双葉郡の復興を新たな学びに」（2024 年 10 月 28 日）
- ・ 葛西優香、特定非営利活動法人ビーンズふくしま・ふくしま母子サポートネット「ママカフェ 防災講座」（2024 年 9 月 8 日、2025 年 1 月 18 日）

(2) 講演

- ・ 関谷直也、日本河川協会第 41 回水防研修「災害情報と心理」（2024 年 4 月 19 日、砂防会館）
- ・ 関谷直也、総合危機管理学会第 8 回学術集会「東京電力福島第一原子力発電所事故後の風評被害-リスク・コミュニケーションの観点から-」（2024 年 5 月 25 日、日本大学三軒茶屋キャンパス）
- ・ 関谷直也、一般財団法人 消防防災科学センター『市町村防災研修 オンライン版市町村職員防災連続講座』「災害情報と心理」（2024 年 8 月 6 日）
- ・ 関谷直也、日本農業研究所「東日本大震災と風評被害」（2024 年 10 月 16 日）
- ・ 関谷直也、JTS Tech Conference 2024～災害に強くしなやかな社会を実現しよう！～「日本の防災対策の陥穽」（2024 年 11 月 19 日）
- ・ 関谷直也、日本記者クラブ「南海トラフ地震臨時情報の課題-メッセージのあいまいさとエリートパニック-」（2024 年 11 月 24 日）
- ・ 関谷直也、原子力土木委員会 複合災害下での原子力防災における避難の課題と対応に関する研究第 2 回小委員会「新潟の原子力防災」（2024 年 12 月 16 日、オンライン）
- ・ 関谷直也、日本木造住宅耐震補強事業者協同組合『第 27 回 木耐協全国大会』「災害と心理」（2025 年 1 月 9 日、富士ソフトアキバプラザアキバホール）
- ・ 関谷直也、第 5 回 防災教育特別セミナー『関東大震災から 100 年～次の巨大災害に備えるために～』、一般社団法人 防災教育普及協会「南海トラフ地震臨時情報が社会に与えた影響-アンケート調査結果からみる社会心理-」（2025 年 1 月 23 日、大手町サンケイプラザ）
- ・ 関谷直也、2024 年度 巨大災害研究会・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム合同シンポジウム『スマートシティと防災-レジリエントな都市のデザイン-』「東日本大震災とその教訓から考える大規模災害対策」（2025 年 2 月 28 日）
- ・ 葛西優香、「個」が主体のまちづくり、東北 PPP 推進連絡協議会「PPP/PFI フォーラム in なみえ『公民連携による地域経営』」（2024 年 10 月 3 日）
〔事例紹介・パネリスト〕

- ・ 葛西優香、令和6年度福島県市町村教育委員会連絡協議会双葉支会教育委員研修会「防災研究と双葉郡の復興を新たな学びに」2024年10月28日
- ・ 葛西優香、環境省放射線の健康影響に係る研究調査事業・前田研究班成果報告会シンポジウム「新しい復興の形に向き合う：帰還者と移住者の共生的発展を目指して」2025年3月7日

(3) 企画・運営等

- ・ 安田仲宏、自治体職員向け原子力研修講座 in 福島、原子力文化財団・東日本大震災原子力災害伝承館（2025年1月27～28日）
- ・ 安田仲宏、東日本大震災・原子力災害伝承館での消防研修、原子力文化財団・東日本大震災原子力災害伝承館（2025年2月19～21日）
- ・ 関谷直也、東日本大震災・原子力災害全書編集委員会
- ・ 関谷直也、東日本大震災・原子力災害 第3回 学術研究集会 実行委員会事務局
- ・ 関谷直也、日本災害情報学会 第29回 学会大会 実行委員長
- ・ 関谷直也、日本災害情報学会 大会委員長
- ・ 開沼博、福島学カレッジ
- ・ 開沼博、対話福島
- ・ 開沼博、伝承館×東京大学共同研究「旧・帰還困難区域のまちづくりを考える」
- ・ 葛西優香、浪江町景観計画策定委員会・委員（2023年11月～）
- ・ 葛西優香、福島県防災基本条例（仮称）検討委員会・委員（2024年3月～）
- ・ 葛西優香、浪江町復興計画【第三次】後期基本計画策定委員会・委員（2024年6月～）
- ・ 葛西優香、公益社団法人 福島相双復興推進機構「大学生観光まちづくりコンテスト 2024～福島復興ステージ～」の本選審査員（2024年9月13日）
- ・ 葛西優香、福島県安全で安心な県づくり推進会議委員会・委員（2025年2月）
- ・ 葛西優香、2024年度企画展「長期避難と祭り」（2024年12月21日～2025年3月24日）〔企画〕
- ・ 葛西優香、伝統芸能保存団体代表者意見交換会（2024年8月28日、2025年2月22日）
- ・ 葛西優香、民俗芸能の実演&「太鼓たたこう」ワークショップ「ふたば・いいたて民俗芸能大集合！」（2025年2月22日、23日）〔企画・運営〕

- ・ 葛西優香、日本災害復興学会後援「第三回ふくしまボイス」(2025 年 3 月 23 日)〔企画・運営〕
- ・ 山田修司・杉安和也・松永妃都美・静間健人、日本都市学会第 71 回大会特別セッション「避難と帰還のあいだ」(2024 年 10 月 27 日、石巻魚市場)〔企画立案・運営等〕

7 メディア

- (1) 安田仲宏、NHK「原発 5 キロ圏内の待避施設 全住民の施設確保 5 か所にとどまる」(2024 年 4 月 1 日)
- (2) 安田仲宏、NHK「全国の原発避難計画 調べてみえた地域差とは」(2024 年 4 月 22 日)
- (3) 安田仲宏、電気新聞「原子力複合災害への備え 屋内退避「目的化」せずに」(2024 年 5 月 14 日)
- (4) 安田仲宏、福井新聞「敦賀と滋賀・高島結ぶ連絡道路「原子力災害対応に意義」福井大原子力研教授 敦賀で講演」(2024 年 11 月 16 日)
- (5) 安田仲宏、日刊県民福井「原子力防災テーマに初動対応重要性語る 敦賀で福井大教授」(2024 年 11 月 28 日)
- (6) 安田仲宏、福井新聞「原発事故 屋内退避、考えよう 8 日、敦賀でセミナー」(2025 年 3 月 5 日)
- (7) 安田仲宏、柏崎日報「UPZ はまず屋内退避 防災士対象 市が研修会 原子力災害時テーマ」(2025 年 3 月 25 日)
- (8) 安田仲宏、NHK WEB「原子力事故の屋内退避 期間や解除要件などまとめる 原子力規制委」(2025 年 3 月 28 日)
- (9) 安田仲宏、新潟日報「「屋内退避と避難」どちらも必要」(2025 年 4 月 4 日)
- (10) 関谷直也、NHK「能登半島地震 3 か月アンケート結果 専門家 行政が具体的復興計画示す重要性を指摘」(2024 年 4 月 1 日)
- (11) 関谷直也、NHK「能登半島地震 3 か月 “これまでの場所や自治体で暮らしたい” が 8 割 NHK など調査」(2024 年 4 月 1 日)
- (12) 関谷直也、NHK「能登半島地震 “自宅の耐震工事せず” 7 割以上 専門家「過疎地の耐震は全国的課題」」(2024 年 4 月 2 日)
- (13) 関谷直也、NHK「能登半島地震 被災者アンケート 7 割以上“自宅の耐震工事をしていなかった”」(2024 年 4 月 2 日)
- (14) 関谷直也、NHK「回答者の 7 割超 “耐震工事しなかった” (おはよう日本)」(2024 年 4 月 2 日)
- (15) 関谷直也、河北新報「原発と被災地／半島原発と複合災害(下)／生命線脆弱 よぎる震災／避難計画への疑念膨らむ」(2024 年 4 月 8 日)
- (16) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「原発避難、県が検討会 能登地震、知見生かす 再稼働議論の材料に 来月新設／新潟県」(2024 年 4 月 20 日)

- (17) 関谷直也、新潟日報「津波、原発事故時の避難 能登地震教訓に議論 県、有識者会議を設置へ 来月」 (2024 年 4 月 21 日)
- (18) 関谷直也、読売新聞東京朝刊「[防災ニッポン] マイ・タイムライン 水害避難 時系列で計画」 (2024 年 5 月 12 日)
- (19) 関谷直也、読売新聞東京朝刊「政府の「司令塔」発足 火山防災の底上げ 期待 観測や研究 国が推進」 (2024 年 5 月 12 日)
- (20) 関谷直也、毎日放送「南海トラフ地震臨時情報 認知度約 29% 流言 誤情報 陰謀論 (よんちゃんTV)」 (2024 年 5 月 28 日)
- (21) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「能登地震の知見、防災対策に 原発避難も対象 来月県の有識者検討会／新潟県」 (2024 年 5 月 31 日)
- (22) 関谷直也、信濃毎日新聞朝刊「国内短信＝新潟県、災害時避難を議論」 (2024 年 6 月 6 日)
- (23) 関谷直也、新潟日報「能登地震教訓防災力向上へ 県対策検討会が初会合 原発との複合災害など議論」 (2024 年 6 月 6 日)
- (24) 関谷直也、毎日新聞地方新潟「防災対策検討会：県防災計画見直しへ 知事「再稼働議論材料に」／新潟」 (2024 年 6 月 6 日)
- (25) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「「再稼働の議論材料」、初会合を念頭に知事 能登地震教訓、有識者検討会／新潟県」 (2024 年 6 月 6 日)
- (26) 関谷直也、読売新聞東京朝刊「孤立地域対策など協議 県防災対策検討会が初会合＝新潟」 (2024 年 6 月 6 日)
- (27) 関谷直也、読売新聞東京朝刊「防災マイスター講座 開講 陸前高田 新たに「地震火災」講義も＝岩手」 (2024 年 6 月 18 日)
- (28) 関谷直也、NHK「能登半島地震半年 仮設住宅入居者アンケート 9割が「居住環境」に悩み」 (2024 年 7 月 1 日)
- (29) 関谷直也、NHK「能登半島地震半年 仮設住宅入居者アンケート 専門家「住民に選択肢の情報提供を」」 (2024 年 7 月 1 日)
- (30) 関谷直也、NHK「困りごと“居住環境” 9割余 いまも続く避難生活 復旧・復興へ課題も (おはよう日本)」 (2024 年 7 月 1 日)
- (31) 関谷直也、河北新報「松山土砂崩れ 1 週間／表層崩壊？ 発生予測難しく／道路に亀裂、関連調査へ」 (2024 年 7 月 20 日)
- (32) 関谷直也、東京新聞朝刊「予測「難しい」警戒情報なく 松山・土砂崩れ 18 年豪雨で道路亀裂／市の工事と関連調査へ」 (2024 年 7 月 20 日)
- (33) 関谷直也、中日新聞夕刊「松山土砂崩れ 表層崩壊か 現場で市が工事 因果関係 調査へ 災害警戒情報 出ておらず」 (2024 年 7 月 20 日)
- (34) 関谷直也、毎日新聞地方愛媛「松山・土砂崩れ：松山・土砂崩れ 予測困難、警戒情報出せず 工事との関係調査／愛媛」 (2024 年 7 月 22 日)
- (35) 関谷直也、愛媛新聞「半島先端の針路 伊方原発陸路避難を考える (1) 退避施設 土砂災害の危険はらむ」 (2024 年 7 月 29 日)
- (36) 関谷直也、愛媛新聞「半島先端の針路 伊方原発陸路避難を考える (4) 近接 1 キロ通り域外へ 行政・識者の見解 県原子力安全対策課 放出前で時間猶予ある 環境経済研上岡代表 立地過酷」 (2024 年 8 月 1 日)
- (37) 関谷直也、NHK「南海トラフ「巨大地震注意」 専門家「不安は正しい 反応 自分に必要なものの準備を」」 (2024 年 8 月 9 日)
- (38) 関谷直也、NHK「「臨時情報」受け 地震への備え進む (ニュース 7)」 (2024 年 8 月 9 日)
- (39) 関谷直也、NHK「最大震度 6 弱 M7.1 鹿児島などで被害 南海トラフ「巨大地震注意」 (ニュースウオッチ 9)」 (2024 年 8 月 9 日)

- (40) 関谷直也、NHK「各地で被害も 「臨時情報発表」備えを おととい 宮崎県で震度6弱（おはよう日本）」（2024年8月10日）
- (41) 関谷直也、読売新聞東京朝刊「[スキャナー] ひずみ監視 強化 南海トラフ震源域 異常な変化 観測されず」（2024年8月10日）
- (42) 関谷直也、共同通信・社会「「地震起きる」7割意識と回答 南海トラフ臨時情報に、東大調査」（2024年8月14日）
- (43) 関谷直也、NHK「南海トラフ「巨大地震注意」アンケート “8割が情報見聞き” 大学の研究チーム調査」（2024年8月15日）
- (44) 関谷直也、NHK「呼びかけ終了 ” 備え継続を”（ニュース7）」（2024年8月15日）
- (45) 関谷直也、TBS「「巨大地震注意」間もなく終了 4人に3人”地震予知”と考える（Nスタ）」（2024年8月15日）
- (46) 関谷直也、宮崎日日新聞朝刊「南海トラフ臨時情報1週間／「身近に地震起きる」7割意識／東大調査、情報公表望む声」（2024年8月15日）
- (47) 関谷直也、四国新聞「「地震起きる」75%意識 東大調査、推進地域28府県 4割「空振りでも公表」」（2024年8月15日）
- (48) 関谷直也、下野新聞「臨時情報で東大調査／「地震起きる」7割超意識」（2024年8月15日）
- (49) 関谷直也、NHK「南海トラフ「臨時情報」 注意の呼びかけ終了 ふだんから備え（おはよう日本）」（2024年8月16日）
- (50) 関谷直也、TBS「4人に3人”地震予知”と考える（TBS NEWS）」（2024年8月16日）
- (51) 関谷直也、河北新報「南海トラフ「注意」／内容不確実 割れた対応／政府発信 工夫求める声」（2024年8月16日）
- (52) 関谷直也、宮崎日日新聞朝刊「南海トラフ臨時情報終了／不確実な内容 対応割れる／政府の発信力不足 課題山積」（2024年8月16日）
- (53) 関谷直也、山陽新聞「南海トラフ地震臨時情報 「可能性高まるが、必ず起きるわけではない」 不確実な内容 割れた対応 自治体や観光地 問われる政府の発信力」（2024年8月16日）
- (54) 関谷直也、佐賀新聞「巨大地震注意呼びかけ終了 不確実な内容、対応割れる 抜本的防災対策求める声も」（2024年8月16日）
- (55) 関谷直也、神戸新聞「臨時情報終了 「巨大地震注意」低い理解度 発生不確実、自治体など困惑 避難、耐震化抜本対策の指摘も」（2024年8月16日）
- (56) 関谷直也、神奈川新聞「南海トラフ臨時情報終了 低い認知度 課題山積 観光地、対応割れる ▽予知と勘違い ▽避難経路確認 ▽問われる発信」（2024年8月16日）
- (57) 関谷直也、産経新聞大阪「【水平垂直】南海トラフ、初の臨時情報…混乱の1週間 住民冷静、伝え方に課題」（2024年8月16日）
- (58) 関谷直也、熊本日日新聞「曖昧な情報、受け止めさまざま 抜本的地震対策、求める声も 南海トラフ地震の臨時情報」（2024年8月16日）
- (59) 関谷直也、中国新聞「防災 抜本対策の契機に 政府の南海トラフ注意情報 呼びかけ終了 認知度の低さに課題」（2024年8月16日）
- (60) 関谷直也、岩手日報「低い認知度 割れた対応 南海トラフ地震臨時情報 受け止め 政府の発信方法に課題」（2024年8月16日）
- (61) 関谷直也、京都新聞「インサイド 「巨大地震注意」 何すべきだった？ 「予知と勘違い」「普段通りで」受け止めさまざま 改めて避難経路確認／休校休園に役立てた例も 識者「政府は説明工夫」」（2024年8月16日）

- (62) 関谷直也、中日新聞「南海トラフ臨時情報終了 不確実な内容 割れた対応 政府の発信力不足も」 (2024年8月16日)
- (63) 関谷直也、沖縄タイムス「不確実な情報 対応割れる／南海トラフ「巨大地震注意」終了／政府の発信力不足 課題に」 (2024年8月16日)
- (64) 関谷直也、四国新聞「「巨大地震注意」解除 不確実な内容、対応割れる 抜本的防災対策の契機に」 (2024年8月16日)
- (65) 関谷直也、西日本新聞「読み解く＝地震臨時情報 どう生かす 南海トラフ 呼びかけ終了 不確実内容に対応割れ 政府発信力不足も 耐震、避難 見直す契機に」 (2024年8月16日)
- (66) 関谷直也、静岡新聞「表層深層＝不確実な内容 対応割れる 「巨大地震注意」に観光地 政府の発信力不足も課題」 (2024年8月16日)
- (67) 関谷直也、下野新聞「表層深層／不確実な内容、対応割れる／書き入れ時 観光地も揺れた／南海トラフ臨時情報／抜本的防災対策求める声」 (2024年8月16日)
- (68) 関谷直也、毎日新聞東京「クローズアップ：南海トラフ臨時情報終了 認知度低く、影響「予想以上」 鉄道の減速・運休、政府驚き」 (2024年8月16日)
- (69) 関谷直也、産経新聞東京「南海トラフ 措置終了 地震臨時情報 事前対応で差 行政に混乱 住民は冷静」 (2024年8月16日)
- (70) 関谷直也、毎日放送「4人に3人”地震予知”と考える (TBS NEWS)」 (2024年8月16日)
- (71) 関谷直也、琉球新報「南海トラフ地震注意 終了／不確実、対応割れ／抜本的防災求める声」 (2024年8月16日)
- (72) 関谷直也、神戸新聞「南海トラフ 臨時情報 82%肯定的 世論調査「1週間は妥当」69%」 (2024年8月20日)
- (73) 関谷直也、中国新聞「臨時情報 82%が肯定的 南海トラフ 共同世論調査 1週間「妥当」69%」 (2024年8月20日)
- (74) 関谷直也、愛媛新聞「南海トラフ地震世論調査 臨時情報 「肯定」82% 注意期間 1週間「妥当」69%」 (2024年8月20日)
- (75) 関谷直也、四国新聞「臨時情報 82%肯定的 南海トラフ巨大地震調査 1週間の期間「妥当」69%」 (2024年8月20日)
- (76) 関谷直也、沖縄タイムス「地震臨時情報 82%肯定的／南海トラフ「1週間妥当」69%／共同通信世論調査」 (2024年8月20日)
- (77) 関谷直也、京都新聞「南海トラフ臨時情報 82%肯定的 全国世論調査 1週間の期間「妥当」69%」 (2024年8月20日)
- (78) 関谷直也、下野新聞「南海トラフ地震世論調査／臨時情報 82%肯定的／期間1週間「妥当」69%」 (2024年8月20日)
- (79) 関谷直也、山陽新聞「南海トラフ 臨時情報 82%肯定的 共同通信世論調査 1週間「妥当」69%」 (2024年8月20日)
- (80) 関谷直也、NHK WEB特集「いまだ残る“フェイク”の影響 処理水放出から1年」 (2024年8月24日)
- (81) 関谷直也、NHK「処理水めぐり”誤情報” 放出開始1年 なぜ拡散？ (サタデーウォッチ9)」 (2024年8月24日)
- (82) 関谷直也、佐賀新聞「福島原発処理水放出1年 タンク林立、光景変わらず 保管量2.4%減どまり、かすむ廃炉目標」 (2024年8月24日)
- (83) 関谷直也、信濃毎日新聞「原発処理水放出1年 続く困難、見えぬ進展 中国は水産物輸入停止継続 デブリ試験的取り出し前に失態 廃炉先行き、一段と不透明に」 (2024年8月24日)

- (84) 関谷直也、神戸新聞「処理水減 年間 2.4%どまり デブリ回収で失態 廃炉遠く 中国、水産物の輸入停止継続」(2024 年 8 月 24 日)
- (85) 関谷直也、神奈川新聞「福島第 1 原発 処理水 6 万トン超放出／きょう 1 年、海水異常なし／続く困難、見えぬ進展／タンク林立解体手付かず 廃炉 目標に不透明感」(2024 年 8 月 24 日)
- (86) 関谷直也、中国新聞「タンク林立 見えぬ進展 処理水放出きょう 1 年 中国の輸入停止 解除未定 福島第 1 原発」(2024 年 8 月 24 日)
- (87) 関谷直也、西日本新聞「原発処理水 6 万トン放出 福島第 1 きょう開始 1 年 中国禁輸継続、埋まらぬ溝」2 (2024 年 8 月 24 日)
- (88) 関谷直也、中日新聞「福島第 1 原発 処理水放出 1 年 廃炉、禁輸解除 道筋見えず タンク林立 変わらず 政府 情報発信不十分」(2024 年 8 月 24 日)
- (89) 関谷直也、岩手日報「続く困難、見えない進展 タンク林立変わらず」(2024 年 8 月 24 日)
- (90) 関谷直也、秋田魁新報「福島第 1 原発処理水放出 6 万トン超 開始 1 年、海水異常なし」(2024 年 8 月 24 日)
- (91) 関谷直也、岩手日報「続く困難 乏しい進展 東電福島第 1 原発 処理水 海洋放出から 1 年 廃炉の行方 漂う不透明感」(2024 年 8 月 24 日)
- (92) 関谷直也、下野新聞「続く困難 見えぬ進展／原発処理水放出 1 年／タンク 林立の光景変わらず」(2024 年 8 月 24 日)
- (93) 関谷直也、長崎新聞「処理水放出 1 年／「廃炉完了」漂う不透明感／中国 輸入停止も「出口見えず」」(2024 年 8 月 24 日)
- (94) 関谷直也、時事通信「◎ 8 割認知も 2 割「行動せず」＝南海トラフ臨時情 報－対象地域の住民・東大調査」(2024 年 8 月 31 日)
- (95) 関谷直也、AERA「社会 不安の感情が流言を広げる 朝鮮人の犠牲者数は 「約 6600 人」」(2024 年 9 月 2 日)
- (96) 関谷直也、新潟日報「県防災対策検討会 津波避難の課題議論 能登地震 検証 車と徒歩、両立探る」(2024 年 9 月 5 日)
- (97) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「内陸部での徒歩避難を議論 能登地震受け 県防災対策検討会／新潟県」(2024 年 9 月 5 日)
- (98) 関谷直也、読売新聞東京「車利用津波避難 「ルール策定を」 県検討会 ＝新潟」(2024 年 9 月 5 日)
- (99) 関谷直也、毎日新聞地方新潟「防災対策：地震防災、修正不要 上越沖断 層帯 評価は想定内 県検討会／新潟」(2024 年 9 月 6 日)
- (100) 関谷直也、静岡新聞「臨時情報 7 割「冷静」 県内首長アンケート 「震 源地、規模で混乱懸念」 専門家「備え促す効果不十分」」(2024 年 9 月 8 日)
- (101) 関谷直也、静岡新聞「いのち守る・防災しずおか＝「冷静」内実は「何 もしていない？」 「経済に影響」発信弱腰 東京大大学院情報学環総合防 災情報研究センター長 関谷直也教授に聞く」(2024 年 9 月 8 日)
- (102) 関谷直也、静岡新聞「「備蓄を確認」本県は 3 割強 「行動変容は限定 的」 東京大大学院調査 南海トラフ臨時情報 初の発表から 1 カ月」 (2024 年 9 月 8 日)
- (103) 関谷直也、NHK「南海トラフ臨時情報 1 か月 専門家 “日頃からの 備えを再確認” のメッセージ伝わらず」(2024 年 9 月 9 日)
- (104) 関谷直也、NHK総合「南海トラフ地震臨時情報 初の発表から 1 か月 (ニュースウォッチ 9)」(2024 年 9 月 9 日)

- (105) 関谷直也、河北新報「南海トラフ臨時情報／防災意識「高まった」66％／29都府県世論調査／54％ 水や食料準備」(2024年9月10日)
- (106) 関谷直也、宮崎日日新聞「南海トラフ地震臨時情報発表／全国世論調査／依然83％肯定的／期間1週間「妥当」72％／仕組み「認識してなかった」61％／被害に危機感 8割」(2024年9月10日)
- (107) 関谷直也、神戸新聞「南海トラフ地震臨時情報1カ月 防災意識「高まった」66％ 29都府県世論調査」(2024年9月10日)
- (108) 関谷直也、熊本日新聞「南海トラフ地震臨時情報発表 防災意識「高まった」66％ 29都府県調査」(2024年9月10日)
- (109) 関谷直也、愛媛新聞「臨時情報 周知さらに 南海トラフ地震世論調査」(2024年9月10日)
- (110) 関谷直也、京都新聞「南海トラフ地震 初の臨時情報 京滋など29都府県 世論調査 防災意識 66％「高まった」 「気をつけて行動」49％」(2024年9月10日)
- (111) 関谷直也、河北新報「南海トラフ臨時情報／防災意識「高まった」66％／共同世論調査 半数超が備え」(2024年9月10日)
- (112) 関谷直也、静岡新聞「大自在(2024年9月11日・水曜日)＝事前情報」(2024年9月11日)
- (113) 関谷直也、朝日新聞東京「(時時刻刻)原発避難、危機感あらわ 能登で道寸断、首長「政府は指針を」 朝日新聞社調査」(2024年9月11日)
- (114) 関谷直也、新潟日報「[オピニオン 深掘り深読み]津波避難の在り方模索 県内自治体や町内会 車の使用含めて議論 行き先分散で渋滞回避」(2024年9月23日)
- (115) 関谷直也、東京新聞「「対策取った」2割程度 防災意識向上 効果低く」(2024年10月8日)
- (116) 関谷直也、NHK「原発事故時の避難計画を検証 茨城県が委員会設置し議論開始 原子力防災専門家ら出席」(2024年10月18日)
- (117) 関谷直也、NHK「住民の避難計画 検証委が議論開始(おはよう日本)」(2024年10月18日)
- (118) 関谷直也、NHK(関東)「住民の避難計画 検証委が議論開始」(2024年10月18日)
- (119) 関谷直也、毎日新聞地方茨城「東海第2原発：県避難計画検証へ 東海第2原発 有識者委初会合／茨城」(2024年10月18日)
- (120) 関谷直也、京都新聞「東海第2避難計画 県の有識者委検証」(2024年10月18日)
- (121) 関谷直也、朝日新聞地方茨城「避難計画検証委、「単独災害も検討」 初会合／茨城県」(2024年10月18日)
- (122) 関谷直也、長崎新聞「東海第2原発の避難計画を検証／茨城、専門家が初会合」(2024年10月18日)
- (123) 関谷直也、茨城新聞「避難計画検証委が初会合 東海第2原発 委員長に関谷氏 追加項目を議論」(2024年10月18日)
- (124) 関谷直也、東京新聞地方茨城「東海第2広域避難計画検証委 「被ばくしないよう守ることが大事」 水戸で初会合」(2024年10月19日)
- (125) 関谷直也、読売新聞東京「原発事故で広域避難 計画実効性を検証 委員会初会合＝茨城」(2024年10月19日)
- (126) 関谷直也、茨城新聞「《連載：2024衆院選 課題を追う》(3) 原発事故 どう備え 避難計画、実効性に不安」(2024年10月21日)

- (127) 関谷直也、茨城新聞「《記者手帳》広域避難に知見提供」(2024年10月30日)
- (128) 関谷直也、朝日新聞東京「論壇委員が選ぶ今月の3点」(2024年10月31日)
- (129) 関谷直也、建設通信新聞「海拔ゼロメートル地帯の防災対策検討/関東整備局ら」(2024年11月6日)
- (130) 関谷直也、新潟日報「新潟地震は災害報道の原点 発生60年でシンポ新潟中央区」(2024年11月10日)
- (131) 関谷直也、読売新聞東京「新潟地震60年 災害時 情報発信考える 防災シンポに市民ら200人=新潟」(2024年11月10日)
- (132) 関谷直也、朝日新聞地方宮城「(問う 女川再稼働) 屋内退避施設、大丈夫? / 宮城県」(2024年11月16日)
- (133) 関谷直也、新潟日報「能登地震・県検討会 避難場所、住民が運営を 周知も課題に」(2024年11月23日)
- (134) 関谷直也、読売新聞東京「緊急避難場所と避難所周知必要 防災検討会=新潟」(2024年11月23日)
- (135) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「緊急避難場所、周知を 県防災検討会 能登地震受け/新潟県」(2024年11月24日)
- (136) 関谷直也、朝日新聞東京「(論壇Bookmark) 犠牲出さぬ「夢」へ、臨時情報の戒」(2024年11月25日)
- (137) 関谷直也、NHK「「南海トラフ臨時情報」で防災対策は2割 専門家「対策の優先順位も再確認を」」(2024年11月26日)
- (138) 関谷直也、NHK「首都圏ネットワーク “防災対策した” 2割満たず」(2024年11月26日)
- (139) 関谷直也、電気新聞「南海トラフ、曖昧な情報発信課題/東大関谷教授、臨時情報巡り指摘」(2024年11月26日)
- (140) 関谷直也、日刊工業新聞「産業春秋/南海トラフ臨時情報、あいまいさが課題」(2024年11月28日)
- (141) 関谷直也、東京新聞地方茨城「マンスリー原子力施設 研究炉「JRR3」が自動停止」(2024年11月30日)
- (142) 関谷直也、毎日新聞東京「月議: 災害情報の難しさ=下桐実雅子」(2024年12月2日)
- (143) 関谷直也、新潟日報「能登地震・県検討会 報告書取りまとめへ 年度内めどに」(2024年12月4日)
- (144) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「県防災対策検討会、報告書「年度内に」知事、柏崎刈羽「議論の材料」/新潟県」(2024年12月4日)
- (145) 関谷直也、読売新聞東京「能登地震踏まえ防災対策検討会 県 3月末までに報告書=新潟」(2024年12月4日)
- (146) 関谷直也、日刊建設工業新聞「関東整備局/大雪時の道路通行止めや規制計画を3日前から発信、広報検討会が提言」(2024年12月10日)
- (147) 関谷直也、NHK「「北海道三陸沖後発地震注意情報」呼びかけ対象地域に暮らす人でも理解不十分」(2024年12月16日)
- (148) 関谷直也、NHK「「北海道・三陸沖後発地震注意情報」運用2年 「内容知っている」は対象地域でも2割」(2024年12月16日)
- (149) 関谷直也、NHK「後発地震注意情報 2年 周知が課題(おはよう日本)」(2024年12月16日)
- (150) 関谷直也、NHK(関東)「「北海道・三陸沖後発地震注意情報」運用から2年 “茨城・千葉も対象” 依然 浸透せず」(2024年12月16日)

- (151) 関谷直也、NHK総合「北海道・三陸沖後発地震注意情報 “茨城・千葉も対象” 浸透せず（首都圏ニュース 845）」（2024 年 12 月 16 日）
- (152) 関谷直也、NHK「首都圏ネットワーク 北海道・三陸沖後発地震注意情報 “茨城・千葉も対象” 浸透せず」（2024 年 12 月 16 日）
- (153) 関谷直也、NHK「「巨大地震注意」発表の改善策 専門家「端的な呼びかけを 内容の検討必要」」（2024 年 12 月 20 日）
- (154) 関谷直也、福島民報「除染土受け入れ先確保へ有識者会議 環境省」（2024 年 12 月 26 日）
- (155) 関谷直也、TBS「“南海トラフ地震臨時情報”で災害への備えはどう変わった？（Nスタ）」（2024 年 12 月 27 日）
- (156) 関谷直也、TBS「備えはどう変わった？”南海トラフ情報”に揺れた町のいま（TBS NEWS）」（2024 年 12 月 28 日）
- (157) 関谷直也、NHK「能登半島地震 1 年 仮設入居者「復旧・復興の進ちょく感じず」3分の2 NHK調査」（2024 年 12 月 31 日）
- (158) 関谷直也、NHK「能登半島地震 1 年 地域に残るか考えまともらず 専門家「行政は見通し示し復興を」」（2024 年 12 月 31 日）
- (159) 関谷直也、NHK「能登半島地震 1 年・アンケート 「将来への不安を感じる」 仮設入居者の 84%が回答」（2025 年 1 月 1 日）
- (160) 関谷直也、NHK「能登半島地震 1 年・アンケート 専門家 「復興の 1 丁目 1 番地は被災者の生活再建」」（2025 年 1 月 1 日）
- (161) 関谷直也、新潟日報「特集／《柏崎刈羽原発再稼働巡る 2025 年展望》「新たな安全神話」の懸念 福島事故並み想定せず 規制委や県新基準根拠に」（2025 年 1 月 3 日）
- (162) 関谷直也、建通新聞東京版「「複合災害」への対応検討 能登地震、大雨被害踏まえ」（2025 年 1 月 8 日）
- (163) 関谷直也、日刊建設工業新聞「国交省／複合災害への備え検討へ／能登半島の教訓踏まえ、有識者会議設置」（2025 年 1 月 8 日）
- (164) 関谷直也、東洋経済オンライン「南海トラフ地震「臨時情報」のお粗末な科学的根拠／責任が及ばないよう対策は自治体や企業に丸投げ」（2025 年 1 月 9 日）
- (165) 関谷直也、NHK「宮崎で震度 5 弱 専門家「南海トラフ巨大地震の確率 上がりも下がりもせず」」（2025 年 1 月 14 日）
- (166) 関谷直也、NHK「気象庁の降灰予測情報 「警報」検討も予測の難しさ課題 情報の活用方法含め議論」（2025 年 1 月 14 日）
- (167) 関谷直也、NHK「気象庁で初の会合 火山灰の予測情報 どう発表？（ニュース 7）」（2025 年 1 月 14 日）
- (168) 関谷直也、NHK「“最大で死者 23 万人余” 備えは（ニュースウォッチ 9）」（2025 年 1 月 14 日）
- (169) 関谷直也、NHK「“首都圏に火山灰” 予測をどう出す（ニュースウォッチ 9）」（2025 年 1 月 14 日）
- (170) 関谷直也、NHK「“去年 8 月と一連の地震活動”（おはよう日本）」（2025 年 1 月 15 日）
- (171) 関谷直也、NHK「火山灰予測どう発表 検討開始（おはよう日本）」（2025 年 1 月 15 日）
- (172) 関谷直也、新潟日報「県防災対策検討会 報告書次回まとめへ 原子力の集中議論なし」（2025 年 1 月 22 日）
- (173) 関谷直也、毎日新聞地方新潟「防災対策検討会：県防災検討会が報告素案議論へ 能登地震踏まえ／新潟」（2025 年 1 月 22 日）

- (174) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「4項目分け、意見網羅 能登地震の教訓生かす「検討会」／新潟県」(2025年1月22日)
- (175) 関谷直也、読売新聞東京「地震対策検討会 年度内に報告書＝新潟」(2025年1月22日)
- (176) 関谷直也、読売新聞東京「東海第二 避難計画 「県想定 妥当か」議論 委員会が第2回会議＝茨城」(2025年2月11日)
- (177) 関谷直也、茨城新聞「拡散予測の活用「妥当」 東海第2避難計画検証委」(2025年2月11日)
- (178) 関谷直也、新潟日報「避難情報周知、備蓄強化を 県防災検討会 能登地震受け報告書」(2025年2月19日)
- (179) 関谷直也、毎日新聞地方新潟「防災対策検討会：報告書まとめ知事へ 能登半島地震教訓に 県防災検討会／新潟」(2025年2月19日)
- (180) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「複合災害時、住民に原発情報を 能登地震の教訓生かす、県防災対策検討会報告書案／新潟県」(2025年2月19日)
- (181) 関谷直也、読売新聞東京「能登地震の教訓 検討会 報告書案 年度内知事に提出＝新潟」(2025年2月20日)
- (182) 関谷直也、朝日新聞東京「自治体8割、平均下回る 原発30キロ圏の住宅耐震化率 朝日新聞社集計」(2025年2月21日)
- (183) 関谷直也、新潟日報「能登地震 県防災検討会 津波避難の周知課題 知事に報告書」(2025年3月7日)
- (184) 関谷直也、建設工業新聞〔北陸工業新聞社〕新潟版「命守る防災のきっかけに／能登地震防災検討会が報告書／県防災局」(2025年3月7日)
- (185) 関谷直也、毎日新聞地方新潟「防災対策検討会：報告書に知事「備える」能登地震踏まえ 県防災検討会提出／新潟」(2025年3月7日)
- (186) 関谷直也、朝日新聞地方新潟「複合災害「屋内退避できぬ場合も」 関谷東大教授、規制委の報告書案「不十分」／新潟県」(2025年3月7日)
- (187) 関谷直也、読売新聞東京「防災 津波避難など要望 検討会報告書 「5項目」知事に＝新潟」(2025年3月7日)
- (188) 関谷直也、東奥日報「北海道・三陸沖後発地震注意情報 防災と日常生活 重い両立 南海トラフ情報で損失も」(2025年3月8日)
- (189) 関谷直也、TBS、毎日放送「北海道・三陸沖後発地震注意情報(Nスタ)」(2025年3月9日)
- (190) 関谷直也、TBS「北海道・三陸沖後発地震注意情報(TBSNEWS)」(2025年3月10日)
- (191) 関谷直也、河北新報「北海道・三陸沖 地震注意情報発令されたら…／防災と日常 両立手探り／市町村／行事や休校 判断困難」(2025年3月10日)
- (192) 関谷直也、TBS「東日本大震災 発生から14年(THE TIME)」(2025年3月11日)
- (193) 関谷直也、岩手日報「★次への備え★ 北海道・三陸沖後発地震情報時催し開催、休校9割未定 本県含む7道県 182市町村調査 自治体半数が統一指針要望」(2025年3月18日)
- (194) 関谷直也、TBS、毎日放送「報告書 富士山大噴火“除灰”に数十年(Nスタ)」(2025年3月21日)
- (195) 関谷直也、産経新聞東京「2週間分の備蓄求め 基本在宅で生活継続を 富士山降灰指針」(2025年3月22日)
- (196) 関谷直也、福島民報「復興を問う ～国との温度差～ 先行き 支援継続は不透明 「必要性 強く発信を」」(2025年3月23日)

- (197) 関谷直也、高知新聞「防災の新視点紹介 高知など全国新聞社が収集 東京」(2025年3月25日)
- (198) 関谷直也、静岡新聞「防災 新視点で討論 ラグビー元日本代表や語り部児童 都内でシンポ」(2025年3月25日)
- (199) 関谷直也、福島民報「防災 身近な備えから 東京でサミット 震災教訓に知識更新」(2025年3月25日)
- (200) 関谷直也、建設通信新聞「洪水時の排水議論/ゼロメートル地帯防災検討会/関東整備局ら」(2025年3月28日)
- (201) 開沼博、NHK福島放送ラジオ「ふくどん」レギュラー出演
- (202) 開沼博、電気新聞うえいぶ連載
- (203) 葛西優香、福島民報「浪江で災害図上訓練 樋渡・牛渡行政区」(2024年5月12日)
- (204) 葛西優香、福島民友「県、浪江の防災支援 双葉郡初地図使い支援考える」(2024年5月12日)
- (205) 葛西優香、ぎょうせいオンライン「地域の助け合いが自分と家族の命を守る第一歩!〜「地区防災計画」の作り方〜(連載)」(2023年4月〜2024年10月24日)
- (206) 葛西優香、福島民友「福島芸能復活の歩み」(2024年12月22日)
- (207) 葛西優香、福島民報「双葉の文化守る姿紹介」(2024年12月22日)
- (208) 葛西優香、ふくしまFM「キビタンスマイルラジオ」(2024年12月23日)
- (209) 葛西優香、毎日新聞「双葉の祭り次代につなぐ」(2024年12月24日)
- (210) 葛西優香、NHK「はまなかあいづ TODAY」(2025年1月7日)
- (211) 葛西優香、福島中央テレビ「コジてれ! Chu! 阪神淡路大震災から30年」(2025年1月17日)
- (212) 葛西優香、福島テレビ「テレポートプラス 阪神淡路大震災から30年」(2025年1月17日)
- (213) 葛西優香、福島民報「被災地の民俗芸能」(2025年1月23日)
- (214) 葛西優香、朝日新聞「伝統芸能の継承 被災地再生の絆」(2025年1月29日)
- (215) 葛西優香、朝日新聞「30年 私の被災地支援〜『阪神・淡路』を経験―東北に移住し活動」(2025年2月17日)
- (216) 葛西優香、福島テレビ「県政テレビ番組 ふくしま調査隊 『東日本大震災・原子力災害伝承館企画展『長期避難と祭り』開催中』」(2025年2月22日)
- (217) 葛西優香、とうほう・みんなの文化センター ふくしま文化情報「コミュニティ復活を目指す被災地域の奮闘をたどる」(2025年2月25日)
- (218) 葛西優香、日本テレビ「DayDay.」(2025年3月11日)
- (219) 葛西優香、NHK「列島ニュース」(2025年3月12日)
- (220) 松永妃都美・山田修司、福島民友「語り部『積極的に活動したい』79%」(2025年11月1日3面)
- (221) 松永妃都美・山田修司、福島民報「活動継続難しい44%」(2025年11月1日2面)
- (222) 山田修司・松永妃都美、読売新聞「語り部4割継続『難しい』」(11月18日付27面)